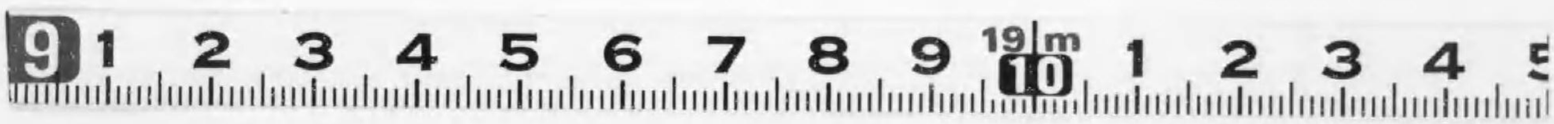

517
347

バーナード・ショウ作

大藤豐譯

結婚哲學

東京 聚英閣

大正
15. 7 29
内交

517-347

結婚哲學

バーナード・ショウ作
大藤豐譯

千九百八年の春の或る晴れた朝、チェルスイの監督の官宅内のノルマン風の臺所が、非常に手廣く清潔で立派で衛生的に見える。

此處の監督は幸にも十二世紀の官宅に住んでゐる。其の官宅も幸にも、十五世紀のゴチック風に切り更へられたり、十八世紀の切石積にけづり更へられたり、又十四世紀圓天井裝置の洋傘式建築法を重んじてる十九世紀の建築師乃至ヴイクトリヤ時代の設計家に復舊されるのを免れた。現住者エイ・チエルスイ非公式の名アルフレッド・ブリッヂノースはノルマンづくりの眞價と知つてゐる。彼は自分の居所の不快さを言葉巧みに訴へて、英國々教々務員より若干の修繕料をせしめ、其金で壁紙やペンキや仕切やヴイクトリヤ時代の指物師が切放しの樫の太黑い梁をつゝみかくすに用ひた型の鈍地の美しい外被を取除き、其から其他前住者達がノルマン要塞内を住心地よく體裁よくしようとした總ての工夫を取除いてしまつた。これはいつまでも保つ樣に造られた家である。壁や梁がバベルの塔をのせて大夫丈な位太い所は、宛も其を建てた人達が我々の近代思想を豫知し其を侮蔑するの余り、競爭的に利益に目を付け、最低價格の入札書を差出し、全建築が其自體の重量で顚覆するを防ぐに要する最少限度の材料を科學的に計算する代りに、神の榮光

の爲めに建てる家に最大限度に材料を濫費して見せんと決心してかゝつたかの樣であつた。

臺所は監督の氣に入りの室である。と云つて彼が嗜好の卑しい男だと云ふわけでは全然無い、只臺所が其家の内で最も立派な室の一つだからである。監督には其處で自分の料理をさせるだけの收入も無ければ食ひ氣もない。壁の高い所に窓があつて南北に向いてる。北の窓が一番大きい故、其處から室を覗き込むと眞向ひが南の壁で、小さいノルマン風の小窓が幾つもあるし、左手の隅に近く開いた入口がある。此の入口から庭園や、日向にある庭椅子が一寸見える。右手の隅に入口があつて圓天井の圓形室に通じ、其處には螺旋形の階段があつて塔の中を通つて官宅の階上に通じてゐる。右手の壁にすてきに大きな爐があり、鏃鶴位の大きな炙串や時代がゝつた鐵や眞鍮の器具の蒐集物がついてる。此道具は元から此爐についてたものとして通用するが、實は監督が時々古道具屋で掘出して來たのである。左手の壁の端近く小さなノルマン風の入口があり、曾つて食器室であつた監督の書齋に出入する樣になつてる。ズツと離れて大きな樫の箱が壁に寄せて立つてる。臺所の中央に大きな木の食卓が横に据ゑられ、其の周圍に大きな薦敷の椅子が向側に四脚、此方側に三脚、左右の端に二脚宛、都合十一脚ある。爐邊には手摺づきの大椅子がある。床には厚い纖維の筵が敷いてある。其外に家具とては時計が一つあるきりだが、其の時計面は木製で盥の底位大きく、分銅も鎭の振子も其に應じて大きい。然し監督は疾うに時計を動かさうとすることを斷念した。今は樫の箱の上に懸つてゐる。

現在、臺所にゐるのは監督の奥方ブリッヂノース夫人で、出入の八百屋ウイリアム・コリンス氏に話をしかけてる。八百屋は朝未だ早いのに夜會服を着てゐる。ブリッヂノース夫人は物靜な幸福さうな五十がらみの、落付いた優しい面白味のある婦人で、顏立は上品で、美しい灰色の髮には澤山の銀線が交じつてゐる。彼女はお祝儀の身仕度でゐるが、爐端の大椅子に坐つて、タイムス紙を讀みながら呑氣にかまへてゐる。

コリンスは腰の邊に一寸若々しい所のある中老人である。其の八字髯の下端には喜劇の主人公ダンドリーリ式のなまめい所がある。彼は愛想のよい男で、其の申し分無きものごしは、自他共に許してる樣な社會的地位にある貴婦人達に、生活必需品を賣り込む店を持つてる者にして初めて習得出來るものである。彼は油斷の無い灰色の目をした、人に不安の念を起させない男で、相手に腹を立てさせずに勝手なことを云ふ能力がある。何故かと云ふに彼の語調にはお免を被つて

申し上げますと云ふ様な意がこもつてるからである。其と同時に決して卑屈で無い、どつかと云へば侠氣で思ひやりのある方だが、左様かと云つて世間的立場に立つて社會的差別と眞面目に承認することを決して忘れ無い。彼は樫の箱に向つて一かさねのナプキンを算へてる。

ブリツヂノース夫人は落付拂つて新聞をよんでる、コリンスは算へてる。黑鳥が一羽庭で囀つてる。ブリツヂノース夫人は膝にタイムスを置いて、暫時コリンスをしけ〳〵見る。

夫人。コリンスや、お前さんこんな時にちつとも苦にならないの？

コリンス。ハイ、お蔭様で。五人のお嬢様方のお嫁入りのお手傳した私が、末のお嬢様の結婚式のお手傳が苦になると申上げちや冗談となりますよ。

夫人。妾、いつも云つてるんですよ、お前さんは感心な人だつて。

コリンス。（顏を赧くせぬばかりに）いやどうも。

夫人。左様ですよ。私には何一つ仕度することが出來ないの——結婚式や御馳走でさへ——すれば何かかにか故障が起るんですもの。

コリンス。そんなことなさるには及ばないぢや御座いませんか。八百屋と呼びつけて下さい、其

が骨折らずに家事を執る秘訣で御座います。ヘエ、ヘエ、其が八百屋の商賣です。お宅様の様なおうちでは愉快一方にしてらつして下さい、左様すりや奥様と八百屋の兩爲めで御座います。

（夫人はお世辭の返禮に頭を下げる。）皆様お姑様のことをかれこれ冗談口きゝます様に、八百屋のこともかれこれ冗談口きゝますが、どちらも無くちや、やつて行けないんで御座いますよ。

夫人。お互の間に妙なつながりがあるものだねえ。

コリンス。ヘエ、ヘエ、種々なつながりが御座いまして。貴女様は監督さんの奥様にしちや至極人づきの宜しい方ですが、私の存じてるます監督さんの奥様の中には、ほんとに腹が立つて文句を云つて上げたい様な方も御座います。所が貴女様に向つてウツカリして自分の身分を忘れる様な人間はありませんなあ。

夫人。コリンス、お前さんはお世辭者だよ。お前さん、云はなくともいつもの通り式の食事の指圖をして呉れるだらうね。

コリンス。ヘエ、ヘエ、共りやもう。いつでも致します。あのハイカラな周旋屋が未だ見たことの無い様な立派なお客様を仕立てゝ寄越すでせう。公爵様方だとおまちがひなさるかも知れませ

んよ。御覽なさいまし、御親戚の方が其人達と握手して家内の様子をおたづねになつたり――お婦人方が『此前お目に掛つたのはどこで御座いませう？』とか又種々なトンチンカンなことをおつしやいますから。其れが私の商賣の祕訣で御座います。いつまでも私を出入の八百屋と定めといて下すつて差支御座いません。誰が誰であるやら無いやらが容易に分らない當世が私にとつて仕合せなんで御座います。（彼は塔から出て行くと、すぐ一寸歸つて來て取次ぐ）將軍がお見えになりました。

夫人は立つて義弟を迎へる。其人は正裝に澤山の徽章勳章を佩用し、金色さんらんとして入つて來る。ブリッヂノース將軍は、ガッシリした五十男で大きな勇敢な鼻孔、鐵の様な口、忠犬の目、多分に單純にして威嚴ある生來の性格の所有者である。彼は斯くある様にと念入りに訓錬された通り、無學愚鈍で然も偏見を持つてゐる。だから彼が明かに善意を以てしてる事でも盛んに迷惑にする場合には我慢ばかりもしてゐられない。併し其の様になつた責任は社會にあつて彼自身には無い。若し彼がコリンスだけの社交の機會を享樂したら、コリンス以上惡くはならなかつたらう。彼は夫人が爐を背にして立つてゐる爐端へやつて來た。

夫人。お早う御座います。（兩人握手する。）も一人の姪を父親に代つて婿に渡して下さい。こんどのでおしまへです。

將軍。宜う御座んす。老武者の叔父御のすることは、自分より好運な男達に花嫁を引渡すだけなのかなあ。ソノ――（彼は息詰る）姉様の妹は未だまゐりませんか。

夫人。何んだつてあなたはレズビヤのことをいつも私の妹なんて云ふんですの？　あなたの惡戯の内でも其が一番彼の子をいやがらせるのが分らないんですか。

將軍。エッ、惡戯ですつて。ぢや其んな癖は直ほす様に心掛けませう。でも其位の一寸したこと勘忍して呉れてよささうに思ひますねえ。あの人の名前は私の喉にひつかゝつて出て來ないことはあの人だつて知つてるんですよ。あの人をレー（泣き出さんばかりになる）レと呼ぶ――ウム、あの人の名前を呼ばうとして、泣き出して恥をさらすより、いつそ姉様の妹と呼んだ方がましです。（彼は手近な卓の端の所へ坐る。）

夫人。（將軍に近づいて其をからかふ。）あれまあ、ボックサーさん、ほんとに！　私達はもう子供ぢないぢやありませんか。あなただつて一生失戀してゐられないでせう。あの子がお斷りし

てから、かれこれ二十年になるぢやありませんか。共にあの子がお斷りしたのはあなたが嫌だからで無くて、只あの子が嫁に行けないからだと云ふことは御承知のくせに。

將軍。所が駄目なんです。私は未だに彼の人を愛してゐます。而してあの人に逢へば共通りに云はないでは居られないのです。左樣云ふとあの人が私を避けるのは分つてゐるのですけれど。(彼は泣かんばかりになる。)

夫人。あなたが左樣おつしやるとあの子は何んと云ひます?

將軍。何時になつたら私の其の癖が直るかしらつて云ふだけです。何時になつても其癖は直らないと云ふことがいよ〳〵分つて來ました。

夫人。多分あの子と結婚したら直るでせう。でもあなたは其儘でいらんしつた方がようございますよ。必度。

將軍。私は生甲斐無い人間です。厄介なもうろく爺になつてほんとに濟みません。でも結婚式に此家へ來て——此の有樣を見——ム、ム、昔を思ひ出しながら——いつも外の者に花嫁を渡して、自分には渡されたことが無いのを思ふと——(だしぬけに立ち上り。)庭へ出て煙草にまぎ

らしてもようございますか。

夫人。さあ、どうぞ。

コリンス祝の菓子を持つて歸つて來る。

夫人。あゝ、お菓子が來ました。フローレンスの時のと同じだらうね。

將軍。こりやたまらない。(庭の入口から急いで出る。)

コリンス。(菓子を卓の上にのせながら。)まあ、あれをごらんなさいまし、奥樣。お宅樣の結婚式ではこれ迄いつも父親代理をおつとめになつたくせに、將軍は未だに祝のお菓子が見てゐられないなんて、妙ぢや御座いませんか。これを見るといつも同じ樣にこたへると見えますねえ。

夫人。さうねえ。彼の人がこたへるのもこれでおしまへですよ。お前さんもこれでうちのものを皆嫁けたことになるのだねえ。(彼女は再びタイムスを取り上げもとの席へ坐る。)

コリンス。お妹樣が殘つておいでですよ。立派なお人柄ですなあ、グランサムのお孃樣は。是非その方の結婚式のお支度を致したいもので。

夫人。あの子は結婚しますまいよ。

コリンス。ヘエ、皆様左様おつしやいますよ。奥様も私も左様云ひました、賭をします。兎に角私は云ひました。

夫人。いゝえ、妾は樂に結婚したの。お前さんも同じことだと思つてゐたのに。

コリンス。（考へ込んで）所が樂で無かつたので御座います。家内の奴が無理に左様したんであ。彼奴には樂であつたでせう、彼奴はホントの世話女房つて奴ですから。彼奴はいつも家内の者共を自分の目の屆く所へ置きたいんです。家の者共が無事に家にゐて、戸締がしてあつて、ラムプが消えてゐるのを見る迄決して床につかうとしないんです。汽車に乘ればいつも手荷物を自分の側に置きたがるし、運轉手の所へ行つて氣を付ける樣に請合はせるんです。彼奴あ生れ乍らの良妻賢母です。だものだから子供達が皆家を逃出しちまひました。

夫人。お前さん逃げ出したくなつたことがあるの？

コリンス。エ、、もう、大ありで御座います。でも愈ゝとなると彼奴を怒らせるのが可愛想になるのです。彼女は物にさとい、情愛深い、心配坊で、育ちから自由と云ふものが人樣によつてどれ程大切であるか分らないんです。あれが世の中で知つてるものは家庭生活切りですからな

あ。森の中へ放してやれば死んでしまふ籠飼ひの小鳥の樣なものです。彼奴で我慢する位私の樣な呑氣者には何でも無い、嫌になつたから逃げ出したのだと思つたらどんなに氣を惡くするか知れない、左樣思つていつも逃げ出すのを其次迄でのばして、たうとうちつとも逃出したことがありませんでした。あんなに世話を燒いてもらうのは私の爲めにはいゝんですけれど、其が爲めに一くせある舊友、殊に女達との交際がすつかり無くなつちまふですからなあ。彼奴は決して其人達にすきを見せないんですよ、まつたく。夫婦がいつ迄も鼻につかないで居るには互に定休日を出し合はなくちやならないと云ふことがあれには分らんのです。彼奴がいやになつたと云ふわけぢやありませんけど、どうも家庭生活がいやになることが時々ありました。實際私は舍弟のヂョーヂをよく羨ましがりました。

夫人。ぢやヂョーヂは獨身者なんですね？

コリンス。左樣で御座いません。弟はすてきに綺麗な女を女房にしましたが、其女と云ふのが、ほんとになさらないかも知れませんが、移り氣な、世間で云ふ多情つて奴で御座いました。而して惚れたとなると自分で自分が如何にもならないらしう御座いました。二三日ボンヤリして

何でもないことに泣いてゐるかと思ふと、すつくと立ち上つて云ふのです——誰が聞いてゐやうが一向お構へなしで——『ヂョーヂさん、妾はあの人の所へ行かなくちやなりません。』而してお暇頂きますとも御免を蒙りますとも云はずに、亭主を捨てゝ家を出て行つてしまふんです。

夫人。でも何かい、一度ならず出て行つたと云ふのかい？　而してまた歸つて來たの！

コリンス。ヘエ、私の耳に入つたゞけでも五度程出入りしました。共後はヂョーヂも馴つ子になつて私に聞かせなくなりました。

夫人。でも、ヂョーヂは其の都度に戻したのかい？

コリンス。ヘエ、外に仕様が無いぢやありませんか。四度に三度は相手の男が其日の夕方何事も無く送つて來るし、そでない時には男の方が捨てゝ逃げてしまふんですもの。此方が持ちかけて行くと、相手の男がそんな犧牲は御免だとえらがつて巧に肱鐵砲を食はした、共の仕草に泣いて歸つて來た女房を、人情ある亭主なら慰めてやるより外仕方ありますまい。ヂョーヂは再三再四女房に、家にゐて一寸高く止つてゐさへすりや、連中が朝から晩まで側を離れないと敎へ

たら、女房もたうとう聞き分けて亭主の云ふ通りにしました。ヂョーヂはしよつちう變つたお客様のあるのが好きなんです。

夫人。まあ、いやらしい女だこと。お前さん左樣思はない？

コンリス。（公平に）ヘエ、世帶向の御婦人方は大抵左樣お考へになり又左樣申します。併し私はヂョーヂの女房は種々な經驗を經てすてきに面白くなつたと辯護し度う御座います。共處が移り氣な女の固い女を負かす所ですよ。私の古女房をごらん下さい。彼女は男と云へば私より外知らないのです。だから私を外の男達に比較べて見られない故、此の私がホントに分らないんです。勿論自分の親達のことは知つてゐますが——エ、それが、親達のことは皆樣同樣一生の半分しか知らないと申しませうか、親達にも若い時があつたと云ふことを考へたことが無いのです。それから子供達のことは子供だとばかり思つて、一人前の人間だと決して思はないので、逃げられてからびつくりして一二週間も悲歎に暮れてゐた樣な譯で御座います。所がヂョーヂの家内は、年が寄れば寄る程だん〳〵若い男が好きになつて來るので、老若樣々な大勢の男達の氣が分る樣になつて來て、お蔭で確に面白くもなり利口にもなりました。で、うちの婆

さんでは間に合はない様な事が起るとよくあの女の智慧を借りたもので御座います。

夫人。お前さん、他所へ智慧を借りに行つたなんてお神さんに云へはしまいね。

コリンス。其りやもう奥様、私は家の奴にすつかりまるつてるので、あれの氣に逆ふ様なことは決して申しません。あれはピンからキリまで良妻賢母ですから、家の外へ出しちや一人前に通用しませんや、通用するのは市場で物を買ふ時位のもので御座います。

夫人。お神さんはヂョーヂの家内をいゝと思つてるの？

コリンス。エ、もう、彼の女はうちの奴を丸めてるます。あの女には丸めようと思へばどんな人間でも丸められるのです。其れにあの女は宗教のことに非常にやかましいのです。而してあの女は千里眼なので御座います。

夫人。（びつくりして）千里眼！

コリンス。（平氣で）ヘエ、左様で御座います。何あに、只催眠術をかけさへすりや、忽ちうつとりとなつて不思議なこと計りを申します、自分のことは申しませんが、人間全體が一緒になつて相手に叱言を云つた様な風です。エ、そりや素敵なんですよ、奥様。一體あの女に出來ない

藝當なんか一寸考へつきませんなあ。

レズビヤ、グランサムが塔から入つて來る。身長の高い、ホッソリした、綺麗な女盛り——即ち三十六歳から五十五歳迄の——貴婦人である。所謂育ちのよいと云つた様子をし、又様子を見せようと最近の流行にかまはずに至極念入りに着付けをし、自分の女振に自信を有し、若いはづかしがりの連中には怖はがられ相な、長い自分の指の尖迄氣むづかしい、どつちかと云へば思ひやりのあると云ふより寛大に構へて面白がつてると云つた風の女である。

レズビヤ。姉様、お早よう御座います。

夫人。お早よう。（二人キッスする。）

レズビヤ。コリンスや、お早よう。お前さんほんとに元氣な様子をしてるのねえ。其から、まあ若いこと。（彼女は中央の椅子を卓より引離して其に坐る。）

コリンス。いやなに、結婚式の折には商賣柄こんな様子をするだけなんで御座います。若し私が政治向の晩餐會に出てる所をごらんになつたら、七十近くに見えませう。（懐中時計を見なが

ら）奥様、間が無くなりました。奥様からと申してお嬢様にお召替をちいとお急ぎになさる様申上げても宜しう御座いますか。

夫人。どうぞ。

コリンス菓子を持つて塔から出て行く。

レズビヤ。可愛いコリンス爺やだこと。今朝も姉様に何かお話を聞かせたんですか。

夫人。エ、、お前さん一寸遲かつたばかりに、特別ゾッとする様な彼人の作り話をきゝそこなつたわねえ。

レズビヤ。ヂョーヂのお神さんのことですか。

夫人。さうよ。其の人が千里眼だつて云ふの。

レズビヤ。彼の人はほんとにヂョーヂのお神さんを作り出したのか、其れとも何か本の中からぬすんで來たのかしら。

夫人。ほんとにねえ。

レズビヤ。兄さんはどこ？

夫人。書齋でどし〳〵新しい本を書いてるの。彼の人はもう、娘を嫁にやる位、朝飯に玉子一つ食べる程にも思つてないんですからねえ。

將軍煙草で落ち付いて庭から入つて來る。

將軍。（執念深い愛嬌をたゝえながら）ア、、レズビヤさん。今日は。（兩人握手、將軍はレズビヤの右手の椅子に座る。）

夫人塔より出て行く。

レズビヤ。ボックサアさん、今日は。貴方は丸で祝言のお菓子の様にピカ〳〵してるわ。

將軍。私は何か儀式の際には下級將校の見せしめの爲めに、軍服着用で出る用心がけてるのです。これは英國の習慣では無いが、左様しなくちやならない所です。

レズビヤ。どんなにたくさん勇ましい働をなすつたか、みんなこの勳章で分るわ。

將軍。左様ぢや無いんです、レズビヤさんこれはみんな自暴自棄と臆病のしるしなんです、早い頃のはみんな戰死しようとしたために貰つたのです。何故だかあなたには分るでせう。

レズビヤ。でもあなたは不死身であつたんだわねえ。

將軍。左様です。不死身だつたんです。銃剣は私のしい金で曲がるし、鐵砲の弾は體を通りぬけて痕をとゞめなかつたのです。其處が近頃の鐵砲玉の一番悪い所なのです。私は未だダムダム弾にあたつたことが無いのです。未だ尉官の頃にはせめて戰場で死線に身をさらす權利があつたんだけれど、もう一箇の將官となつては其手段すら駄目になつてしまひました。(口説上手にだん〳〵女の方へ椅子を寄せながら。)ねえレズビヤさん、十度目でこれきりだが——

レズビヤ。(話の腰を折つて)二年前、フローレンスの結婚の朝も仰言つたわ、『九度目でこれきりだが』つて。

將軍。レズビヤさん、二人共二つ年を老つたよ。私は五十で、あなたは——

レズビヤ。ハイ知つて居りますよ。だからつてだめねえ。貴方は何時になつたら老込んで、ハヽつて返事なんかきゝたがらなくなるでせうねえ。

將軍。いつまでたつても止めませんよ。レズビヤさん、あなたは未だ、斷るほんとの理由をきかして呉れないぢやありませんか。一度は私も外にいゝ人があるのだと思つたのです。隨分大勢あなたにくつついてゐましたからなあ。でも今では皆斷念して結婚してしまひました。(尚更近く屈み寄りながら)レズビヤさん、あなたの祕密を云つて下さい。何故——

レズビヤ。(忌ま〳〵しげに鼻をクン〳〵させながら)マアー! あなた煙草を喫つてたんだわ。

(立つて爐端の椅子の所へ行つて)嫌な人、側へ寄つちやいけません。

將軍。一服やつたからこそ結構臆せずに貴女にお目にかゝれたのです。あれで私の心が落ち付いて元氣が出たのです。

レズビヤ。(タイムスを手にして坐り乍ら)宜う御座います。其で私も元氣が出ましたから、一生獨身で暮さうとするわけをお話ししませう。

將軍。(前後を忘れて彼女に近づき乍ら)そんなこと云はないで下さい。其は不自然です、いけないことです、其は——

レズビヤ。(彼を扇ぎ返し乍ら)いけません。側へ寄つちやいけませんてば。(彼はがつかりして退く。)其りや自然では無いかも知れませんが、よくあることなんです。若し貴下が捜がす氣なら妾の様な女がどつさりあるわ。其人達は評判もよく顔も綺麗で金もあれば結婚申込もたくさんあるのに結婚しようとしないんですの。何故だか貴下に察しがついて?

將軍。外に男のある場合なら解ります。

レズビヤ。エ、、所が外に男が無いのです。其れに貴方は、妾が此年になつて、相當な男を二人並べてどつちがいゝかと氣を揉むと思つていらつしやるの？

將軍。レズビヤさん、人の心にはより好みと云ふものがあります。一人の面影、唯一人の面影のみが忘れ難くなつて——

レズビヤ。左樣です。餘り度々差出口して御免下さい。でも貴下の御意見は誤が無いので、いつも仰言つてしまはぬうちに仰言しやることが分るのです。ねえ、ボツクサーさん、皆が皆貴下の樣では無いのよ。あなたはセンチメンタルなおばかさんよ、だから女の正體がお分りにもならないんだわ。妾の正體がお分りにならないんだわ。所が妾には男の正體が分つて來たの。貴下の、正體も分つてよ。

レズビヤ。妾はほんとうの老孃なんです。妾は自分の持物にはずい分やかましいんです。妾は自分の家が持ちたいし、自分の家は自分の獨り占めにしたいの。妾は美、調和、清潔、整頓などと云ふものに對して慧敏な感覺を持つてゐます。妾は自分の獨立を誇とし、其を冒されまいと

油斷なく警戒致します。妾の心には充分仕入れてあります故、書物と音樂さへ充分あれば、相手なんか無くたつて自分一人で充分樂しめます。妾に如何しても我慢の出來ないことは、野暮な大男が妾の家ぢう到る所で煙草を喫つたり、食後に椅子に掛けたまゝ寢込んだり、何でもかんでもかまはず汚ごすことです。おゝいや。

將軍。併し戀愛——

レズビヤ。あら、戀愛だなんて。貴方は想像力つてものおありなさらないの？　妾がえらい男達を戀したことがあると思ひなさらない？　例へば英雄達！　天使長達！　皇子達！　聖人達！　女たらしの不良青年をすらも！　而して其の人達と世にも不思議なアドヴエンチユアをしたつてことを？　其の後で只の本ものの男を見るとどんな氣がするか分らない？　家の中の隅と云ふ隅に靴を脱放しにしといたり、カーテンと云ふカーテンに皆煙草の匂をしみ込ませる男をですよ。

將軍。（少しく目がくらんで來て）だが併し——左樣なことを云つては失禮ですけれど——貴女は子供が欲しかありませんか。

レズビヤ。妾は當然子供を生まなくちやなりません。妾はよき母親にならなくちやなりません。若し國家が充分報酬を與へて妾に子供を持たせたり、其れによつて國家は充分酬いられると信じます。所が國家は子供の外に男を一人家に置かなくちや子供を持つていけないと云ふんです。だから妾も國家に云つてやるんです、子供を生まぬより外仕方がありませんつて、若し妾が母親になるとすれば、男が側にゐて、母親であると同時に妻にして、妾に邪魔して呉れてはほんとに困ります。

將軍。レズビヤさん。御存じの通り私はいらないことは言ひたくない方なんだが、そいつは英吉利婦人として云ふまじきことでせう。

レズビヤ。だから妾云はないぢやありませんか。只外のことを云つたゞけでは納得なさらぬ方にだけ云ふの、困ることはね、妾が生粋の英吉利婦人で、而して特別其れを誇としてることなんです。

將軍。其通りです、確に其通りです。私の云つたのは決して——

レズビヤ。(怺へ兼ねて立上り)ねえボックサーさん、後生だから妾を怒らせたのぢやないか、英

國紳士にあるまじいことを爲たんではないかなどゝ考へるより、もつと外に何か考へて頂戴。貴方は申分無い人だけど、氣が利かないわ。(彼女は堪へ切れぬ樣子で肩をゆすつて、臺所をつき切つて別の側へ行く。)

將軍。(不機嫌に)ハア、其處が私のいけない所なんだな。氣が利かないこと。貧乏な馬鹿軍人なこと。

レズビヤ。全體が至極簡單ですよ。いつも云ふ通り妾は一箇の英吉利婦人なんです。其りや斯云ふ意味なの、妾は何事によらず世間體の惡いことはしたいこともせずに濟ます樣に仕込まれてゐるてね。

將軍。レズビヤさん、私には貴女がホントに分らない。

レズビヤ。(將軍に向つて)ぢや一體何だつてお分りにならない女と結婚したがるんです?

將軍。私には分らない。多分貴女を愛してるからでせう。

レズビヤ。ぢやよう御座います。お好きなだけ愛しなすつたら。但し其をするのに悲しい樣子をしたり、妾にうるさい思をさせたりしてはいけませんよ。併し妾と結婚は出來ませんよ。返事

は其だけです。

將軍。たしなみを忘れて貴女の潔癖性を害する樣なこと無しに、此事を貴女と充分論ずるのはどうしても恐ろしく六ケ敷いことですなあ、併し確かに自然の叫と云ふものがあつて——

レズビヤ。をかしなことを云つちやいけませんよ。

將軍。ぢや何んて云つていゝかなあ。えゝつ、レズビヤさん。貴女良人が欲しかありませんか。

レズビヤ。いゝえ。妾、子供が欲しいの。妾自分をすつかり子供に捧げたいの。子供の父親にでなしねえ。でもそんなことをすること、法律が許さない故、妾、良人も子供も持つまいと定めちやつたの。

將軍。併し、えゝつ、自然の體慾——

レズビヤ。前にも申上げた通り英吉利婦人は體慾の奴隷ぢやありませんよ。其處のところがどうも英吉利の紳士には分り兼ねる樣ですねえ。(彼女は書齋の入口に近い卓の端の所へ坐る。)

將軍。(ムツとして)ぢや宜う御座います。拒絶は拒絶です。またお願ひしませんから。此問題をまた持出して殘念です。(將軍、爐邊に引込み憤慨し乍ら傲然と其處に立場を定める)

レズビヤ。ボックサーさん、すねちやいけないわ。

將軍。私、すねては居ません、悲しくなつたゞけです。でもそんな風に云はれると納得出來なくて、すつかり當惑するばかりです。

レズビヤ。ぢや、うちの家憲を知つていらつしやるでせう。當惑した時には八百屋に相談するつて。(折好くコリンス塔より入り來る。)此處へ來ました。

コリンス。こんなにたんと出入りして濟みません。奥樣が此方にいらつしやると存じたものですから。お仕度がいよ〳〵出來上りましたので、見て下さるなら見て頂きたいと思ひまして。

レズビヤ。お前さんが其でいゝと思へば、姉樣も其でいゝにちがひないよ。

將軍。序だがコリンス。お前は市參事會員に選擧されたつてね。

コリンス。左樣で御座います。

將軍。ぢや、其の職服(ガウン)はどこにある?

コリンス。個人の場合には着用しませぬ。

將軍。何故か。着るのが恥しいのか。

コリンス。いゝえ。ほんとの所を申上げれば、其を着用するのが自慢なんです。自慢に思はないでは居られないのであります。

將軍。コリンス。氣を付けい。此方へ來い。(コリンス將軍の所へ行く。)吾輩の軍服が見えるか、動章が皆見えるか。

コリンス。ハイ。目立つて見えるとでも申しませうか。

將軍。其積りに出來てるのぢや。宜しい。どうぢや、お前は自分の八百屋としての社會奉仕が我輩の軍人としての社會奉仕に劣らず貴重だと云ふことが分つてるか。

コリンス。立派なお方でいらつしやるからこそ左樣仰言つて下さるので御座います。

將軍。(力をこめて)どうだ、いやしくも自分の仕事や、市民相應の禮服を着するのを馬鹿々々しいとか、男らしく無いとか、似合はないなどと思ふ奴は紳士で無い、飛んだりはねたり鼻息ついたりする無賴漢だと分つてるだらう。

コリンス。ヘエ、極くないしよなんですが、私も其の意見なんです。

將軍。ぢや何故吾輩の姪の結婚式に勿體をつける樣に禮服を着ないんだ。

コリンス。約束が約束で御座いますからなあ、奥樣がお呼びになつたのは八百屋で、市參事會員ぢや御座いませんから。過ぎたるは及ばざる位不愉快なもので御座いますからなあ。

將軍。姉樣も必度吾輩と同じ意見にちがひ無い。協同一致の社會奉仕を引受けたしるしとして、吾輩此の事に重きを置くのだ。監督の法衣、吾輩の軍服、お前の職服、即ち教會と軍隊と自治區なんだ。

コリンス。(退きながら)宜しう御座いますとも。(塔の方へ行く途中ためらひ勝ちにレズビヤに向つて)お孃樣、うちの奴が何と申すでせうなあ。

將軍。何だ。お前の妻は禮服を恥しがるのか。

コリンス。いゝえ。恥しがりなんぞ致しません。併し其を買ふ金を出し澁ぶつたので御座います。だから袖を肉汁の中へ入れはしまいかと心配するで御座いませう。

夫人すつかり落付を失つて一本の手紙を持つて入つて來る。急いでコリンスとすれちがつてレズビヤと將軍の間に來る。

夫人。レズビヤ、ボックサーさん、ほんとに困つたことになつてしまひました。

コリンス氣を利かして出て行く。

將軍。どうしたんです。

夫人。レヂナルド兄さんがロンドンにいらつしつて結婚式に來たいんですつて。

將軍。(びつくりして)やあ、そいつは困つたなあ。

レズビヤ。アラ、いゝぢやないの。來させなさいよ。

將軍。來させろつて云ふんですか。だつて未だ判決が確定してないぢやありませんか。離婚裁判所から臭氣紛々として出て來て此處でエヂスの結婚式に列なつていゝんですか。

夫人。(口惜し氣に中央の椅子に掛けながら)困つちまふ。いゝえ、レズビヤや。妾はどうしても兄樣を堪忍出來ないの。あの年齡をして若い家内此上無しの美しい女で然も今が女盛の家内を持つてるくせに、何でもない普通の賣女と結婚するなんて。おゝいやなこと。

レズビヤ。姉樣、大目に見て上げなくちやいけないわ。一體如何させたいと云ふの? レヂナルド兄さんはいつも弱いし、また弱く成る樣に育て上げられたんぢやありませんか、彼の方が相續した時には家の財産はすつかり抵當に入つてゐたのです。だからしよつちう財政困難な所で

辯護士には突込まれ、こちらの兄さんには道德的にイヂメられ、ボクサーさんには腕づくでイヂメられたら何とかしなくちやならなかつたのです。其間に二人の弟達は各自奮鬪して立派に修業したのです。誰でもよく知つてる通りあの方は抵當がとけて五十の坂を越す迄結婚することが出來なかつたのです。それや勿論、リオの樣な子供と結婚するなんて馬鹿なまねをしたものですわ。

將軍。でも其女を打つたんですぜ。ほんとに打つたんですぜ。其女を打倒した——園庭の目前で其女を花壇の上になぐり倒したんですぜ。兄貴が、一門の頭が、ブリッヂノースの中のブリッヂノースとして私や此家の兄貴の上に立つ人間が、自分の妻を毆打し、下等な女とくつゝき、其が爲めに大英國中誰憚からず、又私の軍服兄貴の法衣の手前も憚らず離婚されるとは、これや何事です。私は斯うと思つたことは決して忘れない性だ。王樣のぢき〳〵のお賴み——事實上は命令ですがね——があつたばかりに私は辭職を思ひ止つたのです。若し道で兄貴に逢つたら切り殺すんだがなあ。

夫人。それにリオも來るんですよ。二人は出逢はしますね。レズビヤや、飛んだことになつたわ

ねえ。

レズビヤ。アラ、妾忘れてゐた。其で如何したらいゝか分りました。大兄様は來ちやいけませんわ。

將軍。勿論來ちやいけません。姉様云つてやりなさいよ。若し大兄貴が此家へ入つて來れば私は失禮するし、又禮儀正しいお客様方も皆失禮するだらうつて。

コリンス。(一寸歸つて來て取次ぐ)レヂナルド様がお見えになりました。(コリンスが引込むと レヂナルドが入つて來る。)

將軍。(我を忘れて。)これやしまつた。

レヂナルドはレズビヤの云つた通りの人間。彼の身體は硬くこわばつてゐるし、其言語態度はそゝつかしく、子供つぽく知識の進歩が小學校で止まりになつた多數の英國有產階級の(辯護士任せの)紳士(彼も其一人だが)特有のものである。彼はボンヤリで反抗的でそゝつかしくて無精で忘れつぽくて始終立ちおくれ氣味だから、どう見ても腕のある女房の世話燒が必要だが、そんな女房を手に入れるだけの人を引きつける力も無ければ運も無い。

然し乍ら人好きのする男で誰が見ても惡意がありさうでない代りに成功しさうでも無い。年だけは上だが、其他の點ではどこを見ても弟の將軍より若い。

レヂナルド。(將軍と夫人の間に進み出て。)アリスさん、何と云つても駄目だよ。私はエヂスの結婚式に出ないでは居られないのだ。レズビヤさんお早よう。ボックサー、今日は。(將軍に手を差出す。)

將軍。(劍もほろゝに。)只今姉様に申上げてゐた所で御座いますが、貴下が此家にお入りになれば私は失禮致します。

レヂナルド。ぢや小僧止めないぞ。『で御座います』と云ひ始めゐと貴様は餘りゾッとした相手ぢやないからなあ。

レズビヤ。喧嘩を始めちやいけませんよ。喧嘩したつて何にもならないぢやありませんか。

夫人。兄さんは、お返事差上げるまでお待ち下すつてもよさゝうなものにねえ。

レヂナルド。手紙で來るなと云ふ位造作の無いことは無いからなあ。私が此處にゐちやいけないのかね。

夫人。如何してもゐらしつて頂けませんわ。リオさんが來ゐんですもの。
レヂナルド。ウム。あれは何とも思ひはしないよ。
將軍。何とも思はないつて！
レズビヤ。兄様、つまらないことを云ふのを止して、お歸りなさいな。
將軍。（辛辣ないやみで）學校時代に兄様は、女つてものはたゝき倒されるのが好きだと云ふ學說を抱いてゐましたね。
レヂナルド。お前は親切な俠氣のある兄様振つた助平だよ。
將軍。ブリッヂノース氏、貴下が此家を出るか其とも吾輩が出るか。
レヂナルド。お前に出てもらひたいもんだ。（ドッカと坐りこんで動かないと云ふ意志を強く見せる。）
將軍。姉様、あなたは私がエヂスの結婚式から追ひ出されるのを默つて見てゐらつしやるんですか。此の——
レズビヤ。（注意する様に）ボックサーさん。

將軍。——此の被告人の爲めにですよ。エヂスの父親代理は此男がつとめゐるんですか。
夫人。そんなことありません。兄様、此方でお出をお願ひした覺えも御座いませんし、お歸りをお願ひしてゐぢや御座いませんか。御存じの通り私はリオが大好きなんです。で若し彼の子が入つて來、兄様が此處にいらつしやるのを見たら、どんな氣持をするか貴方にもお分りになるでせう。
コリンス。（再び塔に現はれて）レヂナルド様の奥様がお見えになられました。
レズビヤ。いけない、いけない、彼人に云ひなさい——
夫人。まあ、何て間が悪いんでせう。
將軍。ウム、こいつあしまつた。
（三人一緒に騷ぐ。）
併し間に合はない。リオは既に臺所に入つてゐる。コリンスは其有様を氣毒に思ひ乍らも手のつけ様なく其儘にして出て行く。
リオは非常に可愛らしく、非常に若々しい、非常に落付の無い女なので、年若や美貌に動

がされる人達には至極氣に入るし、又若い女を旨さうな砂糖菓子同様に心得て、年寄女を全然顧みない人達にも氣に入る。冷靜に眺めるとリオの落付の無い所よりも、豊かな鮮々した元氣から來るおてんばな所の方が遙かに可愛らしい。彼女は生來自分や自分に責任のあると思ふ人のことを騒ぎ立てる女である。而して虚榮心が原因でおせつかいにも自分の責任を大げさに云ふのである。彼女の騒ぎ立てることは皆些細なことだが、よく其に大げさな名前をつけるのである。例へば藝術、靈光、世界、母性、上品、宇宙、創造者、及び其他彼女の想像力を刺戟して知識的にえらさうにひゞく言葉なら何でもかまはないのである。彼女は想像力は普通以上だが、思想や洞察力は普通以上に出ないので、言葉の上ではいつも威張つてるが、實際の事ではいつも乳母車に乘つてる。自分から賢明深慮で然もあたり前の弱點偏見を超越してゐると心得てるので、左様した了解の下に賢明な人達に向ふ見ずに惚れてかゝる、其結果初めは相手に喜ばれるが、やがて相手を怒らせ最後には相手にうるさがられるのである。レヂナルドと結婚する時にも彼の内には開拓を要する所が多量にあると自分の友人等にふれた。若し彼女が中年の男であつたらクラブでの厄介者であつたらう。所が若い可愛らしい女なので何をしても容赦されてる。其で見ると『完全なる理解は完全なる容赦なり』と云ふ諺は、誤で何にも御存じ無いことが總てを赦す祕訣であることが判る。

彼女は充分勿體ぶつて大形に走り込んで來て、いきなりズイとレズビヤの方へ行く。レズビヤは夫人よりもずつとリオを甘やかさないのだが、リオは自分達二人が俗物等の中の賢人だと云ふ風に特別な仲好の風をする。

リオ。(キッスしながらレズビヤに)お早よう御座います。(夫人の所へ來て)姉様、今日は。爐端の方へ行つて)將軍、何故其んなにふさいでゐらつしやるの?(レヂナルド、將軍と彼女の間に立つ)まあ、あなた、檢事が何と云ふでせう。

レヂナルド。檢事が何だい。

リオ。腕白ねえ。いゝわ。妾あなたにキッスして上げてよ。でも皆様他所へ行つて云はないで頂戴。(彼女レヂナルドにキッスする。一同自分等の目を信じ兼ねてる)貴郎、約束を皆守つてるらつして?

レヂナルド。あゝ、心配するのはよせよ其んな事――

リオ。(云ひ張る)ねえ、貴郎、お約束を、守つてらつして？　毎晩脱毛止薬で髪毛をこすつて？

レヂナルド。ウム、ウム、大概毎晩やつてるよ。

リオ。大概だつて。其で大抵分りますよ。貴郎、腹當をあてゝいらつしつて？

將軍。(嚴格に)リオさん。人を宥すと云ふことは婦人天性の一美點だが、男子に對して宥してはならぬことが有ります。男が女を毆り倒した場合(リオ小聲でキャッキャと笑つて夫人の左隣の椅子にぐつたり腰を掛ける)――

レヂナルド。(冷嘲的に)婦人をいたわる場合以外苟にも婦人に對して手を上げる樣な男は、ブリツヂノースの名を恥しめるものだ。(彼は爐端に近い卓の端に腰を下ろす。)

將軍。(大に腹を立てゝ。)ぢや、いゝ。リオさんが別に氣に掛けないなら、私は此上云ふことは無い。だが兄樣は、妻君を毆るなら家族の手前、こつそり毆つて、園丁の目の前なぞで毆らなきやよかつたと思ふね。

レヂナルド。(辛抱し切れなくなつて)後日證人になる者のゐない所で妻君を毆ぐつたつて何になる？　お前は男が面白半分に自分の妻君を毆ぐると思つてゐるのかい？　俺がこれを毆らなかつたら如何してこれが離緣出來るか。――其が出來れや天下泰平だよ。

將軍。(せき込み乍ら)あなたは平氣で毆つたつて云ふんですか。妻君を追拂ひたいばかりにですよ。

レヂナルド。いや、左樣ぢやない。これに俺を追拂らはせたいために毆つたんだ。お前にしたところで、自分の馬鹿さから三十も年下の女と結婚し、やがて女が自分を好かないで、キノコ面した若僧に惚れてることが分つたとしたら、一體如何するね？

リオ。あの人そんな顏してないわ。(ワット泣き出す。)其れに妾が貴郎を好いてないなんて隨分不人情だわ。妾位あなたを好いてた女は無い筈だのに。

レヂナルド。旨い具合に愛を見せるものだなあ。俺は表へ出て自分の手で花壇をすつかり掘返へして軟くしなくちやならなかつたのだ。而して其中から小石を皆拾ひ出さなくちやならなかつたのだ。其だのに此女は俺がちやんとしとかなかつたので、頸筋から蟲が入つたとこぼしたものだ。俺は、途中で俺に惚れた可哀想な女を連れて溫泉場へ行き、其處で晩餐後、氣がとがめ

てすゝまないのに無理に僞名罪を犯さなくちやならなかつたのだ。俺は宿帳にレヂナルド・ブリッヂノース夫人とリオの名をつけなくちやならなかつたのだ。一體固い男が自分の妻の名をどんな風に感ずるものか皆に分るかい。給仕や外の人達が皆見てゐる前を、あんな女と腕を組んで入つて行くなんて如何だい？　勿論其の可哀想な女にとががあるわけではない。唯俺が女に觸られるのを嫌だつたので相手はたうとう泣き出してしまつたんだ、而して未だに俺に手紙を呉れるんだ。其だのに俺は、虐待、姦通の科で公開の法廷で赤恥をさらされたし、此家の細君にはエヂスの結婚式から追拂はれた、減法青二才の獨身者のお前には意見をされたんだ。一體お前にこんなことがどの位分るんだい。

將軍。ぢや何ですか、此訴訟は皆八百長なんですか。

レヂナルド。勿論さ。離婚訴訟の半分は八百長だよ。其でなくて何だつて皆訴訟なんかするものか。(將軍茫然として、面喰つた樣に額をなで乍ら手摺付の椅子へ坐り込む。)其れに、何だつて人を見そこなつて、厚ましくも俺がリオをたゝき出してあんな奴を引き入れるなんてたわごとをほんとにしやがつたんだ。ちえつ、あいつの面をお前が見るとよかつた。

將軍。こいつあどうもまつたく吃驚する。何故そんなことをしたんです。リオさんは何故そんなことをさせたんです。

レヂナルド。あれに聞くといゝ。

リオ。(涙ながらに)妾、良人にそんないやな思をさせるとは思はなかつたんですの。妾の方で其を大びらにやつて、離緣して貰ふと云つたんですけど、良人が聞かないんですもの。而して別れるには左樣する外仕方が無い——良人の方で左樣するのが規則だつて聞かないんですもの。それに妾があのいやな女を見たのは裁判所に出た日が初めてでせう。若し良人が前以て見せて呉れたら、妾決してあんな眞似をさせなかつたんですわ。

夫人。ぢや兄樣は何もかも皆リオさんの爲を思つておやりになつたんですね。

レヂナルド。(我慢の出來ない程心持を惡くして。)リオの爲めならそんなことちつとも氣に掛けないんだ。併しあのキノコ面した惡徒に讓る爲めにしなくちやならないと思ふと——

將軍。(跳び上つて。)一體そいつ、如何云ふ權利で讓らせるんです。兄樣正氣ですか。一體どう云ふ權利なんです。

レヂナルド。其りや、若い女に應しい青年たるの權利だ。俺の年頃ではリオと結婚する權利は無いのだ。此女は世の中つてものを子供位しか知らないんだもの。

リオ。貴郎の樣な大きな赤坊より妾の方がよつぽどよく世の中のことを知つてゝよ。世話を燒いて上げる者が無くてほんとに如何してやつて行くでせうね。其の事を考へて妾夜睡むれないことがよくあつてよ。其だのにこんどは妾をすつかりひどい目に逢はせてしまつたのねえ。

レヂナルド。罰だよ。(彼女泣く。)これ〳〵。向つ腹立てちやいかんよ、リオ。

レズビヤ。あのキノコ面の惡徒つて誰のことなんです?

リオ。彼の人其んなんぢやありませんわ。

レヂナルド。勿論、シンジョン・ホッチキスのことですよ。

夫人。シンジョン・ホッチキスですつて、まあ、あの人此の結婚式へ來るぢやありませんか。

レヂナルド。何ですつて? 其んな譯なら俺は失禮する。(塔の方へ行く。)

リ　オ。(彼を捕へ乍ら)否、行つちやいや。旨く彼人をあしらつて下さるつて約束したぢやないの。

將　軍。否、兄樣行つちやいけない。エヂスの結婚を外しちやいけない。

夫　人。まあ、兄樣、こゝにいらつして下さい。お歸りになると、妾、ほんとに氣をお惡くしますよ。

レスビヤ。兄樣、お歸りにならない方がいゝでせう。遲かれ早かれ其の人と合はなくちやならないんですもの。

四人彼を追かけて入口の所でつかまへる。

レヂナルド。今し方、俺が居たいと云ふ時には皆で家から押し出すし、こんど行きたいと云ふとはなさないんだね。

夫人。妾、ホッチキスさんに來ない樣に手紙をやります。

リオ。(再び泣き乍ら)まあ、姉さん。(彼女は悲歎にくれ乍ら自分の椅子に戻る。)

レヂナルド。(辛抱し切れなくなつて。)宜しい、此女の勝手にさせといて呉れ。此女のキノコに逢はせてやつて呉れ。彼奴も來るがいゝ。皆來るがいゝ。

彼は臺所を横切つて樫の箱の所へ行き、不機嫌に其上に坐る。夫人は肩をゆすつてレヂナ

ルドの隣の所で卓に向つて坐り、意氣地無く落付いて聞く、レズビヤはリオの涙に我慢が
し切れなくなつて庭に出て戸口に近く坐り、レヂナルド一家の息苦しい内輪もめからぬけ
出してホッとして外氣を吸ふ。

リオ。貴郎、妾貴郎を嫌つてもしないのに、妾に嫌はれてる樣な風にワザと人に見せるなんてず
いぶん酷いわ。

レヂナルド。（苦々しげに）此女の說明によると嫌ふんぢやなくて俺の談がきゝ倦きたわけなん
ださうだ。

將軍。（お父樣らしくリオの側へやつて來て。）これこれ。此の世の中で話の種はとつくの昔皆盡
きてるんだよ、私なんかも三十年此方英國陸軍の談はきゝ倦きたんだ。併し其だからと云つて
辭職しやしないよ。

リオ。妾、良人と話するのにすつかり倦きたのぢやなくてよ。だけど良人は妾が本を讀みたい時
や睡むたい時にもおかまひ無しに同じ話を繰返へすんですもの。其にシンジョンは面白いの。
彼の人其りや氣が利いてるのよ。

將軍。「（癪に觸つて）はあ！ 昔からの云ひ草だよ。女つて者は皆天才と結婚したがるものだ。其
の氣の利いた男が欲しいなんてことは馬鹿々々しい。誰かゞ平凡な正直な間の拔けた男と結婚
しなくちやならないぢやないか。お前さん其のことを考へたかね。

リオ。だつて其んな男達には其相當の馬鹿な女達がどつさりあるぢやないの。何も妾達と結婚し
たがらなくたつていゝぢやありませんか。其れにうちの人も承知の通り妾うちの人がほんとに
好きなのよ。妾がうちの人を好くワケはうちの人が妾を欲しがるから、妾がシンジョンを好く
ワケは妾が彼の人を欲しいからですわ。妾、うちの人に對して義理がある樣に思はれるんです
もの。

將軍。大きに其通りだ。

リオ。だから、勿論、シンジョンも妾に對して同じ義理があるね。

將軍。これ、これ。

リオ。まあ、法律なんて、馬鹿らしいんでせう。何故、妾が兩方一緒に結婚していけないんでせ
う。

將軍。（愕然として）リオさん！

リオ。だつて妾兩方共愛してるんですもの、妾、出來りやたくさんの男達と結婚したいの。ふだん用に良人と、音樂會、芝居、夕方の散歩用にシンジョンと、年に一ぺん位社交期の終り頃誰か嚴格なえらい上人樣と、其から誰か存分いたづら相手になる樣な素敵に陽氣な不良少年とも結婚したいんだわ。妾いたづらな氣持になること滅多にないので、其んな氣持になつたとき、大人に云ふと笑はれると思つて其のまゝ駄目にしちまふのがほんとに殘念よ。

レヂナルド。いゝかい皆、こんな風なんだ——（意氣地無く）ねえ、これで困るんだ。

將軍。（キツパリと）姉樣。こりや此家の兄貴の仕事だ。あの兄貴は監督なんだからリオに云つて聞かせる義務がある。私は大抵のことには我慢出來るが、一夫多妻主義や一妻多夫主義を大ぴらに云はれると何とかしなくちやならない。

夫人。（書齋の戸口に至り）貴郎一寸來て頂戴。妾達困つてるんですから。

監督。（內より）コリンスにお聞き、俺は忙しいんだ。

夫人。コリンスでは駄目なんです。仲々容易なことぢやございません。何卒一寸いらつして頂戴

な。（良人の來る氣配を聞いて彼女は椅子を卓の最も手近な端へ持つて行く。）

監督書齋より出てくる。未だにやせてホツソリとした元氣な人で氣分は兄弟等よりも若い。皮膚はキメが細かで、手は綺麗、鼻は顎とつり合よく突出て、髯は突出てゝとがつた顎を目立たせ、利口で滑稽な目にはいたづらしいひらめきが一寸無いでも無いし、いざと云へば振るつたことを云ひさうな所もある。而して其の態度には常に自己に興味を持ち、一どつちかと云へば大體自己に滿足してる人間の風がある。レズビヤは監督の聲をきくと椅子を彼の方へ向け直ちに立つて入口の所で會話をきく。

監督。（リオの所へ行つて。）お早よう。オヤ、兄貴を連れて來たね。よう連れて來れたね。ボツクサー、お前、二人を仲直りさせたのかい？

將軍。仲直りだなんて。あの離婚問題は皆八百長ぢやありませんか。此の女はホツチキツスとか云ふ奴と結婚したいんだつて。

レヂナルド。其奴の顏はまるで——

リオ。お止しなさいよ。貴郎。彼人、素敵に立派な顏してるわよ。

夫人。其れに、此女、兩方の男と結婚したいし、外の人達ともしたいつて云ふんですの。
リオ。妾、皆と結婚したいなんて云はなくつてよ。出來りやしたいと云つたゞけでだわ。
監督。仲々面白い差別だね。
リオ。ほんに時たまでいゝんですわ。
監督。（心地よげに彼女の側に坐り乍ら。）其の通り。或時は詩人、或時には監督、或時にはお伽噺の中の王子、或時に全く分らない人、或時には全然影も形も無い者とだらう。
リオ。エヽ、其通りよ。どうして其がお分りになつて？
監督。まあ、想像力や教養多分に持つてる若い女達なら左樣感ずるだらうね。左樣で無い樣子女には叱言と云つてやりたいよ。疾くの昔にシエクスピヤが云つてるぢやないか、或女がふだん用の亭主も欲しがるし、日曜日の亭主も欲しがつたつて。併しシエクスピヤは例によつて其の考通りにはしなかつたかね。
將軍。（あきれて）と云ふと——
監督。（後を云はせず。）オイ、ボツクサー。監督樣は俺か、其ともお前か。

將軍。（不機嫌に）兄樣です。
監督。ぢや。と云ふ理由を俺に聞いてはいけないんだ。『汝の任務は其理由如何を論ずるにあらず。汝の任務はたゞ戰ふて死ぬのみなり。』
將軍。ぢや、宜しい。其先を云ひなさい。私は氣が利かないんだ。阿呆な軍人に過ぎないんだ。
あゝ、其先を云ひなさい。（萬一の覺悟を決めた人の樣にどつかと手摺付の椅子に坐る。）
夫人。貴郎。ボツクサーさんにからかつちやいけませんよ。
監督。倫理上の問題を論ずる場合には、我々は先づ惡魔を公平に取扱はなくちやならない。所がボツクサーは其をしないんだ。英國は其をしないんだ。我々は惡魔を罪ありと定めてかゝつて、若し惡魔の無罪なることが判明すると世間の惡風があやしくなると云ふので、ワザと惡魔に身のあかりをたてさせないのだ。丁度これと同じ樣なことを我々は國事犯人に對して行つて來たのだ。而して其の結果無理をすることになり、結局惡魔に負かされるのが大抵の人の本望らしい。
將軍。兄樣、私達はリオさんに說法して貰ふつもりでお呼びしたんだよ。所が貴下は其をしない

で私に說法してる。私は賴みもしないお世話を燒いて貰ふ樣なことを云つた覺えもした覺えもありませんよ。

監督。だつてリオちやんは無造作にほんとのことを云つてのけたゞけだのに、ボツクサー、お前は道德的の態度を取つてるぢやないか。

將軍。其は警句でせうね。私には警句は分らない。私は馬鹿な軍人に過ぎないんだから。ウム。併しあつさりと聞きたいことがあるんです。一體リオさんにすゝめて良人を澤山持たせますか。

監督。大英帝國を忘れちやいけないよ。ボツクサー。お前は英國の將軍ぢやないか。

將軍。其が一夫多妻主義と、どんな關係があるのです。

監督。大ありさ。我々同國民の大多數は一夫多妻主義者ぢやないか。英國の監督たる我輩は一夫多妻主義を惡く云つて其人達を侮辱することが出來ないんだ。其れに隨分面白い人達もたくさん一夫多妻主義者であつたんだ、ソロモン、マホメット、其から此家で親しくしてゐる公爵の——ウム。私にはあの人の名前がどうも思ひ出せない。

將軍。兄樣。氣の利いたことを云つて自分の宗敎を嘲弄するよりも、此の馬鹿な女を良人の所へ戻して義務を盡す樣にしてやる方が貴方に應はしいぢやありませんか。『神の結び給へるものを何人もこれを離す勿れ。』忘れちやいけませんよ。

監督。ボツクサー、こわがるには及ばないよ。神の結び合はせたものは誰も引き離しはしないよ。神が其を保護するからね。(リオに) ついでだが、お前さんと兄貴を結婚させたのは誰だつたの？

リオ。恐ろしく小さな牧師補でしたの。後で酒を呑んだり、三等切符で汽車の一等に乘つたり、其から舞臺に出ようとしたんですけれど採用されませんでしわ。自分でエヂアトン・フオサリンゲイを呼んでましたの。

監督。ぢや、エヂヤアトン・フオサリンゲイの結び合せて貰つたものは、是非サー・ゴレルバアネスに引離して貰ふんだね。

將軍。私は阿呆な軍人かも知れんが、其んなことを云ふのは神をけがすものだね。

監督。(嚴格に) お前が空虛な高名を取るよりも、私が眞面目にエヂアトン・フオサリンゲイの名

前を取つた方がましだよ。

レズビヤ。三人の兄弟が逢ふといつも喧嘩しないではゐられないんですか。

監督。（穏に）レズビヤや、これは喧嘩ぢやないよ。英吉利の家族生活つてものがこれなんだ。お早よう。

リオ。先生。妾の肩を持つて下すつてほんとに有難いんですけど、でも妾一寸びつくりしましたわ。

監督。ぢや、俺の方がボックサーより、お前さんの心懸けに直すのに少し成功した様だね。

將軍。（鼻をならし乍ら）エ、ッー

リオ。ちつとも左様ぢやありませんわ。だつて妾先生をもつとびつくりさせるつもりなんですものの。妾、ソロモンは畜生爺だと思ふわ。

監督。如何にもお前さんの考へさうなことだ。言譯するには及ばんよ。

將軍。（一層びつくりして）ウム。然し劍が當るよ。ソロモンはバイブルの中に有るぢやないか。而して矢張ソロモンはソロモンだ。

リオ。妾も其の意見は變へませんわ。でも妾多數の面白い男の方と親しく知合に成つたの、——妾の面白いと思つたことは何でも聞かせて上げるし、其人達の思つたことは何でも聞かせて貰ふの。

監督。運があつたら左様するがいゝね。併し皆と結婚する必要は無いだらう。皆にボタンをつけてやらなくちやならないことを考へてごらん。それに何か恐しいて自分の考へたことを一々聞かせたり、妻君の考へたことをいつも聞きたがる良人位恐いものは無いぜ。

リオ。（其を聞いてハッと氣が付いて。）まあ、そりやほんとにうちの人のことよ。實際の所、だから妾別れなくちやならなかつたの。

監督。（慰め乍ら）左様だ、兄貴は自分の云つたことをくど〳〵しく繰返へすだらう？

レヂナルド。これ〳〵、アルフレッド、俺に缺點があるなら此奴に勝手にさがさせる、お前が手傳ふに及ばない。

監督。此の人はもうすつかりあらを見付けてるんだ。

リオ。（少しくブン〳〵して）矢張り、うちの人よりいけない人間もありますわ。うちの人は貴下

程氣が利かないかも知れませんけど、其でも貴下が考へてらつしやる程馬鹿ぢやありません。

監督。まつたく其の通り、良人に加勢しなさい。お前さんがいつも充分良人の肩を持つことを希望するよ。(彼は立つて爐端に行き、爐に背を向けて滿足さうに立つて、一同の者を室一杯の子供等の様に見乍ら嬉しさうにニコ〳〵してる。)

リオ。妾が一個聯隊全部と結婚したがつてる様な風に云ふのは何卒止して頂戴。妾には二人切りで澤山なんですから、良人とシンジョンより外決して誰も戀しませんわ。

レヂナルド。其奴の顏は丸で——

リオ。貴郎、其んなこと云つてはいけませんつてば。胸が惡くなるわ。

監督。いゝかね。お前さん、一週間かそこいら經つとシンジョンの話も聞き倦きるよ。男つてものはレコード半打付の蓄音機の様なものさ。だから直にどのレコードも聞き飽きるんだが、其でも新しいお客様のあるごとに良人がクル〳〵やつてのけるのを、お前さん食卓に向つて聞いてゐなくちやならないんだ。しまひには良人が機械でなくて、あたり前の人情を持つてるので滿足しなくちやならなくなるよ。而していよ〳〵左様なると、私の友人の英國の大詩人が女を

評して『彼等は皆味同じ』と云つたのが男にも當たることが分るよ。好きな男と結婚するがいゝ、然し一ケ月經つとまた矢張りレヂナルドになるよ。良人を變へるものでは無かつたのだ。

ほんとうに。

リオ。ぢや結婚するのは間違なんですね。

監督。左様だよ。併し結婚しないのは其以上大きい間違さ。

將軍。(立ち上り乍ら)ホレ、あれをお聞きかレズビヤさん。(庭に通ずる入口の所で彼女と一緒になる。)

レズビヤ。あれは警句なんですよ。

將軍。立派な分別ですよ。人がくだらぬことを云ふ時には其は警句で、分つたことを云ふ時には私は其に贊成するんです。

レヂナルド。(樫の箱を離れ自分の時計を見乍ら)遲くなつてる。エヂスは何處にゐるんです。未だヴエルをかむつたりオレンヂの花を持たりしないんですか。

夫人。レズビヤや行つていそがせて頂戴。

レズビヤ。（塔から出て行き乍ら）リオさん一緒にいらつしやい。
リオ。（レズビヤについて出乍ら）エヽ宜う御座います。
監督、自分の妻の所に到り其手を取つて話を始める爲めにキツスする。
監督。ねえ、字の綴れない不思議な女からまた手紙を貰つたよ。其中には私を魅きつける樣な强い情熱があるねえ。
夫人。無名の女のふみのことですか。
監督。左樣だ。
將軍。（今迄庭の方を見てゐたが、突然向を變へて）女達が貴方の所へラブレターを書くんですか。
監督。無論さ。
將軍。私には寄越したことが無い。
監督。軍人は女に好かれないが。敎會は好かれるんだ。
將軍。寄越すまゝに放つといて差支無いと思ふんですか。結婚した婦人達かも知れないぢやありませんか。

將軍。きまつて左樣なんだ。此女も左樣なんだ。（夫人に）私の所へ來るラブレターのうちで此女のがたしかに一番いゝだらう？（二人の兄弟に）可哀さうに家內はね、讀甲斐のあるラブレターが俺の所へくると、朝飯の時にそれを聲を出して俺によんできかせなくちやならないんだ。
夫人。無名の手紙にはほんとにどこか人を魅きつける所がありますわ。此女は自分の居所を明かさないんです。其がいゝ證據なんです。
將軍。フム、どこで逢ふつてわけでも無いんですね。
監督。所があるんだ。此女は手紙を寄越すとも〳〵に素敵に珍妙な併し極めて無理も無い逢瀨と定めてかゝつたんだ。此女は俺と天國で逢ひたがつてるのさ、俺も逢はふと思つてる。
將軍。さあ、私は御免だね、私は御免だね。
夫人。此女は云ふんですの、自分は幸福な結婚生活をしてゐるし、其の戀は生きて行く上に必要だが、併し自分になくてならないのは自分の戀人達よりずつと立ちすぐれた——
監督。どうも此女は二三人持つてるらしいんだ。

夫人。――誰が偉い人で、此世では自分を見ることも觸ることも無いが、天國へ昇つて一切の下劣な此世の戀のすさびから脱却した時、勝れて逢はれる樣な人なんですつて。

監督。（立上つて）素敵だ。彼女の爲めには至極宜いし、俺には少しも迷惑にならないんだ。誰でもダンテのビイアトリスの樣な理想の人を一人持つべきだね。（彼は後手して爐の方へブラ〳〵行つたり來たりし乍ら歌を歌ふ。）

レズビヤ少しく取亂して塔の中に現はれる。

レズビヤ。姉樣。二階へ來て下さいませんか。エヂスさんが衣裳をきないんですの。

夫人。（立上り乍ら）衣裳を着ないんですつて？　あの子は今何時だか知つてるかしら。

レズビヤ。彼の女、室の内から錠を降して本を讀んでますの。

監督の歌止む。彼はブラ〳〵歩いてるたが不意に立止る。

將軍。讀んでる！

監督。何をよんでるの？

レズビヤ。十一時の便で來た何かパンフレツトなんです。彼女は出て來ようとしないし、戸を開

けようともしないんです。而して其のパンフレツトを讀み切る迄は結婚するかしないか定め兼ねると云ふんですの。こんなことお聞きになつたことありまして？　何卒來て彼女に云ひ聞かして頂戴。

夫人。貴郎、貴郎がいらつしつた方が宜う御座いますわ。

監督。コリンスにやらしてごらん。

レズビヤ。もうコリンスにやらして見ましたの、お蔭で今申し上げたことだけ鍵穴から聞き取れたんですわ。姉樣いらつしやいよ。（彼女見えなくする。夫人其後から急いで行く。）

監督。これぢや遲れるね。歸つて仕事をしよう。（彼は書齋の入口の方へ進む。）

レヂナルド。お前今何を書いてるんだい？

監督。（立止り乍ら）私の著書の結婚史の一章です。丁度今羅馬の結婚の所です。

將軍。（庭の入口から夫人が退いたばかりの椅子の所へ來て、其に掛け乍ら）儀式崇拜主義のことは余り書かないでせう？

監督。左樣とも、ローマ古代のことだもの。（卓の端に腰を下ろして）。今丁度有産階級が結婚を拒

否して其の代りに一種の母權制度を取り入れた時代の所に來てるんだ。當時傳統的結婚制度を固守したのは僅か少數の舊家だけで、其によつて嫡出子たるを要するヴエスタの巫子の供給を斷たなかつたので、其他の者は一人として結婚しようなどゝ夢にも思はなかつたのさ。これがすこぶる面白いと云ふのは、我が英國もだん〳〵左樣云ふ時代になつて行くからだ。但し英國ではヴエスタ神にさゝげる處女の必要が無いので、貧乏人以外の者は恐らく誰も全然結婚しないだらう。

將軍。そんな事をよくも平氣で考へてられるね。大兄さん、此先生全く正氣でせうか。

レヂナルド。不相變さ。

將軍。(監督に) 一體、あなたは良家の人達が結婚を斷念するなんてことが此英國に起ると信じますか。

監督。英國では特に左樣なるだらうね。他國では合理的な離婚法を採用して其の形勢を緩和してるのだが、英國では如何なる制度でも其自身張りつめて破壞する迄放つとくのだ。俺はこれ迄四代の首相に云つて聞かせたのだ、若し我國の結婚を合理的に直さないで置くと、やがて拒婚

同盟が起り、然も其が如何なる內閣も干涉せんとして干涉し得ない有產階級の內から始まるだらうつてさ。

レヂナルド。連中なんて云つてたね！

監督。お定り文句です。一應もつともだが、どうも自分達だけが世界中で物の分つた人間で、若し結婚法改革なんてことを一寸でもほのめかさうものなら、次の選擧は失敗にちがひ無いつて云ふんです。其のくせ矢張り選擧には敗けるんですがね。無煙火藥問題、飲酒問題、南亞支那勞働者問題なんて見掛け倒しのくだらぬ問題ですよ。

レヂナルド。(兩手をポケットに入れ臺所を橫斷つて爐邊の方へよろめいて行き乍ら) 駄目だよ。あの連中我々なんぞの云ふ事を聞きはしないから。(二人に向つて) 勿論あの連中がお前を監督に、お前を將軍にした、何故つて勿論デモ紳やならず者や半分空腹の小賣人などのお目出度いワイ〳〵連中ぢや政府の仕事は勤まらぬし、無作法な亂暴者や日曜がけで遠遊びする樣な連中は怠惰で下品過ぎるからなあ。我々がゐなけりやあの連中腐るばかりだの。併し彼の連中我々の爲めに何かして呉れたことがあるかい？ 我々が云つたり要求したりすることに注意したこと

があるかい？　俺はいつも考へるんだ。我々ブリッヂノース家の人達は常に物の筋道を立て、我々の良心の命ずる儘に考へ且つ信ずるの權利を擁護する樣に可成り代表的に英吉利の家族だとね。所が今日我々に要求する所は無作法な日曬かけての外泊者達のする樣な着方食ひ方をすることであり、中部亞弗利加の改心した食人種のする樣に考へ方、信じ方であり、又身を屈して天下のデモ紳、無賴漢、三文記者等に横行させることなんだ。何故と云ふのに今日英國には堅實なブリッヂノース式の意見や傳統と呼ぶべきものを代表する新聞が一つも無いのだ。半數の新聞紙は手近かな母の會で發行される位にしか讀めないし、他の半數は手近な自動車小屋で發行された位にしか讀めないんだ。こんな連中を紳士とよべるかい？　こんな連中を英吉利人と云へるかい、俺は云はない！（彼はもう嫌になつてたまらぬと云つた形で手近に椅子に掛ける。）

將軍。（レヂナルドの雄辯に昂奮して）俺の軍服が見えるか。コリンスが何と云つた。これは目につくつて云ふんだ。其の爲めに作つてあるんだ。俺は近頃の無作法な軍人共に見せしめの爲めにワザとこれを着てゐるのだ。誰かゞ先づ立派な手本を見せなくちやならないんだ。宜しい、ブリッヂノース家の一人が其任に當らうぢやないか。俺には確に一家には氣質や傳統があると

信ぜられるのだ。

監督。（物思に沈み乍ら）結婚反對のさきがけする者は誰だらうなあ。早晩現はれる筈なんだ。俺自身は結婚と云ふものを考へない內に結婚してしまつた。併したとへ考へたにしたところで家內戀しさの余りに故障なんか起る餘地が無かつたんだ。然しだね、俺は自分娘等が——エセルジエーン、ファニ、クリスチナ、フローレンス——順つぎにヴエールを被りオレンヂの花を持つてあの入口を出て行くのを見て、自分達のしてる事がほんとに分かつたら、あの子等、溫順しく出て行くかしらと怪んだのさ。俺には其のバンフレットつてのが懸念で仕方が無いんだ。總て進歩と云ふことは社會と戰爭することなんだ。何卒エヂスが戰士の一人とならぬ樣に。

セイント・ジョン・ホッチキス、コリンスの案內にて塔の內に入つて來る。二十九才位の非常に氣のきいた青年紳士で、カラの絲一本に至るまでもキチンとした着物の着方をしてゐるが、自分の考事に夢中になつて外觀のことなぞ氣にかけない。自分の事を元氣よく陽氣に喋る。人に物を云ふのに優しく辛抱强いが（相手の愚鈍を懇に斟酌してやると云ふ風を暗々裡に示すので）相手がうまく面白がればいゝが、左樣で無い時には相手を激昂させる。

相手は嚇々するが我々は彼をへかまさうと空しく努力する。

コリンス。（取り次いで）ホッチキス様で御座います。（退く）

ホッチキス。（通りがゝりにレヂナルドの肩をたゝき乍ら。）コケコッコウ。

レヂナルド。（そつけ無く頭をたてるもよこにも動かさずに）お早よう。

ホッチキス。先生、お早よう御座います。

監督。（卓から離れて）シンジョン君。一體何しに來たんだい。君は婿の側ぢやないぢやないか。

式の終る迄此處には用が無い筈だ。

ホッチキス。エ、其は承知なんですが、其處なんですよ。内密で一言申上げたい人ですが。レヂナルドさんや外のお家族の方はかまひませんが——（彼はチラと將軍を見る。將軍はホッチキスがレヂナルドの家庭生活に關係したことをひどく咎めてるのでチト固苦しく立ち上る。）

監督。いゝんだよ、シンジョン君。こりや俺の弟のブリッヂノース將軍なんだ。（爐の所へ行つて後手し乍ら立つてゐる。）

ホッチキス。あゝ、左樣ですか。（將軍の方へ向いて名刺入を取出す。）閣下は軍人でいらつしやるから、失禮ですが自己紹介致します。これが私の名刺で御座います。（びつくりしてゐる將軍に自分の名刺を差出す。）

將軍。（讀む。）『前歩兵第十五聯隊附中尉、著名なる臆病者セイント・ジョン・ホッチキス』

レヂナルド。（クス〳〵笑ひ乍ら）此男は攻撃命令を避けて司令官の作戰計畫を臺無しにした科で南亞の戰線から送還されたんだ。

將軍。（極めて嚴格に）名前は忘れてしまつたが其の事件は覺えてゐる。ホッチキス君、吾輩、君と近付きになるのを拒まないよ。一つには君は兄のお客であるし、一つには吾輩隨分從軍してゐるのでどんな人間の膽力でも時にはあてにならないと云ふこと、又立派な人物の中には戰爭なんかする樣に出來てないので全然戰爭をしない者もあると云ふことを知つてゐるからだ。併し吾輩が君ならこんな名刺は使はないよ。これは確に恥辱をかくして人に交際を求めまいとする君の立派な點に相違無いが、併し吾々としては忘れさせて貰ひたいものだね。吾々は忘れたいんだ。これは君一個の不名譽でなく軍隊及び吾々軍人一同の不名譽だからね。どうもあけすけに云つて濟まなかつた。

ホッチキス。（快活に）將軍。私には恐ろしいと云ふ言葉を軍隊でどう云ふ意味で使つてゐるか分りません。これでも伊太利や墺太利では軍刀で七回、佛蘭西ではピストルで一回決鬪して、しかも頭髪一本動かさなかつたものです。併し南阿の場合には、自分の意志を主張しようとすればスマッフオンテインの攻撃命令を拒否するより外仕方が無かつたのです。別にえらがる譯で御座いません。私だとて胡蜂（やまばち）は恐い。猫も恐い。理屈から云へば何でも無いが幽靈が恐い。其れから二度程コレラの虚報に驚いて歐羅巴をつつ切つて逃げたこともあります。併し戰爭する位何でもありません。（陽氣にレヂナルドの方へ向いて其の肩をたゝく）どうです。（レヂナルド ブウ〳〵云ふ。）

將軍。ぢや何故、スマッフオンテインで君の義務を果たさなかつたんだ。

ホッチキス。私は自分の義務――一段高い義務を果たしたんです。若しあの時私が攻撃したら司令官は作戰計畫圖に當つて昇進するにきまつてるんです。所が私は英吉利軍隊を指揮するものは紳士たるべく、又紳士に限るべしと常に考へるので、あの男が紳士でないから、私は自分の軍職を犧牲にし――不名譽や社會の排斥を物とせずに――進んで彼の出世の道をふさいでやつ

たのです。

將軍。（大様に憤慨して）君の司令官と云ふのは吾輩の友人ビリター少佐であつたんですぞ。

ホッチキス。其通りです。何ていけすかない名前でせう。

將軍。憚り乍らどう云ふ理由でビリター少佐が紳士でないと斷言するんだ。

ホッチキス。確な證據があるんです。人間の品定めの材料だからくだらぬ事には定まつてますかね。あの男は匙でライス・プディングを食べるんです。

將軍。（非常に怒つて）馬鹿！　吾輩だつて匙でライス・プディングを食べるぞ。さあ如何だ！

ホッチキス。そりや私だつてよくやりますがね。そんな事にも遣り方がありますからなあ。あの男の遣り方と來たら一目瞭然でさあ。

將軍。ぢやいよ〳〵云つて聞かせてやらう。吾輩、君を一個の臆病者に過ぎないと思つたので、君を可哀想に思つて、全力を盡してもとの社會的地位に引戻してやらうとした――

ホッチキス。（遮ぎつて）有難う御座いますが別に其を失ひませんでした。皆私の動機を充分分つて貰れて居ます。其の眞相が明になると同時に私はロンドン中一番意氣な二つの倶樂部の名譽

會員に擧げられました。

將軍。フム。あんな倶樂部はデモ紳連の集りだ。君も躍んだり跳ねたり踊つたり鼻を鳴らしたりするデモ紳だよ。

監督。(面白がり乍らも愛想よく反對する)これ、ボックサー。

ホッチキス。(喜こんで)閣下、左樣仰言つて下すつて有難う存じます。仰言る通り私はデモ紳で御座います。其で結構です。英國の强味は全體大多數の英國民がデモ紳であると云ふ所にあるんです。彼等は貧乏人を賤しめ、下層民を輕蔑し、貴族を愛し、排他的な人間を景慕し、兵卒出身者の命に服せず、同階級を信じないのです。私は彼等と意見を相同じうし、感情と共にしてゐるのです。大學時代私は共和主義者——社會主義だつたので一般人に對して王侯に對すると同じやうに感じようと甚だ努めたものですが、駄目でした。閣下だつて左樣でせう。ぢや何も身の程以上につけ上がらんとする此熱望を恥ぢるに及ばないぢやありませんか。私が正直な人間を神の作り給へる最も貴きものだと云はぬ理由は、私が左樣思はないからです。私は紳士で無い人間には假令正直であらうが無からうが一向かまひませんし、娘を嫁にもやりません。いゝ

ですか、其處が目安です。其處が目安です。閣下だつて私と同じ樣に感じてゐなさるんです。閣下も實際はデモ紳なんです。私は實際のみならず主義の上でもデモ紳なんです。私の名は最初のデモ紳としてゞはなく最初に名乘を上げた英國でデモ紳主義の擁護者にして且つ陸軍に於ける最初の殉道者として歷史に殘るでせう。海軍の方では既に其主義の殉道者としてカアビイ、ウエードの兩大佐を自慢してゐます。兩大佐は從卒上がりのベンボウ提督の指揮下に戰ふを拒んで銃殺されたのです。私はいつも此の二人の榮譽を羨んでゐます。

將軍。吾輩英國の將軍として君に云つて置きたいのは、部下の將校にして軍職の神聖平等なることを忘れ、一毫たりとも自己の義務と危險とを最下級の太鼓手に轉嫁したら、我輩手づから銃殺すると云ふことだ。

ホッチキス。其の心持ぢや閣下は皆は平等どころか、皆よりえらいことになりますね。先生に聞いてごらんなさい。(テーブルの端に坐る。)

監督。シンジョン君、俺は君に聲援出來ないんだ。職業柄俺も亦デモ紳主義に背中を向けなくちやならないよ。俺の所へ連れて來た子供なら、どんな子供に對しても恐しくデモクラチックな

ことをしてやらなくちやならないんぢやないか。俺が子供に階級的差別無しに與へる位は恐しく高尚なもので、其に比べると故實有職書に出て來る位階なんか幼稚園で子供等にやるメダル位のものだ。俺には階級的差別をつけることが許されて無いんだ。相手が皆兵士であり召使であつて、將校でも主人でも無いからなあ。

ホツチキス。あゝ、先生は洗禮式のことを云つてるんですね。其りやほんとぢやありませんね。失禮ですがお二人ともほんとの所を承認なすつて白狀なすつた方がよつほど氣が樂にお成りでせうに。貴方がただつてまさか監督と牧師補が同等で、歩兵中尉が將軍と同等とは思はないでせう。

監督。勿論左樣思つてるんだ。俺もこれで牧師補であつたことがあるからね。

將軍。俺も歩兵聯隊附の中尉であつたんだ。

レヂナルド。所が俺は何でもなかつたんだ。併し我々は皆獨立してゐてお互に同等な人間だらう？　だからもう自分達のことはいゝ加減にして、何だかしらないがシンジョンの來た用向に取り掛からうぢやないか。

ホツチキス。（あわてゝ卓を離れ乍ら）あゝ、左樣だつた。や、どうも勘辨して下さい。其れは結婚式のことなんです。

將軍。結婚式がどうしたんだ。

ホツチキス。ハイ。婿殿が私共の云ふことを聞かないんです。セシル君は室の中から錠を下ろして誰にも會ひもしなければ、口もきかないんです。私は部屋の所へ行つて戸をドン〳〵たゝいて、返事しなけりや鍵穴から覗くと云つて、鍵穴から覗いたんです。所が彼の男は寢臺に坐つたまゝ本を讀んでるんです。（レヂナルド周章てゝ立上る。將軍びつくりして引退がる）で馬鹿なことをするなどゝ云つて聞かせたんですが、其の本を讀んで終はぬ内は一寸も動かないと云ふんです。私が今何時だか知つてるか、エヂスさんとの大切な結婚の約束を忘れやしやしないかと聞くと、邪魔をするのを早くやめて呉れゝば呉れる程早く結婚すると云つて、指で耳をふさぎ、頬杖をついて、あの嫌な本に夢中になつてるんです。其れからは一言も返事しないので、コチラへ上つて前以てお知らせした方がいゝと思ひまして上りました。

レヂナルド。これはどうも惡戯らしいね。二人が祕密で打合せといたんだらう。

監督。イヤ、エヂスには悪戯つ氣なんか無いのだ。其れに結婚式の朝、婿が冗談半分でゐるのを見たことが無いね。

コリンス塔の内に現はれて婿を案内する。眞面目な立派な顏立の青年紳士だが、どうやら良心の苛責に面やつれてゐるし、丁度今解決し難い一身上の問題で心亂れてゐる。

コリンス。（取次ぐ）セシル・サイクス様。（退く）

ホッチキス。これ、セシル君。どうも困るなあ。結婚式が終る迄、君は此處に用が無いんだよ。チエッ、君は婿ぢやないか。

サイクス。（監督の所へ來て死物狂になつて强情に言葉を掛ける。）私はこんなことを申上げたいと思つて上つたのです。私がエヂスさんに結婚を申込んだ折には法律上自分がどんな目に逢ふのか全然知らなかつたんです。然し一旦約束したんですから、其れは守ります。何卒お好きな樣にして下さい。强いてなら結婚しませう。併し私には異議があると云ふことを心にとめて下さい。（彼は心亂れて手摺付の椅子にどつかと腰を下ろす。）

將　軍。（共にひどく）一體何を云つてゐるんだ？　何を——

レヂナルド。（昂奮して失敬な、君は何を——

ホッチキス。
監　督。
レヂナルドさん、まあ、まあ、落付いて下さい、落付いて、落付いて。（レヂナルド自分の椅子にをさまる。ホッチキス其の右手に坐つて宥める。）
兄さん、いけない。ボックサー賴みだ、我慢して呉れ。

將軍。俺はもう我慢し切れない。これ迄半時間も我慢してゐたが、もう我慢出來なくなつた。（烈火の如く怒つて貴賓に一番近い卓の端に向つて坐る。）

サイクス。（ブツ〳〵怒つてゐる將軍を指し乍ら）先生其處なんです。エヂスさんは伯父樣似で、伯父樣達にまけなく短氣です。其れに監督樣のお孃樣でせう。だから種々な社會的事業にたづさはり、店員や女工などの組合を組織するんです。彼の女は一度カッとすると（然かも一週少くも一度はカッとなるんです）向ふ見ずなことを云ふんです。

レヂナルド。だつて君は承知の上で結婚を申込んだんだらう。

サイクス。ハイ、併し一旦結婚すると彼の女が他人の惡口した場合、其責任は法律上は私にかゝつて來るのに、私が丸で最下等の乞食盗人でもあるかの樣に法律上、彼女の財産に一切手がつ

けられなくなつてるとは知らなかつたんです。今朝誰かゞベルフオート・バックスの男子の過失論を送つて呉れました。其ですつかり私の目が開きました。先生、私は自分の事を考へてるのではありません。エヂスさんの爲めなら何物も恐れません。併し母と妹達は全然私の財産を頼りにしてゐるのです。母の收入から年百磅差引く位なら私の右腕から一インチの肉を切取りたい位です。私の今日あるのは皆母のお蔭なんですから。

エヂス化粧用のジャケツとペチコートのまゝ、さつさと塔から入つて來る。手にはパンフレット、腕には主義をたくさん抱いて、父よりも監督らしく然も母に劣らず淑女らしい。彼女は牧師の家庭の代表的のだゝつ子で、放埒な家庭の代表的だゝつ子に劣らぬ程恐ろしい産物と云つていゝ位だ。卽ち彼女の子供らしい生意氣さから出た遠慮や宗教的衝動を人が賞めたり讓つたりしたので、たうとうと第一流の道德的つけ上り者になつてしまつた。父親の滑稽味と母親の偏つ所の無い落付とで幾分人情味を取止めてはゐるが、性急な氣持や强い意志は滑稽味や、懷疑の念に少しも抑へられずに破竹の勢で進んで行く。彼女は傲然として忽ち一座の者を指揮する。

エヂス。（セシルの椅子の背後に立つて）セシルさん、貴郎の聲を聞いて來たの。妾折入つて貴郎にお話したいことがあつてよ。お父様、座を外して頂戴。皆様座を外して頂戴。

監督。（書齋の戸口の所へ行つて）エヂスが皆にどいて貰ひたいらしいから、こつちへ。（戸口に立つて皆がついて來るのを待つてる。）

サイクス。其處なんですよ。このざつくばらんな所で弱るんです。尤も其れがあるので此の女が好きな人ですが。

エヂス。貴郎は妾に虚言や、おべつかを云はせたいんですか。

サイクス。否、そんなことはありません。

エヂス。誰方が妾に虚言や、おべつかを云はせたいと思ひますか。

ホツチキス。デハ、折角のお尋ね故云ひますが、私は左様して頂きたい。相當交際して行くには確かに其れが第一條件でせう。

將軍。（ハツキリと）お前、どんなことがあつても、私にはいつも有の儘に云つて呉れるだらう。

エヂス。（滿足さうに爐の所へ來乍ら）ボツクサー叔父様、其の事なら大丈夫よ。

ホッチキス。貴孃は有の儘の軍人つてものを、相當分つてると思つてるんですな。
レヂナルド。（嗔嘩腰に）有の儘の君はどんなものだい。
ホッチキス。ウム、すつかり云つてしまふのは、どうも具合が悪いですね。お孃様が共れを云出せば私は此所を失禮します。
レヂナルド。其りや當り前さ。（立上つて）併しそんなこと云ひ出して、今日の事とどんな關係があるんだ。結婚するのは君か、共れともエヂスか。
ホッチキス。濟みませんでした。私は自分の事になると面白くなつて來て、どんな議論の際でも生意氣に第一線にまかりつん出てしまふんです。（レヂナルド忌ま〳〵しげな語氣をもらし乍ら臺所を突切つて書齋の戸口の方へ行く。）併しレヂナルドさん、お孃様はたしかに結婚なさるでせうか、如何なさいますかお孃様。
エヂスが返事をしない内に母親、リオとレズビヤを連れて戻つて來る。
リオ。これ、此通り此處にいらつしやるわ。二階から驅け降りた様だつて妾云つたでせう。（彼女爐の隣の卓の端の所へ來る。）

夫人。共れにセシルさんも！
レズビヤ。共れにシンジョンさんも！
監督。エヂスがセシルさんにお話したいと云ふんだ。（夫人、良人の所へ來る。レズビヤ先刻の通り庭に入る。）皆俺の書齋に入るとしやう。
リオ。でもエヂスさんはあつちへ行つて衣裳をつけなくちやなりませんわ。時計を御らんなさい。
夫人。リオさん、いらつしやいよ。（リオいや〳〵乍らついて行く、一同監督と一緒に書齋に入らうとする）
ホッチキス。お孃様、私、貴女が可哀相なセシルにお仰言ることをきゝたくてきゝたくて仕方が無いんですがねえ。
レヂナルド。（憤慨して）何だつて！
エヂス。可哀相なセシルつて、どなたのことですの？
ホッチキス。どふ云ふ譯か分りませんが、結婚式の日には婿のことを皆左様云ふんです。私はセシルの附添人でせう、だからセシルの爲めを思つて、此處にゐてやる權利があるんぢやないで

せうか。

將軍。（嚴格に）ホッチキス君、遠慮つてものがあるよ。

ホッチキス。閣下、好奇心と云ふものがあります。

將軍。（憤然として）兄様、此處では遠慮と云ふものが全然無くなつてますなあ、エヂスや、サイクスさんと書齋へ入つたがいゝよ。

書齋の入口にゐた人達が散る。將軍卓の横側で庭に近い最後の椅子にドッカと腰を下ろす。リオは將軍の隣の卓の端の所へ坐り、夫人はリオの隣に坐る。レヂナルドはリオの側に居られる様に樫の箱に戻る。監督は妻の所へ行つて其の側に立つ。

ホッチキス。（エヂスに）出て行けと仰言るなら、勿論出てまゐります。併しセシルの結婚反對の理由は全然社會的——

エヂス。（忽ち感付いて）此人の反對ですつて？

サイクス。シンジョン、君そんなこと云ふ權利が無いよ。僕は結婚はするつもりだとハッキリ云つたぢやないか。

エヂス。セシル様、貴郎、妾達の結婚に苦情を云つてたんですか。

サイクス。苦情なんかいゝやしませんよ。併しお願だから氣を付けて人のことを云つて下さい。一旦結婚すると貴女の仰云ることは何でも僕の責任になると云ふことを忘れないでね。つい先週も貴女は公開の演壇でスラトックスとチナリーは悪黨だつて云つたでせう。あの時結婚してゐたら僕は兩方に一萬圓づゝ賠償させられたかも知れなかつた。

エヂス。（嚴格に）妾、其んなことちつとも云ひやしませんわ。くだらない悪口なんかするものですか。若しそんなことしたら部下の女達が默つてやしませんわ。妾、充分言葉を選擇したんですの。妾云つたのよ、彼人達は暴君で嘘吐者で盜人だつて、でも左様なんですもの。スラトックスの方はもつと悪いわ。

ホッチキス。少くとも五萬圓は取られるだらうなあ。

サイクス。僕だけのことならかまひませんが、母や妹達があるからなあ。僕には母や妹達を犧牲にする權利は無いんだ。

エヂス。びつくりなさらんでもいゝわ。妾、結婚しやしないから。

他の人達一同。エ、ツ！

サイクス。（周章てゝ）エヂスさん。僕を捨てるんですか。

エヂス。捨てたくたつて捨てられないわ。貴郎の方が先手を打つてるんですもの。

サイクス。否、決してそんなことありません。僕の云ふのは、たゞ法律を知らないで貴女に結婚を申込んだと云ふことなんです。

エヂス。ぢや、知つてたら申込まなかつたの？　左様ですか？

サイクス。いゝえ。只、少し氣をつけて呉れる様にお願ひときやよかつたんです——無駄に僕を破産させない様にね。

エヂス。貴郎は眞理を無駄だと思つてらしつて？

ホッチキス。無駄どころかもつといけないんですよ。時には隨分危險ですね。

エヂス。シンジョンさん、おだまり。あなたはおしやべりで阿呆よ。

夫人。
監督。（ギョッとして）（エヂスや。これ、これ。

ホッチキス。（穩かに）セシル君、訴へやしないよ。

エヂス。（ホッチキス）堪忍して頂戴。でも貴方はも少し判つていゝ年頃よ。（他の人達に）ぢやもう結婚式が無いんですから皆歸つてつて自分の仕事をした方がいゝでせう。母様、コリンスに云つてお菓子を三十三片に切つてクラブの娘達にやつて下さらない？　妾が結婚しないからつて、彼子達にガッカリさせる譯は無いんですもの。（引返へして行かうとする）

ホッチキス。（色男らしく）お嬢様、私をセシルの代りにお願ひ出來ますまいか。——

リオ。シンジョンさん。

ホッチキス。やあ、忘れてた。御免下さい。（辯解的にエヂスに）先約が一つ御座いますので。

エヂス。何ですつて。貴郎とリオさんが！　妾左様思つてましたわ。いゝわ。直ぐに結婚したらいゝぢやないの。御馳走も出來てるし、お菓子も出來てるし、何もかも出來てるんですもの。

妾リオさんにヴェールや何か貸して上げるわ。

監督。此人達は判決が確定する迄待たなくちやならないらしいんですよ。其れに結婚許可書は貸借ならないんだ。

エヂス。ぢや仕方が無いわ。何か外にクラブに行く前に用事があつて？

サイクス。エヂスさん、貴女は別に失望してない様ですね。其れだけのことは云はないでゐられませんの。

エヂス。貴郎もすつかり安心した様な顔付をしないでゐられ無い様ね、セシルさん。妾達、別に仲が惡くならなくたつていゝでせう。

サイクス。（取り亂して）勿論ですとも。今だつて——全く喜んで——少くとも——母の爲めで無かつたら——吁。僕は如何していゝか分らない。私は貴女がほんとに好きであつたんですけど、結婚式の心配が無くなつたら、またこんなに好きにならうとは——

エヂス。（男をあやし乍ら）ね、ね、いゝ子だから、そんな眞似しないで頂戴。貴郎の云ふことがもつともよ。妾左様思ふの、社會事業にたづさはる婦人は、同じ様な考の良人でなくちや結婚しちやいけないつて。妾、捨てられたからつて決して貴郎を責めやしなくてよ。

レヂナルド。（箱から跳ね降りて、將軍の後を通つて卓の向の端に行つて）こいつあいけない。俺には我慢が出來ない。何だつていつも〳〵男の方が惡者になるんだ。エヂスや、虚言を云つて

はいけない。何故お前は衣裳をつけないんだ。何故お前は此男を捨てるんだ。捨てるなら捨てる様に公平に責任の一半を負ひなさい、男に咎を全部きせてはいけない。

ホッチキス。（優しく）かうした方がよかありませんか——

レヂナルド。（荒々しく）これ、ホッチキス。誰が君に差出口しろと頼んだ。君の名前はエヂスか。俺は君の伯父か。

ホッチキス。貴方が伯父様であつたらいゝと思ひますよ。私は伯父様が一人欲しいんですから。

レヂナルド。エヽー　サイクス君、君はエヂスと結婚するつもりか如何か。

サイクス。もう云つてある通りすつかり覺悟を定めてゐます。約束は約束なんですから。

レヂナルド。約束が約束であるか無いかを聞く必要は無いんだ。君はハッキリとイエス、ノーを云へ無いのか、ぶちこわしを云ふものだからホッチキスが側でニヤ〳〵笑つてるぢや無いか。どうだエヂスがヴエールを被つて教會へ行けば君は結婚する氣か。

サイクス。ハイ、そりやもう。

レヂナルド。ぢや、よろしい。さあ、エヂスやヴエールを被つて教會へお出で、婿殿が待つてるよ。

（卓に向つて坐る。）

エヂス。ぢや、スラトツクスやチナリーが嘘吐者で盗人だと云ふことや、來週の水曜日に妾、スラトツクスに何かもつと悪い所のある確な證據を握りたいと思つてることも承知の上なんですね？

サイクス。貴女に申込んだ際、其の點に條件をつけなかつたんですから、今更ひくにひかれません。可哀相なお母様を助けて下さる様神様にお願ひしませう。改めて云ひますが私は喜んで貴女と結婚します。

エヂス。すると貴郎は大變弱い性格の様ね。其處の處に附け込む代りに、もつといゝ實例を見せて上げるわ。妾これがほんとのことか如何か知りたいの。（パンフレットを取り出して監督にわたす。其れからホッチキスと母親の間に坐る。）

監督。（表題を讀む）『後悔先に立たず、悔いたる女　著）一體この女は何をしたの？

エヂス。結婚したんです。而して子供が三人出來て――上の兒が四つにしきやならない時分に、良人が人殺しをして、其れから自殺しようとして、顔を醜くしたのだけども果さなかつたんです。

お上では其男を絞罪にしないで、妻や幼兒の爲だと云つて終身懲役にしたんです。多分一生牢に入れときはしないでせう。で、此の女の人は自分の手一つで子供等を育て上げ乍ら二十年間もやもめ暮ししなくちやならないんですつて、然も子供等が育つていよ〳〵これからと云ふ時になると、其の恐ろしい男が婆婆に出て來て皆に恥をかゝせ、娘等の相當な嫁入の邪魔をし、息子を國外に追ひやつてしまふかも知れないと云ふことを承知の上にですよ。これがほんとに法律と云ふものでせうか。セシルさんが人殺しか文書僞造か、或は無神論者になるかしたりしても、私は離婚出來ないんでせう。

監督。左様だ。其の通りだ。一旦定めた以上は變更出來ないんだ。

エヂス。ぢや、妾、其んないけない契約なんか斷然お斷りしますわ。一生涯善くても悪くても定めた以上變更出來ないものとしたら、どんな女を女中にし、どんな人を友人にし、どんな人を總理大臣にしたらいゝんです。そんなことしたらわざ〳〵皆に勝手放題に悪いことをさせるだけぢやありませんか。良人の品行は妾に取つては確にバルフオア氏やアスキス氏の品行よりも大切なんですからね。妾法律を知つてるりや決して承諾なんかしなかつたんだわ。どんな女の人

だつて自分のしてゐることがほんとに分つたらきつと承諾しないでせう。

サイクス。でも、私は人殺しなんかするつもりはありませんよ。

エヂス。どうして其れが分つて？　妾、時にスラトツクスを殺したいと思つたことがあつたわ。

レヂナルド伯父様、誰かを殺したいと思つたこと無くつて？

レヂナルド。（緊張した表情でホツチキスを見乍ら）あるよ。

リオ。貴郎！

レヂナルド。あるんだ。確にあるのだ。ホツチキス、或晩のこと俺はすんでの所で、君とリオを射ち殺し、我と我身を殺すところであつたよ。其りやほんとの事だぜ。

リオ。（突然哀れつぽい聲を出して）まあ、貴郎！　（良人に走り寄つてキツスする）

レヂナルド。（忿然として）あつち行け！　（彼女は泣き乍ら自分の席に戻る）

夫人。（リオを愛撫し乍ら誰とも無く一座の者に言葉を掛ける。）でも、其んなこと皆な隨分馬鹿氣てやしない？　誰か此の中に罪を犯しさうな人がゐるんですか。

ホツチキス。其りやもう請合です。私は曾つて其の問題を非常に注意して研究したら、自分の實

際した事が――誰でもすることだと思ひますが――發覺して起訴されたら十年の懲役、二年の苦役、一切の公民權剝奪に處せられることが分りました。其の中には私が私有財産管理人で、大抵の管理人同樣いかがはしい事をするのを入れてないんですよ。若し私がいかがはしい事でもしないなら、被管理人の寡婦樣は時々お腹を空かすし、子供達は教育を受けられませんや。其れでも私は多分此處におゐでの皆樣同樣正直者なんでせう。

將軍。（侮辱されて）君は、吾輩に懲役になる樣なことをした覺えがあると當てこするのか。

ホツチキス。どうも左樣らしいんですかねえ。併し勿論私に分つてる譯ぢやありません。

夫人。でもまあ、結婚つてものは法律の問題でないぢやないの。皆、若い人達はお互に愛情つてものがあるでせう。其れでたくさんぢやないの？

ホツチキス。其れで澤山なら何故結婚するんです。

夫人。馬鹿仰言い！　其りや皆結婚しなくちやいけないわ。（不安氣に）貴郎、何故何か仰言らないんです？　このまゝに放つとくおつもりぢやないんでせう、ほんとね。

將軍。兄樣、私は此の二十分間と云ふもの、びつくりして氣を遠くし乍ら、こんなことを一切口

止めして貰へると待つてゐたんですよ。皆兄様を當にしてゐるんです。其れが貴方の職業で役目で義務なんです。貴方の權威を振つて下さい。

監督。ボックサー、お前は惡魔を公平に取扱はなくちやいけないよ。惡魔の云分を聞いて考へもしない内に非難する權利は無いよ。お前を二十分間待たせて氣の毒であつたが、俺はもう二十年間も此事のあるのを待つてゐたんだ。こんなことの自分の家になかれかしと祈らんとする誘惑と隨分戰つて來たんだ。俺が熱心に政府に警告して、先以て結婚法を人間的にしなくては結婚を神聖にすることは出來ないと云つたのも、こんなことが由緒正しいブリッヂノース家の煩累になると云ふ豫覺があつたからだらう。

夫人。ねえ。こんなことはよく氣をつけて下さいまし。皆、結婚しなくちやいけませんわ。若しセシル様の御兩親が結婚してなかつたとしたら、貴方はどう仰言るでせう。

監督。あの人達は結婚してなかつたんだよ。

ホッチキス。（オヤ！

レヂナルド。何だつて？

將軍。
リオ。
夫人。
ヱ、ッ！
結婚してないつて！
何ですの！

サイクス。（びつくりして立上り。）一體何を仰言つてるんです。私の兩親は結婚してましたよ。

ホッチキス。君にや思ひ出せないね。

サイクス。そりや、君が結婚證書のことを云つてゐるなら、僕は母親に其れを見せろつて云つたことは無いさ。誰がそんなことを云ふものかね。私は其んなこと夢にも思はなかつたし——氣がつかなかつたんです——先生戯談なんでせう。其れとも私は氣が狂つたんでせうか。

監督。君驚くに及ばないよ。俺が說明して上げる。君の御兩親は國教徒で無かつたんだ。君だつてオックスフオードの二年になる迄國教徒で無かつたらう。御兩親は實證主義者だつたのだ。だから西部ストランド區の戸籍吏の前で民法上の契約を結んだ後で、フェッター通のニュートン館で實證主義の儀式を濟ませたのだ。俺は正統派國教徒として君に尋ねるが其れは結婚かね。

サイクス。（ニヤ〳〵になつて）こりや大變だ。決して結婚ぢやありません。私は其んなこと氣が

付かなかつた。私は罪惡の子だ。（手摺付の椅子にグッタリと掛ける。）

監督。ア、、コレ、コレ。君が罪の子ならユダヤ人も、マホメット教徒も非國教徒も、其他國教會外で生れた人達は皆罪の子なんだ。併し吾輩の立場から見ると何でもないとは云はれないんだ。吾輩から見れば神聖な結婚は唯一つしか無い。即ち教會の儀式による結婚だけなんだ。其れ以外の結婚はどんな結婚契約だらうが吾輩には同じことなんだ。昔、結婚は總て天國で行はれたことがあつたが、教會が愚で結婚儀式を合理的にしなかつた爲め、男女に對する支配力を失ひ、結婚式が廢れて登記所の契約が行はれる樣になつた。所が現在我國の政府は其の結婚契約を合理的にすることを肯じ無いので、我々が無知の餘りに教會から追出した人達が再び登記所から追出されることになつた。結局古代羅馬の歷史を我國で繰返すことになるだらう。即ち辯護士に依賴して七年間とか十四年間とか二十一年間と――ことによると何ケ月間とか期間を定めて一緒になる樣になり、古の神前誓約の代りに配偶契約書がものを云ふだらう。

將軍。貴方は苟も監督として左樣な契約を是認しますか。

監督。苟も吾輩が亡妻妹との結婚法を是認すると思ふかね。吾輩が非認したつて法律になつたぢ

やないか。

將軍。然し若し政府で貴下に或男と其の亡妻妹とを結婚させる事が、どうかと諮問して來たら、貴方は當然そんな奴等はくたばつてしまへと答へるんでせうね。

監督。（びつくりして）イヤ、イヤ、決してそんなことは無い。お前は――

將軍。（性急に）其りや勿論其通りの言葉を使ふつて云ふんぢやないが、意味や精神がですね。

監督。吾輩は精神に於ても、そんなことは云はないと斷言するよ、併しそんなことは如何でもいい、問題は國家の結婚が教會の結婚から離れたことなんだ。リオとレヂナルドとシンジョンの關係は完全に合法的なんだな、お前は監督たる吾輩が其れを是認すると思ふか。

將軍。私は大兄樣を辯護しない。大兄樣は當然シンジョン君を足蹴にして追出すべきであるのだ。レヂナルド。（立上つて）如何して俺に此の男を足蹴にして追せるものか、此男の方が强いのだから、愈〻となつたら俺の方が追出されてしまふわ。此男が俺を足蹴にして追出したんだ、妻の愛情を奪ひ、俺に取つて代つたのだから、俺を追出したも同樣だらう。（爐の所へ來る。）

ホツチキス。レヂナルドさん、其れは皆衝突をふせぐ爲めに云つたことなんですよ。

レヂナルド。あゝそりや分つてるよ。だから君をとがめやしないさ。皆しようと思つてするんで無いが、一旦出來ると如何にもならないんだ。俺にも如何することも出來なかつたんだ。自分は年寄なのに家内は若いし、自分はほんやりしてるのに此男は氣がきいてる。俺の顏は胡桃に似てるのに此男の顏は蕈に似てるし、此男が面白いので家内同樣歡迎したし、其れに我々夫婦は馬鹿もので此男が爲になる助言をして呉れ——困つてる時にかうすりやいゝと云ふ所を敎へて呉れたんだ。其處で家内も俺は役に立たないが、此男には見所あると氣がついて、此男をつかまへて俺を放り出したんだ。

リオ。いゝ加減に家の中の惡口をお止しにならないと、妾、此處を失禮して決して二度と口をききませんよ。

レヂナルド。どうせ二度と俺に口をきくつもりは無いだらう、お前が此男と結婚してから、俺がお前のとこを訪問すると思つてるかい。

ホッチキス。來て頂きたいものですな。別に恨むことも無いでせう。其れにこんどはあべこべに貴方が有利な立場になるんです。貴下がお客樣で息拔で、新顏で、新聞で、絶望的な戀人なのに

反して私は良人たるに過ぎないでせう。

レヂナルド。（怒つて）一體全體、皆エヂスのことを相談してるのに何だつて始終ホッチキスのことをしやべつてるんです。（プン〳〵怒つて塔の方へ行つてから返つて椅子に腰を下ろす。）

夫人。一體誰も結婚しぞこなつたら、此世の中は如何なるんです。

サイクス。一體全體、眞面目な國敎徒で名譽ある男子は、相思相愛の間でありながら、自分と結婚するを欲しない婦人に對して、どんな風に求婚していゝでせうか。

リオ。一體、妾が結婚してからレヂナルドさんを世話するにはどんな風にしたものでせう。此人は他の女と結婚させられないし、殊に法廷で此人のことをさん〳〵嘘ついたあのいやあな汚はしい女とは結婚させられません。

ホッチキス。ぢや皆で英國で最初の結婚契約書を作成しようぢやありませんか。

リオ。いやな、シンジョンさん。

監督。誰か始める者が無くちやならないんだよ。併し隨分怪しいもので愈〻出來上つて見ると、現在の法律よりずつと惡くて、結局皆これ迄通りの方がましだと思ふかも知れないよ。だから新

制度はどんな風に働くか一寸試して見るのは、人道に對して最高奉仕をすることになるんだ。

レズビヤ。（これ迄閑却されてゐたが、考深く入口の所に立ち止つて一同の注意をひく。）妾はこれ迄左樣考へてゐましたの。

監督。（ポツチキスに）これ程皆を考へさせるものは無いだらうね。シンジョン君。

レズビヤ。（將軍の右手の卓の所へ來て）どんな婦人でも母性を拒否する權利はありませんわ。其の事はシドニー・ウエッブ氏がタイムスに寄せた統計で明瞭です。

將軍。ウエッブ氏なんか其んなことに何にも關係はありませんよ。其れは自然の聲です。

レズビヤ。併し苟くも英國婦人であつて見れば、立派な條件の備はる迄、我慢し通すのが權利であり義務なんです、若し條件さへ折合へば、妾喜んでボックサーさんと關係します。

將軍足元迄よろめき乍ら、しばし茫然無言。

エヂス。（立上り）左樣なりや妾もセシルさんと。

リオ。左樣なりや妾も宅の人とシンジョンと。

將軍。（魂消えて）關係ですつて！　其れはつまり——

レヂナルド。リオの云つてるのは重婚のことなんだね、どうも。

將軍。兄樣、貴下はいつまで其處に立つて默つて、此の狂氣沙汰を見てるんです。一體これは恐ろしい夢なのか。其れとも私は目がさめてるのか。健全なる精神と常識の力をかりて皆實生活に歸らうぢやありませんか——

コリンス市參事會員の禮服をきて塔から入つて來る。立つてた婦人達あわてゝ腰を下ろして出來るだけ平氣な顏をする。

コリンス。旦那樣、お急ぎ申して濟みませんが、教會の方はもう三十分前から人で一杯でして、オルガン彈手はローヘングリンの中の結婚の曲を三度も繰返しました。

將軍。此男なら大丈夫だ。兄樣、此場合私では如何にもならないし、貴下でも如何にもなりません。陸軍が失敗し、教會も失敗しました。いつそくだらない階級差別を撤廢して自治體にお願ひして見ませう。

夫人。何卒、ボックサーさん。此人ならきつと切り拔けませう。

コリンス一寸途方にくれながら、愛想よくポツチキスの左手に出る。

ホッチキス。（市參事會員の禮服を見て立ち上り）初めてゞ失禮ですが、お名前をうけたまはりませうな。

コリンス。（密つと）宜しう御座います。外でも御座いません、料理方をお引受けした八百屋で職服を着ると、市參事會員コリンスと申す者で御座います。

ホッチキス。（タヂ〳〵となつて）これはようこそ。（再び坐る）

監督。吾輩一個としては、昔からの友人市參事會員コリンス君の意見を非常に尊重してるのだから、エヂスやセシルさへ此人に——

エヂス。コリンスは子供の時から妾を知つてるんですから、きつと妾と同じ意見だわ。

ヘエ、お嬢樣、其點は御安心なすつて下さい。一體其の面倒なことつて何ですか。

エヂス。別に何でも無いの、お前今のまゝの法律に從つて妾に結婚させたいと思つて？

サイクス。（立つてコリンスの左肘の所へ來て）君は分つてゐる人の樣だから尋ねるが、結婚してつまらない目に逢ふのはお嬢樣か其れとも私か。

レヂナルド。（自分の座を離れてコリンスとサイクスとの間に割つて入る。サイクスは自分の椅子

に歸る。）要點は其處ぢやないよ。コリンス君、先以てこれだけ承知しといて呉れ給へ。結婚すまいとするのは男の方で無く女の方なんだ。（爐邊に突立つてゐる。）

レズビヤ。コリンスや、左樣ぢやないの。女の方は理窟に合つた結婚なら喜んでするのよ。

リオ。兩方の男とですよ。

將軍。コリンス君。此事件はいよ〳〵私に任せることになつたのだから、男同志として君に尋ねるが、こんな氣狂じみた馬鹿氣たことを聞いたことがあるかね。

夫人。コリンスや、世の中はこのまゝ續けて行かなくちやならないだらうね。

コリンス。（初めて合點の行く樣な提議を聞いたので、之を幸と引取つて。）そりやもう世の中は續いて行きますのよ。御心配なさるには及びません。此の世の中を食止めると云ふことは、眞面目な方々のお考へなさる程、たやすいことぢや御座いません。

エヂス。コリンスや、妾と同じ意見だわね。有難う。

ホッチキス。君、皆が何を云つてるのか少しは分るかね。市參事會員君。

コリンス。エヽ、其れで結構です。細かい所は如何でもいゝんです。私は委員會の報告なんか讀

んだ事はありません。結局皆分りきつた事しか云はないんですからね。皆の云ふことを拾ひ聞きすりやいゝんです。(卓の隅の所へ行つて、卓越しに一同に談す)さて、先生、お嬢様御婦人様や旦那様方、かうなんで御座います。結婚と云ふものは呑氣にかまへて大して期待さへしなければ、其れなりに我慢の出來るものですが、其の事を考へ始めると駄目です。だから大切なことは若い者達が自分で何をしてゐるのか氣が付かない先に結び合せてしまふんです。此處にレズビヤお嬢様がいらつしやいますが、だん〳〵結婚をお延ばしになる内、遂々其の事を考へ始めて、たうとうすつかりいけなくなつてしまいました。お嬢様、サイクス様、一度議論をお始めになるともう決して結婚出來るものぢや御座いません。さあ、まづ〳〵あちらへ行つて御結婚なさいませ、議論は後程御ゆつくり出來ますからね、お嬢様。私の云ふ事に間違御座いません。

ホツチキス。君の注意は一足遲かつたのだ。二人はもう議論を始めてしまつたのだから。

將軍。併し君には未だすつかり呑込めてないんだよ。ウム、吾輩は別に大袈裟に云ふつもりは無いんだが、事態容易ならずと云ふよりも外仕方が無いんだ。此の婦人方は我々の誠心誠意の結婚申込を拒絶するばかりで無く、どうやら——どうも私が間違つてる様ですから、左様だつたら

何卒許して下さい、レズビヤさん——我々に本氣に要求するらしい人だ——こんな言葉を使つて失禮ですが、外に何とも云ひ様がありません故——婦人達と關係しろつてつてね、例のいやな辯護士連の作製した契約書に從つてだね。

コリンス。へーエ、閣下。兩方が同じ身分だとすると、ちよつと珍らしいんですな。

監督。コリンスや、別に珍らしいことでは無いんだよ。羅馬人がやつたことなんだ。

コリンス。へエ、羅馬人ならやりかねないでせうね。羅馬にゐれば羅馬に從へと昔から云つてますから、併し今の所私達羅馬にゐるわけぢやあ御座いませんからなあ。

監督。吾々は隨分羅馬人の眞似をしてるよ。コリンス、お前は契約制度を如何思ふね。

コリンス。左様ですね、先生、契約の問題なら私はいつも紙に書いて見せて呉れと申します。談だけなら談でかまひませんが、契約となるとちやんと書いて頂くんですな、左様すりやこれからすることがはつきりしますよ。

ホツチキス。參事會員様、至極ごもつとも。これから直ぐに下書にかゝらう、先生書くものを取りに書齋に入つても宜しう御座んすか。

監督。シンジョン君、何卒。

ホッチキス書齋に入る。

コリンス。旦那様一つ困ることがありますが、申上げても宜う御座いませうか——

監督。いゝとも。(將軍の左側から離れて四番目の椅子の所へ行つたが、坐らずに爐に近い卓の端にある椅子を指して。)參事會員さん、何卒御座り。(コリンス監督の特別の配慮を有難がつて坐る。其れから監督も坐る。)

コリンス。只今の所六人の男に對して四人の御婦人方ですから、公平ぢや御座いませんな。

レヂナルド。男の側に不公平だと云ふのかい。

リオ。オヤ、良人が一寸と氣のきいたことを云つてよ。さすがに妾見損ないをしないわ。

ホッチキス吸取紙と紙を持つて歸つて來る。而して卓の中程の所のレズビヤと監督の間の空席に坐る。)

コリンス。皆様。實を申上げると、私はこの問題に關しては自分の判斷力を信じ兼ねるのです。で、かうしたこみ入つた問題に出逢ふといつも相談する女が一人御座います。其女は情事になると並ならぬ經驗と驚くべき調和力や直覺力を持つてるので御座います。

ホッチキス。參事會員君、失禮だが私はデモ紳士なんだ。だから上下の區別を明にした上で正直に忠告して呉れない様な人間の相談は無用だと云ふことを前以てことはつとくよ。下級の連中には結婚もいゝさ、棄てる便宜もある。所が我々には其れが出來ないんだ。其女の社會的地位は如何なんです。

コリンス。此の市では最高です。市長夫人ですからなあ、併し別におくらせるには及びません。私の弟娘です。(監督に)其の女のことは度々奥様のお耳に入れました。(夫人に)奥様、ヂョーヂの家内のことで御座いますよ。

夫人。(ギョッとして。)コリンスや、何かい、ヂョーヂの家内つてのは本當の人間なの?

コリンス。(まけずにびつくりして)奥様は彼女のことを本當になさらなかつたんですな。

夫人。ちつとも。

監督。我家ではいつもヂョーヂ夫人なんて餘り善過ぎる人間だから、嘘だと定めてるたんだ。今だに俺は其んな女がゐると思はないんだ。俺を納得させたけりや其女を出して來ることだね。

コリンス。（ドキマギして）こいつあどうも驚き入りましたなあ。エ、私は決して嘘を云ひませんん。だつて彼女は今が今結婚式を見ようと教會で待つてるぢや御座いませんか。

監督。ぢや其女を連れてお出で。（コリンス頭を振る。）サア、コリンス、白狀しなさい。其んな人間は居らないんだらう。

コリンス。居るんで御座います。確に居るので御座います。ヂョーヂに仰言つて下さい。實の所私には連れて來られませんが、先生なら大丈夫です。

監督。俺が！

コリンス。ハイ。先生なら大丈夫まるります。如何云ふ理由か分りませんが、彼女は私が先生の噂をしたり、先生にお引合せしようとするのを固く差止めるので御座います。結婚式の都度々々お宅様へ上つて花や何かの手傳をして呉れと頼むんですが、云ふ事きいたことがありません。併し先生が監督様として來る様にお命じになればまるります。彼女は至極妙な考を持つてるのですから、先生の指環——お役目向の指環——を誰かハイカラな紳士——多分此處にいらつしやるホッチキス様で澤山で御座いませう——に持たせて上げてごらんなさいまし、まるります

から。

監督。（指環を抜き取つてホッチキスに渡し乍ら）何卒此の役をつとめて呉れ給へ。

ホッチキス。併し如何したら私に其の女の人が分るんです。

コリンス。彼の女は盛裝して教會へ參りましたので、教區の執事が笏を持つてついてるでせう。だから執事に聞けば直ぐ分ります。こちらへ來る時には、執事が馬車の前座に乘つて參るでせう。

ホッチキス。こりやいけません。先生、御免下さい、そいつはちと荷が勝ち過ぎます。私はデモ紳士だからボア人に背後を見せましたが、同じ理由で執事にも背後を見せます。私は斷然此の役目をお斷り致します。

將軍。（嚴然と立ち上り）ホッチキス君、失禮だが其指環を此方へお渡し下さい。

ホッチキス。宜しう御座います。（將軍に指環を渡す。）

將軍。參事會員君。吾輩は市民夫人のお接伴するのを大に喜ぶものです。而して市の名譽職達をお連れすることを光榮とします。（將軍堂々と歩き出す、コリンス一寸立ち上つて目立つ程鄭重

に頭を下げる。)

レヂナルド。ボックサーは年は老つても、あれで仲々伊達だからね。

ホッチキス。あの軍服なら相當以上に買はれますね。あれと並ぶと教區執事の姿が見すぼらしくなりますよ。

コリンス。先生、待つてるひまに一つ契約書の方を運ばせたら如何でせう。實を申上げるとヂョーヂの家内が來ると、どなたも餘り道草食へますまいから、來ない内に書く方の事だけは濟ましといた方が宜しう御座います。

ホッチキス。下書はこれでいゝと思ひます。(讀む)

契約覺書

何郡何町何番地　男子　何ノ誰

何郡何町何番地　女子　何ノ誰

右者何年何月何日左の通り契約宣言致し候。

リオ。(立上つて)シンジョンさん。作法を忘れてはいけないわ。婦人が先に來るものよ。(シンジョンの背後に行つて身をかゞめて肩越しに下書を見る。)

ホッチキス。成程。御免下さい。(下書を變更する。)

リオ。其れから貴方は一人の男と一人の女しか書かないぢやありませんか。男の方は二人あつて然るべきだわ。

コリンス。あゝ、こりや型だけのことなんです。御婦人にしろ紳士方にしろ何人入れなすつてもかまひません。

リオ。婦人を何人も入れることは無いわ。一人で澤山よ。其れにあのいやな女は貴婦人ぢやないんですもの。

レヂナルド。リオや、氣儘をひかへなさい。これは誰にでも向く樣な大づかみの契約書で、お前の契約書で無いのだ。

リオ。ぢや妾が何の役に立つて?

ホッチキス。これから暗示を得て貴女自身の契約書を作るのです。

エヂス。暗示なんか無い方がいゝわ。ほんとのことをハッキリ有の儘に云つて、うそなんか一寸も無いことにしやうぢやありませんか。

コリンス。ハイ、ハイ、お嬢様。これで差支御座いません。決して不正な所は御座いませんから。これはまあ契約書の雛形と云つたものです。

エヂス。(腑に落ちない態で)そんならいゝんだけど。

ホッチキス。契約書の最初の文句は普通何でしたつけね。參事會員君、君知つてるだらう。

コリンス。(途方に暮れて)ハイ。其んなことは市役所の書記に任せてあるものですから、私はもう其んな細かいことを自分で考へる習慣をすつかり無くしてしまひました。多分先生が御存じでせう。

監督。お氣の毒だか知らないんだ。然しソームズが知つてるだらう。お前さん、ソームズは何處にゐるかね。

ホッチキス。あすこに居りますよ。(書齋を指す。)

監督。(夫人に)彼の男うまく仲間に入れて呉れないか。(夫人書齋に入る。)コリンス君。ソームズは村の副牧師なんだ。今日英國教會の監督たることは仲々の難事で、管區内の事務整理の必要上何を扨置いても事務家となり、一日十六時間机に膝詰めする技倆がなくてはならんのだ。併し斯うした監督が職にある結果、教會の精神的興味、民衆の靈魂や想像に對する感化力は忽ち急速に滅亡し始めるのだ——

エヂス。(愕然として)お父様ー

監督。俺はボックサー式で無しに、專門的に云つてるんだよ。實際監督等自身極端に其の方面に傾いた結果、全國中精神的には最も愚かだが商賣上最も鋭敏な人達だとの評判を取つてるんだ。吾輩は此の難關の脱道を見付けたんだ。元來ソームズは吾輩の法律顧問であつたのだが、仲々腕きゝの事務家であり乍ら人知れぬロマンチックな歴史を持つてることが分つたのだ。父親と云ふのが有名な非國教の牧師でよく國教會のことを紅い衣の女郎だとのゝしつたものだが、ソームズは十五の歳にこつそり國教會に改宗し、僧籍に入らうと望んだが、父親が心臓が弱くてびつくりすると頓死の虞があつたのだ。英國の家庭では心臓の弱い者が暴君になることは御同

様氣に付くことだね。だから可哀想にソーズムは辯護士になつたのだ。而して父親が死ぬと——妙に詩的な因果應報だが猩紅熱で死んで、診べて見ると心臟は至極健全であつたさうだ——俺の手で僧職を授け副牧師にしたんだ。今はもうすつかり幸福になり、獨身で、金曜日と復活祭中は嚴格に斷食し、法衣法帽を被り、エリー街の自分の法律事務所にゐた時よりもずつと澤山法律事務をめつかつてゐるお蔭で、俺は監督たるに應しい精神的學者的な仕事に身を入れることが出來るんだ。

夫人。（編物籃を持つて貴齋から戻つて來る。）ソームズさんが參りました。（もとの席に歸つて編物をする。）

ソームズ法衣法帽のまゝ出て來て、一同の者に會釋してから二本の指で一同に祝福を授ける。

ホッチキス。ソームズ君、お坐り。（自分の椅子をソームズに讓つて、樫の箱の方へ退き、其の上に坐る。）

監督。シンジョン君。もうソームズ君て云ひつこ無し。神父アンソニーと云ふんだ。

ソームズ。（席について）私は洗禮の折、オリヴァ・クロムウエル・ソームズと命名されたんですが、父に其んなことをする權利は無いんです。青年紳士諸君、人の子の親となられたら將來お子達をして嫌厭をく能はざるしむるが如き意見を以てお子達に命名なさらぬ樣充分御注意なさいまし。

監督。家内は此處で下書してる書類の性質を君に說明したかね。

ソームズ。說明して下さいました。

レズビヤ。其の調子では、貴下は不贊成の樣ね。

ソームズ。贊成、不贊成は私の役ぢやありません。上役から渡された仕事をするだけなんです。

監督。左樣不人情なことを云つちやいけないね。アンソニー君。出來るだけよい忠告をして與れ給へ。

ソームズ。私の申上げる忠告は外でもありません。貧苦孤獨に甘んずると云ふクリスチャンの誓約を守つて皆樣の義務を果しなさいと云ふことだけです。元來敎會の建設された主旨は結婚と貧困を絶滅するにあるのです。

夫人。でも、左樣なつたら世の中は如何して續いて行くんですの、アンソニーさん。

ソームズ。汝の義務を果して、而して後悟る所あれ、汝の義務を果たすことが汝の業にして、此の世の繼續は神の御手に在り。

レズビヤ。アンソニーさん。貴方は始末にをへ無い人ね。

ソームズ。（ペンを取り上げて）貴方がたは私の忠告を容れません、私も容れられるとは思ひませんでした。さあ、お指圖を待つてゐます。

レヂナルド。皆初めの文句につゝかゝつてるんだよ。如何云ふ所から始めたものだらうね。

ソームズ。大概、契約期間から初めるんです。

エヂス。其れはどんなことなの？

ソームズ。何年々々と定めた契約の有効な期限なんです。

リオ。でもそは結婚契約ですよ。

ソームズ。結婚は一ヶ年間にするんですか、一週間ですか、其れとも一日ですか。

レヂナルド。コレ〳〵。アンソニー君、君は皆の内で一番いけないよ。一日だなんて！

ソームズ。脫線は脫線ですよ。五十歩百歩です。別に何でも無いぢやありませんか。

リオ。末長く添遂げられるもので無いなら、妾、結婚なんかどうでもよくつてよ。年數をきつて結婚するなんて不道德だね。嫌になつたら皆別れられるぢやありませんか。

レヂナルド。兩方が好いてる間だけにすべきものだと、俺は思ふね。

コリンス。其處の折合が仲々六ヶ敷う御座いませう。片々が離れたがらないのに、片々には離れたがる樣なことは有勝なことで御座いますからね。

レズビヤ。妾、男の方が大人なしくしてる間だけにするといゝと思ふわ。

監督。女の方が大人しくない場合は？

夫人。女の方はもつとよい所へ嫁けるのを犧牲にして結婚したかも知れないんですから、放りつばなしにされちや困るわ。

レヂナルド。男の方だつて左樣かも知れませんぜ。折角作つた家庭を如何して吳れるんです。

リオ。其りや妻の方で良人の擧動に注意し、氣持よく、自分で自分の身に氣を付ける樣にさせるのが本當だね。しよつちゆ外の男の相手になつてる必要も無いんだから。

レズビヤ。外に男の無いこともあるかも知れないわ。
リオ。ぢや、まあ、何故良人を捨てるんです？
レズビヤ。捨てたいからよ。
リオ。アラ、皆様自分の御勝手なことをなさるつもりなら、其れこそほんとに不道徳つてものよ。
（憤然として極の箱の所へ行つてホツチキスと並んで其上に掛ける。）
レヂナルド。（苦々しげに二人を見乍ら。）お前自分で其れをやつてるぢやないか。
リオ。アラ、これは全く別なことよ。つまらない御冗談をおよしなさいよ。
監督。どうもはかどらない様だね。参事會員君、君は如何思ふ。
コリンス。ヘエ、先生。皆様、結婚と云ふものは只一種のものゝ様にしつつこくお仰言つていらつしやいますなあ。併し人様にも色々種類がある様に結婚にも隨分種々なのが御座います。好いた惚れたで無我夢中で結婚する若い所もあるかと思へば、金が欲しい樂がしたい話相手が欲しいで結婚する年寄も御座います。子供欲しさに結婚する人達もあれば、子供なぞ持たうと思はないし持つにも不適當な人間も御座います。其れから餘り異性に追廻されるので何とか止め

を刺さなくてはならなくなつて結婚するのも御座いますし。一つ新しい經驗を試みやうとして結婚するものもあれば、いゝ加減に切り上げやうと結婚するものも御座います。皆様に一々お氣に入る様にするには如何したらいゝでせう。どうも半打位ちかつた契約書を作る必要がありますなあ。
監督。ウム、左様云ふ譯なら皆書いとこしたぢやないか。びく〳〵することは無い。
レヂナルド。何故皆好不好に拘はらず一緒になつてなくちやならないんだね。其れが根本問題だ。
夫人。子供等の爲めですよ。
コリンス。でも奥様、其れがすつかり濟んで——娘達は嫁き息子達は世の中へ出て自分で商賣してるのに何故お互に一緒にゐなくちやならないんでせう。其れさへ濟めば結婚のほんとの仕事は濟んでるのです。だから二人が一緒にゐたけりや一緒にゐらせる。併しゐたくなけりや養老院の老人達の様に別れさせるがいゝぢやありませんか。お互に充分利用し合つたし、充分見拔いてしまつてるんだから、何もあんなに多數の人達がくされ縁につながつたまゝお互に恨んだり嫌つたり惡んだりし合はなくともいゝぢやありませんか。だから末子が生れてから二十ケ年

と期限を切つたらいゝでせう。

ソームズ。子供が無かつたら如何するね。

コリンス。好きな人と一緒になつたらいゝでせう。

夫人。コリンスや！

リオ。まあいやなお爺様だこと。

監督。（諌める様に）これ、これ、皆。

レズビヤ。ぢや女はお前さんの云ふ様にもう男に好かれなくなつたら如何して生きて行くの。

ソームズ。（皮肉な嚴格さで）契約期間は子供のある場合には末子誕生後二十ヶ年との提案がありました。修正は御座いませんか。

リオ。反對します。終身でなくちやなりません。終身としなくちや結婚になりません。

ソームズ。レヂナルド・ブリッヂノース夫人が終身と提案なさいました。贊成者は御座いませんか。

リオ。アンソニーさん、人情のないこと云ふのはお止しなさい。

レズビヤ。妾は極大切な修正案を持つて居ります。子供のある場合、良人は生れる度毎に二ヶ年間全然家を空けなくちやなりません。子供の生れた時には良人は餘計者で邪魔で不體裁です。

コリンス。でも良人は何處へ行つたらいゝんです。

レズビヤ。母親の邪魔にならない限り好きな所へ行つていゝわ。

レヂナルド。而して細君を一人ぼつちにしとくの――――

レズビヤ。一人ぼつちですつて！　子供があるぢやありませんか。妻の方は困つてるのだから一寸の間一人でゐられるだけでも嬉しいにちがひ無いわ。兄様つまらないことを云ふのはお止しなさいよ。

レヂナルド。父親の方は可哀想な野良犬の様にほつつき廻り、クラブを宿にして逢ふものは友人の妻君きりだね。

レズビヤ。（皮肉に）可哀想な人ね。

ホッチキス。友人の妻君達で此の問題が解決するでせう、左様でせう、友人の妻君連も良人達が宿無しになつてるから淋しくて時には男のお相手に焦がれるでせうから。

レズビヤ。母親になつたからつて男と交際していけないつて理由は無いわ。どうしてもいけないのは良人を持つことなんだわ。

ソームズ。グランサムさん、外に何か仰言ることがありますか。

レズビヤ。エ、、妾は別々に家を持つか一つ家を別々に仕切らなくちやなりません。ボクサーさんは煙草を喫ひますが妾のは煙草は我慢出來ません。ボクサーさんは夜窓を開けて寢ると夜氣と寒さで死ぬと申しますが、妾はしよつちゆ窓を開けなくちや寢られないんです。妾達は仲好しにはなれても一緒にゐることは出來ません。だから其處のところを契約書に入れて頂きたいんです。

エヂス。妾は煙草には反對しません。其れから窓を開けることは勿論セシル樣の體に一番いゝ樣にしなくちやなりません。

エヂス。體にいゝ悪いの判斷は誰がするね。お前か、其れともセシル君か。

エヂス。どちらでもありません。お醫者樣のいふ通りにしなくちやなりませんわ。

レヂナルド。醫者なんか——

リオ。(忠告する樣に。)貴郎！

レヂナルド。(ソームズに)アンソニー君、酒料を上げるから、一と行、醫者は結婚に關して發言權無しと入れてお呉れ。二人が結婚するなら兩方とも醫者と結婚しなくちやいけない。

レズビヤ。其れを聞いて一寸大切なことを思ひ出しました。ボクサーは種痘を信じてゐますが、妾は信じません。だから左樣した問題は妾の一番いゝと思つた通り定めると云ふ箇條が一つ無くちやなりません。

リオ。洗禮種痘位は大切なんでせう。

監督。左樣思はれて來たものだよ。

リオ。でも、シンジョンさんは其れを冷嘲かして、名付親なんて可笑しいつて云ふんですもの。だから其處の所は妾に任せて貰ひたいんです。

レヂナルド。でも、子供等はお前のものとばかり云へまいぢやないか。

リオ。貴郎、つゝしみの無いことを云つちやいけませんよ。

エヂス。皆樣、大切な大切な金のことを忘れてゐるわ。

コリンス。あゝ金のことですか。愈〻難しい所へ來ましたな。
エヂス。妾、結婚しても自分で儲ける外ほんとに一文もありませんわ。
監督。セシル君、お氣の毒だが、監督の娘は貧乏人の娘で持參金はありませんよ。
サイクス。でも結婚してからエヂス樣に働かせるなどゝ思つて下さつては困ります。私は金持ちやありませんが、エヂスさんに困らせない位は持つてゐますよ。其れに母親が死ぬと——
エヂス。何てつまらないことを仰言るんでせう。其りや結婚すれば妾働いてよ。貴郎の家の事をして上げるんぢやありませんか。
サイクス。あゝ、そりやー
レヂナルド。お前、家のことをするのを仕事だつて云ふのかい。？、
エヂス。伯父樣左樣思はないんですか、リオさんは無賃でしたんですから、伯父樣に丸きり左樣思はないのも無理は無いけど、伯父樣とこの今の家政婦は無賃で家の事をしますか。
レヂナルド。併し其りや妻としてお前の務の一つぢやないか。
エヂス。此の契約書では左樣は行きませんよ。妾は左樣な風に定めて貰ひません。家の事をする

ならするで、妾はセシルさんに少くとも他所から來た家政婦並に拂つて貰ふつもりです。妾、他所の婦人方の樣に新しい衣服や車賃が欲しくなつた都度々々主人におねだりなんかしたくありません。
サイクス。エヂス樣。貴方になら何を上げても惜しくないと思つてゐることはなく、お分りなんでせう。
エヂス。ぢや妾に自尊心と獨立とを惜しみなく與へて頂戴。妾、其れを正々堂々と貴郎に要求します。左樣すりや妾だけの資源が出來て、妾の云つたことでスラトックスに訴へられた場合、貴郎は損害賠償して、其れを妾の月給から差引いたらいゝぢやないの。
ソームズ。此の契約ではサイクスさんに賠償の責はありませんよ。貴女は法律上此人の妻でないんですから。
エヂス。變なことを云ふね。勿論妾、此人の妻になるんだわ。
コリンス。(好奇心を起して)お孃樣、スラトックスが貴女を訴へ中なんですか。スラトックは參事會で一緒ですから、私が口をきゝませうか。

エヂス。未だ訴へやしないんだけど、訴へたらうつてセシル様が云ふの。

コリンス。失禮ですが、何だつて訴へるんですか。

エヂス。スラトツクスは嘘吐者で盜人なの、だから妾が義務として其れをすつぱぬくからだわ。

コリンス。こりや驚きましたなあ。お嬢様勿論云ひ様によつちやスラトツクスは嘘吐者です。失禮ですがお互に心持を惡くしない爲めには皆様嘘吐者になりますね。併し私はスラトツクスを盜人とは思ひません。彼の男は完全な人間とは申されますまいが、するだけのことはしてますからなあ。

エヂス。其りやスラトツクスと云ふ人間は二百人の女工を丸で奴隷同様に使ふには全然不適任だと云ふことを口上手に云つてのけただけなんでせう。其んなら妾も此次の演說會で其事を云つてやるわ。彼男は罰金と稱して女工の賃金を盜むし、女工の食料品買入の名稱で女工の食料品を盜むし、其んなことしないと云つては嘘をつくし、其れから外にしてることがあるかお前さんにもはつきり分つてるだらうね。だからお前さんにも前以てお斷りしとくが、妾、あの男のことを英國中にすつぱぬいて、自分の身にどんな災難がふりかゝつて來やうがかまやしない

わ。

サイクス。私にふりかゝつて來ても？

エヂス。苦勞は一緒だわ。反對に貴郎がスラトツクスを射殺すのを義務と思つたとしたら、妾や子供達は如何なるんです。妾ほんとに誰か射殺されても嫌なら、スラトツクスだつても。然し由々しい惡事のあるのに社會が打捨らかして置いたとしたら人殺が起つても仕方が無いぢやないの。

ソームズ。（假借無く）契約期間に關して指圖を待つて居ります。

レヂナルド。（辛抱し切れなくなつて爐端を離れてソームズの背後に行き。）こんな話を一々したつて駄目だ。一日一杯此處に居なくちやならないぢやないか。契約は兩方が離婚する迄有効だと俺が提案する。

ソームズ。離婚は出來ないでせう。結婚してないんですから。

レヂナルド。併し離婚が出來ないとすると、こんな契約は普通の結婚よりも惡いや。

夫人。勿論左樣にきまつてますよ。こんな馬鹿々々しいことはお止しなさいよ。だつて子供等は

誰のものになるの？

レズビヤ。もう定つてますよ。母親のものと。

レヂナルド。否、其りや困る。俺は自分のものにする爲め全力を擧げて戰ふつもりだ。外にもきつと左樣する連中が澤山あるにちがひ無い。

エヂス。妾、子供等は兩親に等分するが本當だと思ふね。だから若しセシル樣がどの子供でも全然自分のものにしたいと思つたら、其れを此世に生んだ危險と苦痛に對する一定の額、まあ一人について千ポンドを出さなくちやなりません。此の金から生れる利子は二人が一緒にゐる間は其子の養育費に差向けるんです。併し子供其ものは妾のものにしとくんです。其んな風にして置けば若しセシル樣が妾から其子を取上げる場合には、妾は少くとも苦しんだゞけのことは償はれるんです。

夫人。（ぴつくりの餘り編物を措いて。）エヂスやー　其んなことを聞くのは初めてですよ。

エヂス。ぢや外にいゝ考があつて？

監督。ウム。子供にも可愛がりつてのがあるね。末つ子——兄弟中の可愛がり——兩親の體や情

愛が熱し切つてから生れた子で、無分別で氣儘な若い時分に生れた上の子達に比べてずつと可愛がりもし大切にもする子供は如何するね。金を拂ふにもしろ拂はないにしろ、末つ子はどつちのものになるんだね。

コリンス。旦那樣。親の外にも一つ大切なものが御座います。本人の子供ですよ。私の家內は餘り子供好きもので子供等は自分の身が自分のもので無い樣に思つて、母親から離れやうと皆家をかけ出しちまひました。子供と云ふものは大人とちがつて可愛がられたがらないんです。少々可愛がられりや其で澤山です。ほんとに可愛がられるよりも一寸可愛がる眞似をされる方が好きなんです。其處は乳母がよく呑込んでゐます。

ソームズ。一體皆樣の內で老若に拘らず眞似事以上に眞物の好きな方がありませうか。眞物と云ふものは嫌はれるものぢやないんですか。いつの時代でも一番人氣のあるのは眞實に苦しむ人間よりもむしろ上手な俳優ぢやないんですか。戀愛なんかも劇や小說の中では長持のする樣に大抵わざと變遷してあるぢやありませんか。私は曾つて聖者や聖母の像を見て非常な悅を感じましたが、やがて僧侶の身にまつはあるあの恐ろしい呪咀、ボテバロの妻に云ひ寄られたヨセ

フの呪詛に遭つて見るとびつくりして遮二無二嫁になつてしまひました。

ホッチキス。アンソニー上人、貴下は聖者として話してるんですか、其とも辯護士としてですか。

ソームズ。區別はありませんよ。基督教徒の掟は辯護士向き、聖者向きと別々に出來てはゐないんです。孰ちらの心も似たもので、救に到る道も同じです。

監督。併し『其道を見出す者は少し』だね、アンソニー君、皆に其の道を見出して呉れないか。

ソームズ。其れは皆様の前に廣がつてますよ、狹く曲つた道は滅亡に到る道です。教會と云ふものは人間相互の憎悪の念を棄て、代へるに聖徒の交を以てせん爲めに打建てられたものです。私は辯護士として結婚契約書を作製する爲に深遠な天惠以上に教へられる所がありました。皆様は此處で自分々々の罪悪を皆の見てる所で紙に書かうとしてるんです。だから唯の一箇條も協定することも我慢することも出來ません。

サイクス。確にどうしても不思議だ。君にかゝると忽ち何もかもバラ〳〵になる様だね。

監督。其れごらん。公平に取扱ひさへすれば悪魔は立場を失くしちまふんだ。悪魔には實行の出來る様な契約書は初めの一行すら出來なかつたんだから、之れ以上待つ必要はあるまい。

レズビヤ。ぢや妾は社會に子供を與へることを止します。

エヂス。ぢや、妾はセシルさんの所へ嫁がないことにします。

リオ。（箱から離れて）若しシンジョンさんに、うちの人の世話を妾にさせて呉れるだけの分別がなけりや、妾斷然あの人と結婚しません。（ホッチキスの側を離れて卓の端の所の夫人の背後の自分の椅子に歸る。）

夫人。ではこれつきり世の終りになるんでせう。

コリンス。旦那様。何とか出來ないものでせうか。

監督。離婚を合理的にし體裁よくすりや其れでいゝんだ。

レズビヤ。其んなこと大きなお世話ですよ。結婚さへ合理的に體裁よくすりや離婚なんか如何にでもなるわ。妾未だ結婚に對する自分の深刻な反對意見を述べてませんし、述べるつもりもありませんが、妾、どんな人にだつて自分をすつかり任せたくありません。

レヂナルド。フム、何年も何年も食はせ乍ら好い女房を貰へるのを貰はずに一緒にゐた揚句に、女房になるのは御免だと云はれちや、男もいゝ面の皮だね。

レズビヤ。兄さん。妾、貴方と議論するつもりはありませんが。貴方は面目と云ふものをお考へにならないんだから、はたから何と云つたつてだめよ。

ソームズ。（執念深く）未だにお指圖を待つてるんですよ。

一同お互に見合せながら誰かゞ何とか云ふのを待つてゐる。沈默。

レヂナルド。（キツパリと）やつぱり普通の結婚の方がいゝようだね——ウム、よくある其の反對のやつよりはね。

ソームズ。（猛烈に彼に向つて）如何云ふ權利で其んなことを云ふんです。此の不幸な國民を狂はせ、其の力を濫費させる諸々の罪惡は結婚生活より起つたものぢやありませんか。

コリンス。そりや獨身者には夫婦者程勝手な眞似が出來ないからですよ。

ソームズ。こんなことはすつかりお止しなさい。主の誡があるんですから其れに從ひない。

ホツチキス。（立つて將軍の空椅子の後に凭れ乍ら。）アンソニー上人。實は貴下に申上げたいことがあるんですが、初代の基督教徒の誡は長續きする樣に作つたものぢやありませんね。何故つて初代のクリスチヤンは世界が長續きすると信じなかつたんですもの。だから今となつては

我々はそんなこといゝ加減にお終にしていゝでせう。我々はもう何百萬年の過去と何百萬年の未來のあることが分つたんです。而して奧樣の疑問は未解決です。どんな風に此の世の中を續けて行くんです。貴方に云はせると其れは我々の仕事では無い——神の御業なんでせう。併し近頃のクリスチヤンの意見では我々が此の世の中にあるは神の御業と爲さんが爲めに過ぎないつて云ふんでせう。だから問題は如何な風にするかにあるんです。自分の理性を用ひて其の理由を發見してはいけないんですか。其の爲めに理性があるんぢやないんですか。だから今の所私の理性に云はせると貴下は頑固な氣狂です。

ソームズ。其樣仰言ると何か役に立ちますか。

ホツチキス。イヽエ。

ソームズ。ぢや光を求めて祈りなさい。

ホツチキス。イヽヤ、私はデモ紳で乞食ぢやない。（將軍の椅子に腰を下ろす。）

コリンス。少しもはかどらない樣ぢやありませんか。お孃樣、貴女、サイクス樣と敎會へゐらつしつて善惡は後でお定めになつた方が宜しう御座いませう。其樣なすつた方が氣が落付きます

私は自分の經驗から申上げるんです。まあ所謂背水の陣を敷くんですね。

ソームズ。背水の陣を敷いてはいけませんね。其んなことは人生に於ける死ですよ。

コリンス。イヤ、お上人樣。私は貴方の爲めを思つて云ふんですが、貴方は自分の意見を持つて其れを平氣で仰言いますね。然し私達の內にはもつと陽氣なものもあります。貴方の樣な方は今の市會では一人一黨になつちまいますよ。貴下は人間の性質を其儘受入れなくちやいけませんよ。

ソームズ。如何して左樣しなくちやならないんだ。私は神の性質を其儘受入れるんだ。私は惡魔の提灯持はしない。

監督。其れはすこぶる非基督敎的な惡魔の取扱方だね。

レヂナルド。どうも一寸もはかどらない樣だね。

監督。エヂスや、お前こんなことは止めにして結婚してお呉れ。

エヂス。いやです。妾の提案はちやんと理窟に合つてる樣ですもの。

監督。ぢや、レズビヤさん、お前さんは如何だね。

レズビヤ。決してしません。

夫人。レズビヤや、決してしないなんて長い言葉なんですよ。そんなことを云つちやいけないわ。

レズビヤ。(俄かにむかつ腹を立てゝ)姉樣、妾を可哀相がらないで頂戴。前にも云つた樣に妾は英吉利婦人ですから、立派な條件のつかない限り何にもしない覺悟ですから。

ソームズ。(沈默したまゝすつかり停滯したと云ふ表情を見せてから。)未だにお指圖を待つてるんですよ。

レヂナルド。こりやどうも、少しもはかどらない樣だね。

リオ。(我慢し切れなくなつて。)貴郎はさつきも左樣云つたわ。同じことを繰返へすのはお止しなさいよ。

レヂナルド。ア、、面倒臭い! (庭に通ずる戸口の所に行つて陰氣に戸外を見る。)

ソームズ。(紙を持つて立上り乍ら)チョッ! (紙を八ッ裂きにする。)契約書なんかこれで澤山だ。

敎會執事の聲。憚り乍ら紳士諸君、市長婦人をお通し下さい。市長令夫人をお通し下さい、紳士

諸君。(執事は船底形の禮服に金緣取つた外套を着て市の笏を捧げ乍ら塔から入つて來て入口に立つ。)憚り乍ら紳士諸君、市長令夫人をお通し下さい。

コリンス。(壁の方へしりごみ乍ら。)ヂョーヂの家內で御座います。

ヂョーヂ夫人は當世風な身裝をしてると云ふ點ではどこ迄も市長夫人で、實に立派な身裝をしてゐる。彼女の態度には少しも落付が無い。彼女は派手な色彩を恐れずに、其を最もよく利用する法を知つてゐる。レズビヤが階級の符牒として用ゆる。レーディと云ふ言葉通りのレーディでは全然無いが最初の一目で甘やかされて得意になつてる我儘で、元氣な貧乏人の中で豐かに暮して來た婦人であることが直ぐ分る。歷史博物館へ此女を入れたらエドワード四世の小賣商人の女房連に對する趣味を說明するかも知れない。年頃は確に四十だが、或は五十かも知れない、然し彼女の元氣や彈力のある姿や自信のある態度に壓されて其んなに目立たない。其處迄は著しく年にまけない婦人である。併し顏の美しさは千古の絕景が長年月の烈しい戰爭の爲めに荒されてる樣に臺無しになつてる。目には生々として人を魅きつけ人を惱ます所がある。其から負けぎらひの顎には未だに云ふに云はれぬ

美しさと誇らしさが殘つてゐるが頰はこけて皺が寄り、口元は皺くちやになつて見る影も無い。顏全體は愛慾の古戰場で如何にもあはれだが、一旦物を云ひ出すと機敏なおどけで忽に若返へり、思はず知らず相手をつり込んでしまふ。

一同立上るが、ソームズだけは坐る。リオ庭口の所へ行つてレヂナルドと一緒になる。夫人は歡迎する爲めに塔の方へ急いで行くが、ソームズの椅子の所へ行くと、もうヂョーヂ夫人が現はれる。ネッチキスは、はつきり見覺えがあるらしくびつくりしてヂョーヂ夫人より一番遠い隅にある書齋の戶口の方へ引退がる。

夫人。(指環を持つてツカ〳〵と監督の所へ歸つて來て。)先生の指環を頂きました。忘れないで下さい。これは貴方のなすつたことで妾のしたことでは御座いませんから。

監督。よく來て呉れました。

夫人。コリンス樣ようこそお出で下さいました。

ヂョーヂ夫人。(監督の前を通つて夫人の所へ行きジッと彼女を見詰め乍ら)貴女が先生の細君ですか。

夫人。監督の細君ですつて？　左樣です。
ヂョーヂ夫人。何と云ふ間の悪い方でせうね。でも見た所貴女は外の人に見劣りなんかしませんね。
夫人。（レズビヤを紹介し乍ら）妹のグランサム孃です。
ヂョーヂ夫人。將軍のこと〻妙に入りくんだ噂のある人！
監督。ぢやお前さん、將軍のことを知つてゐるんですね。
ヂョーヂ夫人。すつかり知りはしません。將軍のお話が近頃の所まで來ない內にお宅へ着いてしまつたんですから。然しグランサムのお孃樣のしたことだけは充分伺ひました。
夫人。（リオを紹介し乍ら。）レヂナルド・ブリッヂノース夫人です。
レヂナルド。元のレヂナルド・ブリッヂノース夫人です。
リオ。お默りなさいつては。少くとも裁判の確定する迄は愼んで頂戴。
ヂョーヂ夫人。（リオに）貴女の方が旦那より結婚する間が餘計にありますね。
夫人。（ホッチキスを紹介し乍ら）セント・ジョン・ホッチキス樣です。

ホッチキス依然として遠く離れたまゝ書齋の戸口で叩頭をする。
ヂョーヂ夫人。まあ、此の人が！（室半分を突切つて行つてホッチキスの正面に立つ。）若衆樣お前さん忘れやしないでせうね、宅で賣る石炭は屋根にハネ上りたがる故、お前さんの地下室には不向だと文句云ひに來たことを。
ホッチキス。あんなひどく出過ぎたことを云つて、思ひ出すと恥しくて困ります。其の返事に、お宅の旦那が悧巧な若い廣告書きを捜してゐる故、よかつたら私になれと仰言つて下すつて御親切樣でした。
ヂョーヂ夫人。其の口は未だに空いてますよ。（エヂスの方に向く。）
夫人。娘のエヂスです。（紹介する爲めに書齋の戸の方に來る。）
ヂョーヂ夫人。花嫁さんですね。（エヂスの化粧用の短い平常着を見て。）貴女はそんな風して結婚なさるんぢやないでせうね。
監督。（卓を周はつてエヂスの左に來て。）丁度其の處を皆で議論してたんです。御苦勞ですが皆と一緒になつて貴女の智慧と經驗を貸して貰へますまいか。

夫人。執事もお入用ぢやありませんか。此人も妻のある人ですから。

一同思はず振返つてジロ〳〵と執事をながめる。執事は皆にジロ〳〵見られても嚴然としてたじろがない。

監督。男の數が女の數に比べても多すぎる位になつてると思ひますから。

ヂョーヂ夫人。宜しう御座います。（塔の所へ歸つて行つて執事に聲をかける。）ジセフ樣、そんなつまらないお飾りはお取りよ。而して此近所へ一番氣に入つた所で妾を待つて〻頂戴。（執事引退る。彼女は初めてコリンスに氣がつき。）オヤ、兄樣、貴方も賑かしてゐたんですね。行つてジセフに何か飲物を捜してやつて頂戴、後生だから。（コリンス出て行く。彼女はソームズの法衣法帽を見る。）禮服着た人がも一人ゐるわ。お前さんは墓守なの？（ソームズ立上る。）

監督。俺の副牧師アンソニー上人ですよ。

ヂョーヂ夫人。あら、まあ。（ソームズに賺かす樣に）別に氣にかけないんです。

ソームズ。私の氣にかけることは自分の任務だけだ。

監督。これで殘らずお目にかゝつたわけですね。

ヂョーヂ夫人。（手摺付の椅子の方に向つて。）あの人はどなた。

監督。あゝ、セシル君御免。花婿のサイクス君です。

ヂョーヂ夫人。（サイクスに）着飾つた犧牲者なんです。

サイクス。犧牲者があるか如何か怪しいんですよ。

夫人。ヂヤ、先づ婦人の方から先きにお話したいと思ひます。二階へ上つて贈物や衣裳類を見せて頂かうぢやありませんか。

夫人。お望みなら何卒。

レヂナルド。併し男の方も貴方の仰言ることを聞きたいものですわ。

ヂョーヂ夫人。男の方には後でお話します。一人一人に。

ホッチキス。（一人ごとに）こいつあたまらぬ。

夫人。奥樣、こちらへ。（塔から案内する。ヂョーヂ夫人、レズビヤ、リオ、及びエヂス後からついて行く。）

監督。ソームズ君。皆の留守の間にも一束殘つてる手紙を片付けてしまはうぢやないか。

ソームズ。ハイ、宜しう御座います。(行手を塞いでるホッチキスに。)御免下さい。

監督とソームズホッチキスの邪魔をしたら書斎に入るホッチキスは不思議な默想に耽けつて自分のあり家すら忘れてゐたが、ソームズに目を覺まされ茫然として目を据えて、やがて突然意を決してすばやく室の眞只中に出る。

ホッチキス。セシル君、レヂナルド様。(せき込んだ調子に二人はびつくりしてホッチキスの側にかけよる。)今日に限つて逃げるなんて大に殘念だが、逐電しなくちやならないんだ。如何も仕方が無い。

レヂナルド。何が恐いの?

ホッチキス。分りません。私の云ふことを聞いて下さい。青二才の頃私はロンドンで獨り暮しをしてましたが、あの女の亭主の所から初めて石炭を一噸取り寄せました。其頃未だ安物買ひは不經濟だと云ふことを知らないし、石炭と云へば皆同じだと思ひ込んで、一噸十三志のを安いと思つて買つたのです。所が思ひ掛けなく、そいつが煙斗石よりも惡くて炭取りで一杯使つて見ると、もう腹が立つて早速其店へ押かけて行つて今あの女が云つた通りの醜態を演じたんです。

サイクス。ウム、假令其んなことをしたにしろ。笑つて濟ませばいゝぢやないか。

ホッチキス。其のことなら其れで濟むんだがね、もつと惡いことがあるんだ。其の石炭で私の暖爐が丸で速射砲の砲臺の樣にバチ〳〵やり出したので、一寸文句を云つてやらうと思つて其の石炭屋へ行くと石炭屋の下品な女房にぶつかつたんだ。所が其の女房と向き合つてると妙に落付が無い、變な物たらない氣持になるので恐ろしくなつたんだ。察して呉れ給へ。其後から起つた狂じみた馬鹿らしいことは一々申上げて嫌な思をさせないことにしやう。併し其の心持が高じて、彼女の側へ何とかして行きたくなつて、夜になると其店の前を實際ウロついたものだ。其れから汚はしいことだがあの女の足が觸つたと云ふので其店の階段とキッスしたくなつたので我乍ら氣が狂つてると悟つたんだ。其處で一生懸命に裂く樣にしてロンドンを離れましたが磁針が磁石に引つけられる樣に歸らうとしてた折に戰爭勃發となつて救はれたんだ。戰場へ出ると左樣した迷ひの夢がさめたのさ、ビレッター事件の爲め私は別人の樣になり若い頃の子供ぽい馬鹿らしさは永久に昔語りになつたと思つてたのだ。所が半時間前——先生が指環を持たせてやつた折——心の底をひつつかまへられた樣に云ふに云はれぬ恐怖が胸一杯になつたのだ

――私が、大膽不敵の私が！　彼の女が入つて來る時に其の理由が分つた。セシル君、此の女は怪物で妖魔で人魚で吸血鬼だ。逃げるなら今だ、逃亡だ、早速此場から逃亡だ。許して呉れたまへ、私の事は忘れて呉れ給へ。左樣なら。(戸口の方へ行く所をヂョーヂ夫人の入つて來るのと出逢はす。)遲い。もう駄目だ。(戻つて來て書齋の入口に最も近い椅子に自棄に身を投げる。其椅子は女から一番遠い所にある。)

ヂョーヂ夫人。(爐の所へ來てレヂナルドに聲をかける。)ブリッヂノース樣、何卒妾と此の若い人を一緒に置いて下さいませんか。貴下の事で此の人に母親の樣に意見したいんですから。

レヂナルド。何卒。此の男には大に其れが必要なんです。サイクス君來たまへ。(彼は書齋に入る。)

サイクス。(躊躇し乍らホッチキスを見て)！？

ホッチキス。もう遲い、君にも如何にもならないんだ。行つて呉れ給へ。

サイクス書齋に入る。ヂョーヂ夫人ホッチキスの所へ近寄つて珍しげに彼を注視する。

ホッチキス。いつ迄こんな苦しみをしたつて無駄だ。(立上つて)恐ろしい女だ――ほんとの女で人間の形した惡魔で無いなら――

ヂョーヂ夫人。其れは本の中から取つて來た話なの？　其れともお手のものゝ無駄話なの！

ホッチキス。(向ふ見ずに)嘲弄したつて駄目だ。恐ろしい力に押流されてお前なんか其まゝなしとげないんだ。即刻一番惡い所を聞かう。お前の父親は何者なんだ。

ヂョーヂ夫人。お上の許を受けた食料品屋で家内は内に使つて酒場女だつたの。お茶屋の亭主つて云つたら一番當つてるわ。

ホッチキス。ぢやお前は全然私より身分の低い女なんだ。左樣で無いと云へるか。何とか口實をもうけて地位なり年齢なり教育なりが私と同等だと云ひ張れるか。

ヂョーヂ夫人。貴下、何か氣に逆ふ樣なものを食べたの？

ホッチキス。(しほれて)下等だなあ？

ヂョーヂ夫人。有難。他に何か仰言ることあつて？

ホッチキス。こうなんだ。私はお前を愛してるんだ。而して宜しく無いことをもくろんでるんだ。(女は狼狽した所を見せ無い。)聲を上げろ。ベルを鳴らして人を呼べ。私を此家から追出させ

ヂョーヂ夫人。（突然深刻に感情を表はして）あゝ、貴方のお蔭で此の干からびた胸にわづかでもいゝから情愛を取戻すことが出來たら嬉しいわ。それでも昔は一目いゝ人を見、一寸いゝ人に觸れたゞけでも情愛が胸にこみ上げて來たものだもの。でもこんなことしたらお前さんの方が聲を立てるでせう。此顏を見て下さい、一度はお前さんの顏の樣に生き〳〵とバラ色であつたけど、今はもう幾度か燃え盡した心の火できづになり皺になつてゐます。

ホッチキス。（穩なしく）石磐石の火でだらう。一噸十三志の。恐ろしい流星を飛ばして人を盲目にしたら火傷させたり、街中へ追ひ出して人の物笑ひにしたりする。

ヂョーヂ夫人。お前さん、可なりひどい目に逢つたらしいのね。シンジョンさん。

ホッチキス。シンジョンなんて止して呉れ。

ヂョーヂ夫人。妾の名はゼノービヤ、アレクザントリナフと云ふの。短くしてボリーつて呼んでもいゝわ。

ホッチキス。お前の名はアシトーレス——デユルガアだ——お前に丁度いゝ位の極道な名は未だ發明されてないや。

ヂョーヂ夫人。（心地よげに坐つて。）さあ。貴方はほんとに左樣思つてるの、あのずう〳〵しい女の方が亭主の方より貴方の氣に合つてると。貴方一人があの家に出入りしてた頃には、あの女のお相手が面白かつたでせう——張合ふ亭主がゐてすつかり責任を持つて呉れるんですから。然し亭主になつても不相變面白いと思つて？　彼女は利口ぢやないぢやないの？　馬鹿利口つてだけでせう。

ホッチキス。（不安氣に卓に凭れ、神經の動を抑へようと卓につかまり乍ら。）其んなこと聞かんでもいゝ。お前こそ惡魔だ。

ヂョーヂ夫人。貴方は亭主の氣に入つたでせう。

ホッチキス、主人の方が細君よりや面白味がほんとに分つてゐたさ。育ちがいゝからね、然し其んなこと此方の知つたことぢや無い。

ヂョーヂ夫人。うちの人だつて面白味は分つてるわ。

ホッチキス。例の石炭屋さん——ぢやない石磐やさんが。

ヂョーヂ夫人。（有難たさうに）人の話をきいてさへすりやいゝの。近頃相不變の話相手で面白い

ことが無くて弱つてるんだから。

ホッチキス。（彼女の眞向に一脚の椅子をグイと突出し、わざと横柄過ぎる位横柄に腰を下ろす。）一體下等な御亭主の機嫌を取つてやつたら如何なるんだ。

ヂョーヂ。貴郎、妾を愛してるでせう。

ホッチキス。お前さんが嫌でたまらないんだ。

ヂョーヂ夫人。同じ事よ。

ホッチキス。ぢやもう私は駄目だ。

ヂョーヂ。うちの人の機嫌を取つて呉れると約束さへすれば、妾に逢ひに來てもいゝのよ。

ホッチキス。悪口云つたり、冷かしたり、靴をこすりつけたりしてやるよ。

ヂョーヂ夫人。そんなことをしないで頂戴。ちやんと紳士らしくね。

ホッチキス。（打負かされて、彼女の慈悲にすがる樣に。）ゼノービヤ——

ヂョーヂ夫人。ポリーと云つて頂戴。

ホッチキス。コリンス樣の奥樣。

ヂョーヂ夫人。何で御座います。

ホッチキス。何だか理性や常識以上に強いものがあつて私の兩手をつかんでぐい〳〵引ばつて行くんです。白狀しますが其れがあるので貴方が行けと云へば何處へでも行くし、しろと云へば何でもしなくちやならないんです。併しせめて貴方の心を打開けて下さい。貴女は私の心を知りぬいてる樣ですから。貴方はあの阿呆らしい御亭主を愛してるんですか。

ヂョーヂ夫人。ヂョーヂつて呼んで頂戴。

ホッチキス。其のジョーヂ・ホーヂを愛してるんですか？

ヂョーヂ夫人。そりや愛してるなんて思はないの、あの人は妾の良人ですもの。でも彼人の體の具合が心配になつて來た場合、滋養になると思つたらお前さんと玉葱と一緒にフライにして彼人の翌飯にしても平氣だわ。うちの人と妾は仲の好い友達で、「うちの人は妾のものなの。」外の男達は出入り勝手ですけど、うちの人だけはいつ迄も我慢して貰ふの。

ホッチキス。左樣です。良人なんてものは直に癖の樣なものになつてしまふんです。何ですね。こんな風に妙に貴女に引きつけられるのが戀です。

ヂョーヂ夫人。今日では女の事を思へばどんな風に思つても戀つて云ふんですよ。

ホッチキス。私を愛して呉れますか。

ヂョーヂ夫人。(早速く)妾の戀はそんな安つぽい品ぢやありませんよ。お前さんなんか筋向ひにゐたつて逢ひになんか行きませんよ——未だ其れ所ぢやありませんよ。妾は寒い頃の駒鳥の樣に戀に餓ゑてませんよ、お前さんなぞの見馴れてるお上品な貴婦人方と違いますからねえ、妾の氣に入るつもりなら極く利口に親切に正直にしなくちやいけませんよ。うちの人がお前さんを氣に入り、お前さんにうちの人の機嫌がとれたら折々私家へ出入りしてもいゝのよ、まあ月に一度位はねえ。其の間に妾のお友達にもなれたら其れだけお前さんの爲めになるわ。而して一寸でもいゝから妾のこの干からびた心を動かして呉れたらお前さんに感謝して、決してお前さんを忘れはしません。まあやつてごらんなさいよ——うちの人がお前さんになづくか如何か。

ホッチキス。好かれたら一ケ月だけやつてもいゝんですか？(長所ヲ二トツ所ガ如何ニモ馬鹿)

ヂョーヂ夫人。レヂナルドさんの奥樣を棄てる條件付きですよ。

ホッチキス。併し彼の人が離れませんよ。私が好きで彼の人と一緒になると思つてるんですか。

私は家無しの獨身者であつたから、あそこの家で友人扱にされるのが嬉しかつたんです。リオさんも面白い子ではあるが、私は主人の方がよつぽど好きです。あの女には何にも解らなかつた人です。或日のこと、私の所へやつて來て、退引ならぬことが出來たと云ふんです。私だつて退引ならぬことつて何だと聞返へす程の野暮で無い故、早速彼女が良人に自分達の結婚は間違であつたと云ふことや、私を愛してゐるから、この上長く私に默つて失戀の苦しみをさせたくないと云ふことを云つたにちがひ無いと察したんです。あの時どう云つたら宜かつたんです。どうしたらよかつたんです。今となつては如何云へばいゝんです。如何すればいゝんです。

ヂョーヂ夫人。斯う云ひなさいよ、他人の細君に戀慕する習慣がだん〳〵嵩じて來て、こんどは妾の番だつて。

ホッチキス。何ですつて？　女が良人を棄てゝ掛かつたのに、其の女を棄てるんですか。

ヂョーヂ夫人。(立上つて)ぢや棄てるんで云ふのね。ようございますよ。二度とお目にかゝれませんからね。うちの人の爲めにもつとお附合したかつたんだけど。左樣なら。(男から離れて爐の方へ行く。)

ホツチキス。（哀願する樣子）ゼノービヤ——

ヂョーヂ夫人。手剛い相手と思つたら、ほんにやくざな女たらしね、女にかゝると直ぐグニヤ〳〵になる。思召は有難いけど眞平よ。（そつけ無く男の側を離れて爐の方へ行く。）

ホツチキス。（後からついて行き乍ら。）ボリーさん、馬鹿はお止しよ。

ヂョーヂ。（立止つて。）强勢だわね。

ホツチキス。お前さんには分らないから。リオさんを棄てたつて仕方が無い故、リオさんを棄てないでるつてことがさ、そんなことしちや男がすたるぢやないか。

ヂョーヂ夫人。あの女と結婚したら幸福になれるの？

ホツチキス。否、そんなことは無いね、どうあつても。

ヂョーヂ夫人。其の本音が分つても、あの女は嬉しがつてるから。へ、

ホツチキス。嬉しがりはしまいけど、嫌がる男を我物にしたと思つたら萬更でもないだらう。

ヂョーヂ夫人。いゝわ。妾を愛してるつて彼の女に云つてやつて頂戴。こんど逢つたら皆の前でね。忘れないで。

ホツチキス。でも——

ヂョーヂ夫人。シンジョン樣、これが妾の命令よ。妾、うちの人がお前さんに倦きが來る迄、お前さんを外の女と結婚させる譯に行かないの。

ホツチキス。あゝ、勝手にお前さんの云ふ事なんか聞きたかつたのが惡かつたんだ。（ものいとなるか）

將軍庭から入つて來る。ヂョーヂ夫人將軍に話しかけやうと庭の入口の方へ中途迄出掛けて行く。ホツチキス爐邊に突立つてる。

ヂョーヂ夫人。ずつとどちらにいらつしたんですか。

將軍。先刻の談で少々むしやくしやしたので一寸庭へ出て一服やつた所です。もうすつかりいゝんです。（書齋の戸口の所へノソ〳〵行つて、すぐに大卓の端にある椅子に腰を下ろす。）

ヂョーヂ夫人。一服ですつて！　まあ、其れが氣に入らないつて彼の方が仰言つたぢやありませんか。

將軍。オヤ〳〵。忘れてゐた。どう云ふものか持つて生れた癖の樣になつてしまつて。

レズビヤ塔から入つて來る。

ヂョーヂ夫人。此の方はまた煙草を召し上つてらつしたんですよ。
レズビヤ。鼻で分ります。（爐に近い卓の端へ行つて坐る。）
將軍。レズビヤ様、御免下さい。併し煙草を止めるとあべこべに貴女が最先になつてまた喫めと泣を入れる程、私が陰氣で怒りぽくなるかも知れませんよ。
ヂョーヂ夫人。其りやほんとです。女つて機嫌を取る爲め、良人に種々な惡戯をし込むものです。
シンジョンさん、あつちへお出で、これはお前さんに關係したことぢやないから。
レズビヤ。構ひはしませんよ、シンジョン様。ボツクサーさんの失戀は人に隱すふりをし乍ら隨分長いこと見せびらかして來たんですから。
將軍。ひどいよ、レズビヤ様。あむまり酷い。（氣を惡くして座る。）
レズビヤ。貴郎は下卑てるわ、ボツクサー様。
ホツチキス。どんな風にですか。下卑たことの專門家としてお尋ねします。
レズビヤ。二つあるの、先づ嫁選びが此の中で一番大切なことの樣に喋ることゝ、其れから自制つてものが無いことよ。

將軍。私にはどの女も同じぢやありませんからね。レズビヤさん。
ヂョーヂ夫人。何故皆同じでなくちやならないんですか。女は皆異つてるんです。同じなのは男達ですよ。其れにグランサム樣に男なり女なりのどこが分るんです。此の方は愼みがあり過ぎる位おありぢやありませんか。
レズビヤ。（目を見張り高慢相に頸をしやくり上げ乍ら）失禮ですが、愼みがあるからつて如何して妾に愼みの無い人達程、男や女のことが分らないつて云ふんです。
ヂョーヂ夫人。何故て貴女が愼しんでるから皆が恐がつて貴女の前で大人なしくするんです。ですから皆のほんとの所が如何してお分りになります？　妾をごらん下さい。妾は腕白子でした。兄や姉は相當な酒屋並に立派に育つたんですから、妾だつて末つ子で、一番下の兄よりも十歳も年下で無かつたら同樣立派に育つたんですけど、私の時分には兩親は義務と思つて子供を育てることなんか厭きてしまつて、一生懸命妾を甘やかしたんです。だから妾はお錢が欲しいつてどんなことか、お錢でどんなものが買へるかちつとも知らずに、自分に欲しいものがあると其れが手に入る迄聲一杯に泣わめいたものです。其れからうるさいと思ふと我慢なんかしない

で引掻いたり悪口したりしたものです。失禮ですけど大人におなりになつてから一人前の女の髪毛をむしつたことがありますか、大の男に咬みついたことがありますか。一人前の男や女に口から出任せの悪口雑言をしたことがありますか。

レズビヤ。（嫌忌に身慄ひし乍ら）いゝえ。

ヂョーヂ夫人。所が妾はしたことがあるんです。だから髪毛をむしられると女つてどんな風になるもか分ります。咬み付かれると男つてどんな風になるかも分ります。男にしろ女にしろ其人達のことをほんとに思つた通り云つてやるとどんな風になるか分ります。だから妾の方が貴方より餘計世間を知つてるわけです。

レズビヤ。支那人は人間を千片に切りきざむか、油で煮るかすると、どんな風になるか知つてます。然し其んなこと知つたつて妾には何の役にも立ちません。奥様妾達は多分お互にお附合は出來ますまいよ。妾は劍士の様にいつも身構へてるんですもの。妾はいつも身構へてる人と向合つてるのが好きです。めゝしい人、だらし無い人、シャンと坐つてゐられない人、センチメンタルな人は大嫌ひです。

ヂョーヂ夫人。まあ、センチメンタルなのは貴女の様に身構へてばかりゐちや、此の世の中では何も得る所が無いでせう。攻撃して充分苦しい思ひをして見なくちゃ。

レズビヤ。妾は懸賞試合に出る者ぢやありませんよ。だからキタナイやり方をしなくては手に入らないものなら、そんなもの無くて濟ませます。

ヂョーヂ夫人。左様ですか。皆が貴女の様に利口になつて無くて濟ます様になつたら、別に生甲斐が無くなつてしまふでせう。左様思ひませんか。

將軍。レズビヤ様。貴女の無くても濟みますつてものは欲しくない物のことなんでせう。

レズビヤ。（將軍の頓智に驚いて。）馬鹿な軍人としては大出來ね。ボックサーさん、左様なんです。眞とのことを云へば妾隨分不合理な犧牲を拂つて結婚する程、貴郎を欲しいと思はないんです。所が左様した犧牲を拂はせる爲めに結婚しなくちゃならない様に出來てるんです。妾は此國が最も要求してる様な性質を持つてゐるから一生子無しで通すんです。其れに反對して結婚を拒むだけの力も無ければ、結婚が無限の恥辱だと云ふことを理解するだけの智慧の無い女達が將來の英國を建設するんです。（立ち上つて書齋の方へ歩ゆんで行く。）

將軍。(彼女が自分の前を通りかゝると。)ぢやもう二度とお願はしませんよ。
レズビヤ。有難う。(書齋の入口の前を通つて行く。)
ヂョーヂ夫人。貴女はすつかり此方を思ひ切つたんでせうね。
レズビヤ。エ、、結婚のことだけわね。何卒御遠慮無く。(書齋へ入る。)
將軍兩手に顏を埋める。ヂョーヂ夫人卓をまわつて側へ來る。
ヂョーヂ夫人。(同情して)立派な方ね。其れに外の人に無い樣な綺麗な所もありますわ。
將軍。(すつかりまるつて)あゝ奥樣、添けない。千萬忝じけない。(ヌックと立ち上つて)長年氷の張りつめてた心の泉をとかして呉れました。(彼女の手をキッスする。)御免下さい、有難う
——感情にむせび乍ら再び庭に避難する。)
ヂョーヂ夫人。(勝誇つた樣に後を見送り乍ら)あんな年寄の軍人さんなんかワケ無いでせう。
ホッチキス。もう私に對して不實なことをするんだね。え。
ヂョーヂ夫人。妾は貴郎の持物ぢやありませんよ。左樣思つて呉れては困りますよ。(男の所へ行つて面と向つて。)宜う御座んすか。(男は突然女を抱いてキッスする。)まあ、いけない青二才。も

一度こんなことしてごらん、此椅子を一つ顏にたゝき込んでやるから。(椅子を掴んで身構へる
さあ、今一月逢つて上げないからね。
ホッチキス。(落付いて)今日の晝から御亭主の所へ初見參に上るよ。
ヂョーヂ夫人。今したことをいゝつけたら、うちの人が何と云ふか分るだらう。
ホッチキス。何て云ふのかい。どんなことが云へるかい。
ヂョーヂ夫人。お前さんを家から突き出したら如何する。
ホッキス。如何して其んなことが出來るものか。俺は軍刀で七度決鬪したよ。俺の腕は鐵製なんだ。何を持つて來ても駄目なんだ。骨をくぢいたつてへこたれないんだ。喧嘩なんかすつかり嫌になつたよ、やつたつて恐くも無ければ面白くも無くて、いつも勝つてばかりゐるんだから。お前さんの御亭主は多分どこから見ても普通の男だらう。だから必度俺をひどく恐がるにちがひ無い。然しお前さんの手前もあるし、お前さんの爲も思ひ、下等な人間共の間では左樣するのが本當だとも思つて俺にかゝつて來たら、打負かしてさんざ恥をかゝせてやるだけさ。(一句一句急所をつき乍らだん〳〵に椅子をひつ掴んで取り上げてしまふ。)御亭主を其んな目に逢はせ

るよりも出し抜けのキッスを千度我慢した方がましだらう。

ヂョーヂ夫人。（すつかり愕いて）蝮蛇め！

ホッチキス。ハ、ア、もう參つたらう。其處が女の夫の體面に關する慣例の手ぬかりな所なんだ。夫さへ窘めることが出來れば細君の方はどんなに侮辱したつて大丈夫なんだ。御亭主に云ひつけるなら云ひつけてごらん。俺がキッスを十度したいと思つたら、如何してお前さんに其れが拒げるものか。

ヂョーヂ夫人。手の屆く所へ來てごらん、髮毛を一本殘らずむしり取つてやるから。

ホッチキス。（巧みに女の手首を掴へて）お前さんの手を掴まへたよ。

ヂョーヂ夫人。妾の齒はつかまつてないんだよ。お放しつてば、放さなけりや咬むよ。ほんとに咬むよ。お放しつてば。

ホッチキス。喰切つて呉れ給へ。必度御亭主位美味いから。

ヂョーヂ夫人。畜生！　お放しつてば。いやがる女に腕づくで來るなんで、其れで紳士と云つてるの？

ホッチキス。外の手ではどの道勝目が無いんだもの、自分の得手を出すより外仕方が無いぢやないか。さあ、畫から行つたら歡迎すると約束しなさい。

ヂョーヂ夫人。こんな目に逢はせた直ぐ後で？　殺されたつて嫌だよ。

ホッチキス。御亭主を面白がらせるよ。

ヂョーヂ夫人。うちの人は留守だよ。

ホッチキス。（喫驚して）ぢや二人切りになるのだね。

ヂョーヂ夫人。（男の手がゆるんだので勝誇つた樣に自分の手をひつたくつて。）ホ、、其れで氣が落付いたの？

ホッチキス。（心配相に）何時頃御亭主は家に居るんだね。

ヂョーヂ夫人。うちの人が家に居やうが居まいが、お前さんの知つたことぢやないよ。お前さんが來たら何時だつてかまはない其の面に戸をピシャンとやつてやるから。

ホッチキス。俺に閉め出し食はせる程強い下男はロンドン中にはゐないね。お前さんとても逃げられはしないよ。お前さんが強情張るなら俺は石炭商賣を始めるんだ。而して石炭取引所で御

亭主と知合になつて、甘く取り込んで家へ連れて貰つてお前さんと近付きになるんだ。

ヂョーヂ夫人。うちぢやお前さんに用は無いよ。うちの人だつて妾だつて。(スイと離れて行つて費齋の戸口に近い卓の端に腰を下ろす。)

ホッチキス。(女の後をつけて行つて卓の隅を廻つて隣の椅子に腰を下ろし。)所があるんだ。御亭主には、お前さんの爲めに嗔嘩は出來ないが、俺には出來るのだ。

ヂョーヂ夫人。(振返つて男を正面に見乍ら)この弱い者窘(ハガ)め！　下等な弱い者窘め！

ホッチキス。お前さんには度胸と愛嬌があるし、俺には度胸と拳骨が二つあるんだ。二人者弱い者窘めだらう。ポリーさん。

ヂョーヂ夫人。お前さんの口が劍呑だよ。其れだけでも家へは寄せつけられないわ。

ホッチキス。其んな家ならカルタでこさへた家の樣なものだね。一言御亭主の耳に入れりや——いゝ具合にこれと思ふことを一言云さへすりや——忽ちお前さんの家庭なんかくづれてしまふんだ、

ヂョーヂ夫人。だからお前さんを家に入れる位なら死んぢやつた方がましだわ。

ホッチキス。ぢや必ず明日から石炭屋を始めるんだ。御亭主はお客の機嫌取りだから譯なく俺の手に入るだらう。一ケ月經たぬ内にお前さん所は俺の思ふまゝになるんだ。

ヂョーヂ夫人。(進退谷まつて立ち上り。)お前さん、そんなワナに妾がオメ〳〵かゝると思つてるの。

ホッチキス。お前さんもうかゝてるぢやないか。結婚はワナだよ。お前さんの結婚生活を何とか出來る人なら、お前さんの一生をなんとか出來るのだ。俺にはお前さんを何とでも出來るんだ。

ヂョーヂ夫人。(絶望的に)お前さん、ほんとに其の積なの？

ホッチキス。左樣だ。

ヂョーヂ夫人。(キッパリと)ぢや、妾の結婚生活を打ち破してごらん、而して——

ホッチキス。(飛び上つて)ポリー樣！

ヂョーヂ夫人。お前さんの奴隷になる位なら、どんな不幸な目に逢つたつてかまわないわ。

ホッチキス。何だつて？　御亭主の爲めでもかい。

ヂョーヂ夫人。妾達夫婦の間には幸不幸にかゝはらず操と云ふものがあるにちがひないの。だか

らお前さんやるならやつてごらん。

ホッチキス。(感心し乍ら。)ほんとに其の氣かい、ボリーさん。俺をふるのかい?

ヂョーヂ。も一言何とか云つてごらん、此の手が承知しないよ。(手指をかゞめ乍ら物狂はしげに彼の目前を通つて卓の向ひの端に行く。)

ホッチキス。其れで定まつた。ボリーさん、俺はお前さんを崇拜するよ。私達は生れ乍ら性が合つてるんだ。俺はこれでも紳士だから、お前さんに迷惑かけたり怪我をさせたりしはしないよ。但しお前さんの方で咬みついて來たら眼を黒血斑にしてやらないとも限らないがね、併しこれから一生俺を追拂はないでお呉れ。

ヂョーヂ夫人。しつつこいことすると執事に笏で頭を打ち割らして追拂ふよ。(塔の方へ行かうとする。)

ホッチキス。(卓と樫の箱の間を走つて塔の方へ行つて女の行手を遮ぎり乍ら)行つちやいけない。

ヂョーヂ夫人。(喘ぎ乍ら)行つても行けないつて?

ホッチキス。左様だ。行つてはいけないんだ。も一つお前さんのぬかつてる所を突込まなくちやならない。一體何故監督様に話しかける時にはあんなにお前さんらしくない様子をするんだね。

ヂョーヂ夫人。(非常にドギマギして)お止しよ。其の事は駄目。外の事は何と馬鹿にしたつて勝手だけど、この事だけは大切にしてお呉れ。斷はつとくよ。(男、女の足下に跪く)何をするんだね。お立ちつたら。馬鹿な眞似おしでない。

ホッチキス。ボリー様、跪いてお願ひするから今日の畫から、お前さん所で御亭主に引き合はせてお呉れ。其れから俺はこのまゝ先生が入つて來て二人の有様を見る迄こうしてゐるんだ。左様したら先生がお前さんのことを如何思ふだらうね。

ヂョーヂ夫人。(我を忘れて)火箸は何處だらう。

彼女は爐の所へ走つて行つて火箸を取りホッチキスに對つて行く。ホッチキスは書齋の入口へ逃げる。恰度其時監督が入つて來て偶然二人の間にはさまれ、危く火箸で打たれるのを免かれる。

監督。奥様、此男を打たないで下さい。うちのお客様だから。

ヂョーヂ夫人火箸を投げ捨て手近の椅子にグッタリ掛けてワッと泣き出す。監督側へ行つて慰める様に軽く肩をたゝく。彼女は監督がさわると全身をふるはせる。

監督。さあ、此處は貴女のお友達の家ですよ。如何したんです。

ヂョーヂ夫人。(ホッチキスに書齋を指し乍ら。)お前さんは其方へお入り。此處には用が無いんだから。

ホッチキス。先生、此場のことは奥様に咎は無いんですからね。私が少しお氣にさわつたらしいんです。

監督。たしかに左様らしいね。

ホッチキス書齋に入る。

監督。(非常に親切な態度でヂョーヂ夫人の方に向き乍ら。)氣に觸ることがあつてお氣の毒でした。(彼女の左手に腰を下ろす。)彼の男のことなんか氣に掛けないで下さい。一寸元氣を出し一寸陽氣な心持になり、一寸お祈りしてごらんなさい、其様すりや彼の男なんか笑つてやれます。

ヂョーヂ夫人。御心配無く。其れだけのことはしてますから。あの人も惡いけど妾も惡かつたんです。先生が入つてお出でにならなかつたら、火箸で頭の横小ビンをぴしやつとやつて彼男の行儀を直してやつたんですけど。

監督。奥様、其んな事しちや彼の男を棺の中へ直したかも知れませんよ。左様なると私が大困りでした。うちぢや皆彼の男が好きなんですから。

ヂョーヂ夫人。左様です、私を叱るのは貴方のお役目です。でも妾に其が分らないと思ふんですか。

監督。貴女を叱りはしませんよ。何だからつて貴女を叱るんです。其れに私も火箸でなくちや出來ない議論もあるつてことを承知してますよ。

ヂョーヂ夫人。先生、眞面目になつて下さい。妾はほんとに可笑しな女です。でも貴下と同じ様な苦勞をして來たものです。妾、先生が何年も前に自分で、お仰言つたことを聞きました。

監督。其通りです。其れでも俺は可笑しな監督なんです。お互に可笑しな人達なんだから、滑稽味は神から授かつたものだと云ふことを忘れない様にします。

ヂョーヂ夫人。妾には神から授かつたものだと何んのつてことは分りませんが、馬鹿にされた時には氣が付きます。貴方のお蔭で妾は初めて自分を尊敬することを覺えました。貴方のお蔭で身まゝ氣まゝに横にそれ乍ら無事に過ごして來られたのです。何卒自分で自分のお仰言つたことを反古にしないで頂戴。

監督。俺は教師ぢやない、聞かれゝば道を教へる旅の道連れだけなんです。俺は行く手を指したんです——貴女や私の行く手をね。

ヂョーヂ夫人。(立上つて威嚇せぬばかりにのしかゝつて。)今日は妾、生きた女ですから、貴方が嘘吐者だと分つたら自殺します。

監督。何ですつて！　何が分つたからつて自殺するんですつて！　一段賢しくなつて、其れで一段立派な女になつたから！　何んてつまらない理屈なんだらう。

ヂョーヂ夫人。妾、折々貴下を殺して自分も死なうと思つたことがありますよ。

監督。一體全體何だつて自殺しなくちやならないんです——私のことは兎に角。

ヂョーヂ夫人。天國でお目にかゝる約束を守る爲めです。

監督。(立ち上つて女に面と向つて息も吐かずに)奥様、貴女が無名の手紙の主ですね。

ヂョーヂ夫人。ぢや、妾の手紙を讀んで下すつたんですね。(嬉し相にホッと一息して靜かに坐つて云ふ。)有難う御座います。

監督。(後悔した樣に。)ぢや此處へお呼びして、其の呪を駄目にしちまつたんですね。(再び坐り乍ら。)堪忍して呉れますか。

ヂョーヂ夫人。手紙の主がよもや石炭屋の家内とは分らなかつたでせう。

監督。よもや石炭屋の家内だなんて何故云ふんです。

ヂョーヂ夫人。其れを笑ふ人がたくさんあるんですもの。

監督。クダラナイ人達だ。笑つていゝ所は仲々分らないものですね。

ヂョーヂ夫人。妾だつて立派な貴夫人からの手紙だと思つて頂くつもりは無かつたんです。書いた紙は安物だし、妾には字は書けないんですもの。

監督。私だつて書けないんです。だからそんなこと如何でもなかつたんです。

ヂョーヂ夫人。一つ聞いて頂きたいことがあるんですけど。

監督。ハア？

ヂョーヂ夫人。妾のとこでお宅の知合の方をペテンに掛けはしなかつたのです。あの位の品でなくちや一噸十三志でお願ひは出來なかつたんです。

監督。其りや大切な所ですね。聞かして呉れて有難う。

ヂョーヂ夫人。妾、外にも申上げたいことがあるんですけど、失禮ですが話中誰か此處へ來てゐて頂けないでせうか。(監督立上つて書齋の入口の方に向ふ。)宜しかつたら女の方で無い様に。

(監督心得顔にうなづいて行く。)男の方でも無い様に。

監督。男でも無ければ女でも無い！　奥様私宅にはもう子供は居りませんよ。皆大きくなつて結婚してしまひました。

ヂョーヂ夫人。も一人の坊さんがいゝでせう！。

監督。何ですか。あの墓守りですか。

ヂョーヂ夫人。左様です。彼の人、左様云つたからつて氣に掛けはしなかつたでせう。知らないばかりにあんなことを云つてしまつたんです。

監督。ちつとも。(書齋の戸を開けて呼ぶ。)ソームズ君！　アンソニー君！(ヂョーヂ夫人に)彼男のことは、神父様と云つて下さい。左様呼ばれるのが好きなんですから。(ソームズ書齋の入口に現はれる。アンソニー君、奥様が君に仲間入りして欲しいんださうだ。

ソームズ當惑した様な顔をする。

ヂョーヂ夫人。いゝでせう、父さん。(此の挨拶でソームズの顏色の變り具合が監督の忠告通りにならないのを見て心配相に云ふ。)左様云へつて、お仰言つたでせう。

ソームズ。奥様、私の名は神父アンソニーです。併し何と呼ばれてもかまひません。(入つて來て彼女の前を通つて爐の方へ行く。)

監督。奥様が私に何か聞かせて呉れることがあつて、君に立合つて、貰ひたいんださうだ。

ソームズ。聞きませう。

監督。(彼女の隣の自席に歸つて行つて。)さあ。

ヂョーヂ夫人。先生、貴下は結婚してはいけなかつたのです。

ソームズ。此の女に聖靈が降りしまたよ。先生此女の云ふこと聞いて下さい。

監督。（眞劍に攻撃されてびつくりし乍ら。）私は結婚の危險や障礙や疑惑なんか虚妄だと思つた位、盛んに家内に戀をしたものだから結婚したんです。

ヂョーヂ夫人。左様です、若い者がそんな心持になつてる所を深入りさせるなんか隨分だわ。もう分別がお付きでせうが、今やもめになつたら結婚なさいますか。

監督。私はもう年だから、そんなこと如何でもいゝんでせう。

ヂョーヂ夫人。でも如何でもよかなかつたら如何します。

監督。結婚するでせうね。今のに懲りたと人に思はれると惡いから。

ソームズ。（嚴格に）先生には救よりも奥様の方が大切なんですか。

監督。そりやもう、大に左様だ。君、自分の救のことをやかましく考へてる男に會つたら、自分の品性のことをやかましく考へてる女を捜し出して娶合せ給へ。申分無い夫婦が出來るよ。君に忠告するが結婚したまへ。

ソームズ。（恐れ戰き乍ら）私が！

監督。左様だよ。君がさ。左様した方がどんなに君の爲だか考へて見給へ。結婚すりや妻君の爲

を思つて我を棄てゝ一生懸命に金を大事にして、なまけと氣儘から金なんか要らないと云つた顔をすることが無くなるし、妻君の爲を思つて同じ様に昇進がしたくなるさ。其れから又、自分の健康や外觀や友達交際や、其他男の立身出世に大切なことには、皆氣をつける様になつて救なんてことにくよ〳〵しなくなるよ。

ソームズ。要するに一大罪惡を犯した爲めに總ての罪惡を大切にしなくちやならないんでせう。

監督。アンソニー上人様だ。奥様、此男を誘惑して下さい。此男を。

ヂョーヂ夫人。（立ち上がつて變な風に前を見乍ら。）先生、御注意なさいまし。貴下には未だに妾に云ふことをきかせる力が有ります。其れから墓守さん虚つぽな胸に要心なさいよ。

監督。左様だ。自然は眞空體を嫌ふんだ。アンソニー君。私は虚つぽな胸を抱いてむやみにぶらつかないよ。そりやそんなことしたら最初に出會した娘が氣壓の具合だけで胸に飛び込んで奥るからね。家内が入つてるお蔭で、今ん所入つて來ないんだ。奥様には分つてる。

ヂョーヂ夫人。（かすかな痙攣が波の様に表面を一過して）妾にはどちらの方もよく分ります。一人の方は未だ初戀がお濟みにならないし、今一人の方は未だ其處迄も行つてないんです。所が

妾は――妾は――（よろ〳〵として再び痙攣する。）

監督。（倒れんとするを支へ乍ら。）如何したんです。具合が悪いんですか。（夫人の椅子の所へ連れ戻す。）ソームズ君、書齋に水を入れた壜がある――大急ぎ。（ソームズ急いで書齋の戸口の方へ行く。）

ヂョーヂ夫人。いけません。ソームズ立止る。人を呼んではいけません。誰も連れて來てはいけません。何か聞えやしませんか。

監督。別に變つたことは無いね。（夫人の側に坐つて烈しい驚異と興味を以て見守つてゐる。）

ヂョーヂ夫人。音樂も？

ソームズ。イヽエ。（コツソリ卓の端の所へやつて、等しく興味にかられて夫人の右側に坐る。）

ヂョーヂ夫人。何にも見えませんか――大きな光も？

監督。貴女は未だ暗闇の中を歩いてますね。

ヂョーヂ夫人。貴下の手を妾の額にあてゝごらんなさい。指環をはめてる方の手です。（監督其通りにする。夫人目を閉ぢる。）

ソームズ。（聖靈に感じて豫言する。）昔、石炭商の妻なる一人の婦ありけるが、大なる罪人にして――

監督びつくりして手を離す。ヂョーヂ夫人生き〳〵と目を開いてソームズの言葉を遮る。

ヂョーヂ夫人。アンソニー様。貴下の豫言は間違つてますよ。妾がこれ迄したことは皆左樣しなくちやならない約束事であつたんです。（一層物靜かに。）妾はこれ迄自分の思ふ通りやつてきました。自分自身が恐くもありませんでした。而して遂々自分自身からのがれて、語ることを恐る〳〵人達の聲となり、人知れずなやみな胸の叫となりました。

ソームズ。（小聲で。）聖靈に感じましたか。

監督。不思議だ。シッ。

ヂョーヂ夫人。妾は物云ふ權利を得ましたので申上げますが、妾は思切つてやつて、やりぬいて、凋んで火の中へ落ちることも無く、やう〳〵脱け出して幸運の後の來たのですか。

監督。其れから幸福の後には何があります？

ソームズ。（戦ゐた聲に。）貴女のたよりを聞かせて下さい。

ヂョーヂ夫人。（悲し氣な俣を強く含んで。）愛して下すつた折には、妾は日月星辰全體を捧げて貴郎の弄ぶに任せました。妾は一瞬間に永遠を、一度貴郎に抱かれると山の如き力を、一度貴郎の靈魂の感激にふれると大海の如き知識を貴郎に與へました。たつた一瞬ではあつたが、其れでたりませんか。其れだけで一生此地上で苦しむだけの報はあつたのぢやありませんか。其上貴郎の着物を繕つたり家の床を掃除しなくちやならないんですか。妾は懸値無しにするだけのことはしました。しりごみせずに子供を生みました。だからと云つて後から〳〵と重荷を負はせるんですか。妾は子供を抱いて歩きました。其子の父親迄も抱いて歩かなくちやならないんですか。妾が天國の門を開いた時、貴郎は盲であつたんですか。貴郎には何でもなかつたんですか。總ての星が貴郎の耳に歌ひ、總ての風が貴郎を天國の眞只中に運んで行つた時、貴郎は聾だつたんですか、ぼんやりだつたんですか、其れとも犬が骨を貰つた位にしか妾を思つてゐなかつたんですか。其れでたりなかつたんですか。妾達は永遠の生命に生きたのに、貴郎は少し生かしといて呉れと云ひます。一人で全宇宙を所有してゐるのに貴郎は妾の僅かばかりの工賃もよこせと云ひます。妾は貴郎に何よりも一番大切なものを上げたのに貴郎はくだらないものをよこせと云ひます。妾は貴郎に貴郎御自身の靈魂を上げたのに、妾の體を玩弄物にさせろと云ひます。其れでたりないんですか。其れでたりないんですか。

ソームズ。先生、これがお分りですか？

監督。君より一日の長があるんだ。家内のお蔭でね。（ヂョーヂ夫人の手を取つて。）貴女の手は非常に冷めたい。此の世中へ戻つて來られますか。私が誰か、貴女が誰だか思ひ出せますか。

ヂョーヂ夫人。妾には其れで澤山だつたのです。逢つて——手を觸れて下さいとはお願ひしませんでした——（監督すばやく彼女の手を放す。）數年前貴郎が說教壇から私の靈魂に物を云つて下すつた時に救の戸は妾の爲めに開かれ、今はもう永遠に開かれてゐます。其れで充分です。妾は其れ以來何にも要求しませんでした。今も何にも要求して居りません。妾は生きて來ました。其れで充分です。妾は賃銀を貰ひました、だから働くばかりです。其れで貴郎は妾より仕合せです。何故つて妾が男達に左樣してやつても有難がられもせず感謝もされません。妾は男達の餌食です。男達は落付いてゐられない程愛するくせにまた容赦無く厭氣を出すんです。

監督。奥樣。男は此の通りのものと思つて下さい。

ソームズ。其れはいけません。良くなれるものと思つて下さい。

ヂョーヂ夫人。妾をこの通りの人間と思つて下さい。其れ以上お願は御座いません。(頭を書齋の入口の方へ向けて呼ぶ。)ハイお入りお入り。

ホッチキス書齋からソッと入つて來る。

ホッチキス。お願ひですから敎へて下さい、私は夢を見てるのぢやないでせうか。あちらで私は此の奥樣が世にも不思議なことを云ふを聞きましたが、貴下方のはどちらのも一言も聞えませんでした。

ソームズ。先生これは惡魔が魅つたのでせうか。

監督。其れとも聖者の法悅だらうか。

ホッキス。其れとも祭壇の上の巫女のひきつけでせうか。

監督。三つが一緒になつてるんぢやないかしら。

ヂョーヂ夫人。(惱まされて。)皆樣つまらない問題で妾を苦しめたり疲らせたりしますね。而して妾をもとへ引き戻してお定りの聖者だの惡魔だの夢で妾を苦しめます、アノ——其れは何の

ことです——(其の意味を測らうとつとめ乍ら)巫女——巫女——(斷念して)妾には解りません。妾は女で貴郎方と同じ人間なんです。妾を此通りの人間と思つて下さらないんですか。

ソームズ。思つてますよ。併し連れて行つて燒殺しませうか。

監督。其れとも聖徒の列に入れませうか。

ホッチキス。(陽氣に)其れとも何でも無い只の人間としませうか。(すばやく監督に眼を覺ませなくちやいけません、危險です。(大聲出して夫人に)貴女はアンソニー樣の惡魔で、先生の聖者で、私の崇拜するボリー樣になつたらいゝでせう。(こつそり女の後へ廻つて膝の上から手をつまみ上げ肩越しにキッスする。)

ヂョーヂ夫人。(目を覺し乍ら。)そりや何ですか。妾の手にキッスしたのはどなた?(監督に對して熱心に。)先生で御座いましたか。

(監督頭を振る。彼女は恥しくなつて。)御免下さい。

監督。少しもそんなことはありませんよ。左樣させて頂ければ結構なんです。御免下さい。(彼女の手にキッスする。)

ヂョーデ夫人。有難う御座います。ぢや前のは墓守さんでせう。

ソームズ。私が！

ホッチキス。ボリー様、其れはいつも變り無く忠實な此の私のしたことなんですよ。

ヂョーヂ夫人。（振り返つてホッチキスを見て。）こんどやつたら最後だよ。お前さんどうして此處へ入つて來たの。出て行つて貰つた筈だのに。（すつかり元通りになつて勢よく。）一體どんなことがあつたんです。

ホッチキス。お前さんがひきつけて仲々愛嬌よくおしやべりしてゐたことだけしか思ひ出せないね。

ヂョーヂ夫人。（喜んで）何ですつて。妾の千里眼ですか。（監督に）あゝ、妾どんなに祈つたことでせう、若しや先生にお逢する樣なことがあつたら、其れが出來る樣につて。而したら愈々出來てたんですわね。素敵ですわね。妾の云つたことは一々其通りに信じて下すつていゝんです。私にはもう思ひ出せませんが、何だから物を云はうとしてはち切れ相になつてるものが妾をつかまへて云はせたんです。左樣云ふ始末なんです。

エヂスとセシル・サイクス塔から入つて來る。リオが其れに續く。三人は一緒に外にゐたらしい。サイクス不自然な樣子で半は馬鹿者らしく半ば道樂者らしく恰も自尊心をすつかり捨てゝ、而も其んなことにくよ〳〵すまいと決心したと云ふ風に爐近の卓の椅子に身を投げ、エヂスの腰を掛けるのを待たずにホガースの『道樂者』の繪の樣に兩手をポケットに突込む。リオは卓の長目な側で一番塔に近い椅子に座つて唇をすぼめて思案してゐる。

監督。戸外にゐたの？

エヂス、エヽ。

監督。セシル君と？

エヂス。エヽ。

監督。ぢや折合がついたんだね？

無返事、生氣なき沈默。

サイクス。エヂスさん。貴女が話した方がいゝ。

エヂス。貴方が仰言いよ。

將軍庭から入つて來る。

將軍。（卓の所へ進み出て。）誰か煙草を少し吳れませんか。自分のをすつかり喫み盡したんだが、未だ氣持が落付ないで困つてます。

監督。一寸待つて〻吳れ、ポッタサー。セシル君が何か大切なことを聞かせて吳れるさうだから。

サイクス。もう濟みました。其れだけです。

ポッチキス。何が濟んだのだい、セシル。

サイクス。フム。何だと思ふ。

エヂス。勿論、結婚しちまつたんです。

將軍。結婚したー　誰が親になつたんだ。

サイクス。（塔の方へ頭を動かして）其の紳士です。（皆に解らないのを見て四方を見廻はすが誰もゐないのを見て。）あ〻、私達と一緒に入つて來たと思つたもんですから。多分其人は階下へ降りたんでせう。執事さんですよ。

將軍。執事ー　一體何だつて彼男がしたんだ。

サイクス。エー、私は知りません。私はあの人と何にも約束しなかつたんですから。（ヂョーヂ夫人）彼人にいくら上げたらい〻でせう。

ヂョーヂ夫人。五志です。（監督に）先生、妾しばらく休みたう御座います、そこの先生の書齋で。妾、此處で見たんです。（自分の額に觸る。）

監督。（書齋の戸を開けてやり乍ら。）何卒。邪魔になつたら兄を外へ出して下さい。ソームズ君。手紙類を外へ出し給へ。

サイクス。彼の人は其れを上げたら腹を立てるでせうか。

ヂョーヂ夫人。左樣なことありませんよ。彼人は一回四片づ〻で筋をあて〻子供等のたむしを療すんですもの。（書齋に入る。ソームズ其れにつゞく。）

將軍。ネエ、エヂスや。叔父樣は少々失望したね、どうして。然し乍ら公の禮服を着た人がやつたのなら嬉しいよ。

夫人とレズビヤ塔から入つて來る。ブリッヂノース夫人監督の方へ行く。監督も彼女の方へ行く。而して二人は樫の箱近くで會ふ。レズビヤ、サイクスとエヂスの間に入る。

監督。此人達は結婚したよ。

夫人。(落着いて)あゝ、左様でしたか、宜うございました。コリンスに知らせた方がいゝでせう。

ソームズ自分の書き道具を持つて書齋から歸つて來て、一番手近な卓の端に向つて坐つて仕事をつゞける。ホッチキス卓の隅の所を廻つて行つて其の隣に背中を向けて坐る。

レスビヤ。兩方で讓合にしたの?

エズス。ちつとも。私達は何もかも用意してかゝつたんですもの。

ソームズ。どんな風に!

エヂス。教會へ行く前に保險會社の事務所へ行つたの——何て名前でしたね、貴郎。

サイクス。英國家族保險會社。其處へ行けば貧乏な親類や家族の樣な不時の出來事に對して保險して呉れますよ。

エヂス。其處では此人が姿故に誹毀の訴訟を受けた場合の保險を承知して呉れました。其れに妾が監督の娘ですから掛金を特別安くして呉れるでせう。

サイクス。其れから私はエヂス樣に、若し私が萬一犯罪を冒したら一人の證人の見てる所でエヂス樣を毆り倒し、別な婦人を連れて溫泉場へ行くと神がけて誓つたんです。

レズビヤ。何もかも用意して掛つたつて其れなの。(庭の側の卓の中央に立つて坐る。)

リオ。倒される前に蟲がゐるか如何かよく見とかせた方が宜いわ、エヂスさん。うちの人は何處でせう。

レヂナルド。(書齋から入つて來て。)此處にゐるよ。如何したんだ。

リオ。(飛び上がつて外見も無く良人の方へ走つて行つて。)如何したんだつて! 聞くのがあたり前よ。エヂス樣とセシル樣が保險會社の事務室にゐる間に、妾タキシーに乘つて貴郎の下宿へ行つたの、而したら何もかもめちや〳〵になつてるぢやありませんか。貴郎の衣物なんか見るも恥しい樣な有樣なんだし。貴郎の腹卷は雜布の樣になつてるですもの。貴方を一人で置く位なら當歳の赤兒を一人で置いた方がましだわ。

レヂナルド。其んなに世話を燒いたりなんかして面倒な思ひさせて貰はなくていゝんだよ。差支無いんだから。

リオ。左様ぢやありません。外聞が悪いぢやありませんか。妾の面汚しになることはちつとも考へ無いで自分のことはかう考へてるんですもの。一緒に家へお歸へりなさいよ、ちやんとして上げますから、貴郎に豚の様な生活をさせては妾の良心が承知しません。(良人のネクタイを直す。)貴郎は妾がセント・ジョンと結婚する迄一緒にゐらつしやい、結婚したなら養子になるなり何なりして上げます。

レヂナルド。(彼女から放れホッチキスの前を足音高く通つて爐の所へ行く。)嫌だよ。ホッチキスの養子になるなんか眞平だよ。よけりやお前が此男を養子にしたらいゝぢやないか。

ホッチキス。(立上つて)リオ様、其れが一段とよい計畫の様ですね。私は貴女に白狀しなくちやなりません。私は貴女が思つてる様な人間でありません。貴女の御主人に對する苦情は趣味の低級な點でしたね。

レヂナルド。(振り返つて)オヤ〳〵、左様かい?

リオ。妾はだらしが無いと云つた人です。法廷であの女を見る迄はうちの人の趣味がほんとに低級だとは思ひませんでした。どうして選りもよつてあんな女を見付けて、後になつても手紙を

貰つたり——

レヂナルド。これは怪しからん。俺は決して——

ホッチキス。勿論そんなことしやしませんよ。リオさん、つまらないことはお止しなさい。ほんとに趣味の低級なのは私なんです。

リオ。貴郎が!

ホッチキス。私は石炭屋のお神さんに戀してゐます。其の女を崇拜してゐます。一總(ふさ)の貴女の髪毛より貴女の一本の靴紐の方が有難い位です。(腕を組んで岩の様に立つてる。)

レヂナルド。此の悪黨め、よくも俺の見てる所で俺の家内に寢返り打ちやがつたな。(將に打つ掛らうとする形勢になつた時、リオが間に入つてレヂナルドを引ぱつて書齋の入口の方へ行く。)

リオ。貴郎、あの男なんか打つちやつときなさいよ。直ぐに行つてあのいやな離婚判決書を破棄するなり取消すなり何なりとして頂戴。裁判長のサー・ゴレルバーネスに妾が心を變へたと申上げて下さい。(ホッチキスに)本當の紳士にしては貴郎は智慧が廻り過ぎてるのに氣が付かなかつたのが妾の不覺よ。(レヂナルドを樫の箱の所へ連れて行つて其處に坐らせる。レヂナルド

クス〳〵笑ふ。ホッチキスもとの席に歸つて思案する。）

監督。總ての問題がひとりで解決して行く樣だね。

レズビヤ。妾のは例外よ。

將軍。でもレズビヤ樣、貴女は今日の事を見たでせう。（少し側へ寄つて女の顏の方へ自分の顏をかしげ乍ら。）お尋ねしますがね、其れを見たら結婚しないことの馬鹿らしさが分つたでせう。

レズビヤ。イヽエ、分つたとは云はれませんよ。其れから（立上つて）貴郎はまた煙草を喫つてらつしたのね。

將軍。貴女の故ですよ。レズビヤ樣。喫はないでゐられないんです。

レズビヤ。（椅子を前にして其の背に手をのせて嬉しさうな顏をし乍ら）まあ、今日は貴郎を叱らないことにします。今が今、妾特別にいゝ氣持でゐるんですもの。

將軍。其のわけを聞かして下さいませんか。

レズビヤ。（大きな息を一つついて。）今朝あんなに危い所が澤山あつたのに、未だに未婚の儘で未だに獨立で、未だに自分自身の主人で、未だに老英國の光輝ある心強い老孃でゐるかと思ふ

と嬉しいの。

ソームズ無言の儘突立つて自分の居所から手を長く延ばして、卓越しにレズビヤに握手する。

將軍。自分自身の主人になつてることがほんとに幸福なんですか。外の人のものになつた方が應揚ぢやないでせうか——貴女として幸福でないでせうか——

レズビヤ。ボックサーさんてば、

將軍。（びつくりして立上り。）いや、いや、レズビヤさん、私は其の言葉を惡い意味で使つたので無いつてことを承知して呉れなくちや困ります。私は運惡くよく言葉を間違ひますが、私の云ふ意味はお分りになつてるでせう。貴女は私の妻になつた方が必度一段と幸福になれさうですぜ。

レズビヤ。妾も左樣だと思ひます、だらしない行き方からすればね、でも妾は寧ろ自分の尊嚴と自分の獨立を選びます。妾、そんなに幸福を熱望するのは下品に思はれるんですもの。

將軍。ぢやよう御座います。二度とお願ひしませんから。（立腹した樣に坐る。）

レズビヤ。またするかも知れませんが、しても駄目ですよ。(彼女もまた坐つて殆どいたわる様に男の手の上に自分の手をのせる。)いつか貴郎とお友達になりたいと思ひます。而したらお互に隨分睦しくなれると思ひます。

將軍。(再びびつくりして立ち上り乍ら。)あゝ、レズビヤ様、貴女は隨分ひどいですね。此儘此處に居れば私は恥をかくばかりです。姉様、暫く庭へ出てもいゝでせう。

コリンス。(塔の中に現はれて。)奥様、何もかも出來上りまして御座います。

將軍。(コリンスの所へ行つて。)あゝ、ついでに一つお願があるんだが——(後の言葉は小聲で分らない。)

コリンス。承知致しました。(煙草入を取り出して將軍に渡す。將軍は其れを受取つて庭に入る。)

レズビヤ。英國は廣いですが、煙草を愛する程自分の妻を愛する男は一人もゐないでせうね。

監督。それはさうと、お客様達は如何したらうね。

サイクス。私は知りません。私達が結婚した折には坐席番と式を司つた牧師補の外、人つ子一人居りませんでした。

エヂス。皆家へ歸つたんです。

夫人。でも待女郎達は?

コリンス。わつちと執事が自動車二臺でそこいら中まわつて皆集めたので御座います。皆お二人の衣裳を見て大變がつかりして變則だと思つてゐましたが、御馳走によばれる事は承諾しました。本當の所を申上げますと皆如何してあんなことになつたかとしきりと知りたがつてゐました。オルガン彈手はオルガンがすり切れる程彈き續け、自分もオルガン以上に疲れ切つてしまひました。彼人から特別に旦那様にことづかつて來ましたが、彼人はギリ〳〵つて所までメンデルゾーンを彈かないでゐたさうですが、愈々其れも彈いてしまふと自分も家へ歸つた方がいいと思つて、國歌を彈いて會衆を歸してしまつたんですつて。其れで辯解かた〳〵御馳走の席には上がらないさうです。

リオ。コリンスさん忘れないで頂戴。妾が主人に別れるの、妾とホッチキスさんとの間に何があるの、あつたつて噂は丸きり嘘なんですからね。

コリンス。へエ、へエ。そんなことはもう分り切つてゐます。(夫人に)こちらへお通ししませう

か、其れとも廣間の方にしませうか。

夫人。廣間にします。貴郎。貴郎とボックサーさんがあちらへいらつしつて、妾達が行く迄早く來たお客様のお相手をしてゐて頂戴。妾達、エヂスに衣裳を着せなくちやなりませんから、さあ、レズビヤやお出、リオさんお出、皆で手傳つてやらなくちやなりません。さあ、エヂスや

（レズビヤ、リオ、及びエヂス塔から出て行く。）コリンスや、お嬢様の仕度が出來上つたらヴエールや何か着た所を一わたりながめてそれでいゝか如何か注意してお呉れ。

コリンス。宜しう御座います。レズビヤ様のことを何とか吹聽致しませうか。

夫人。いゝえ。彼の子は將軍の所へゆかないんですもの。もしそれが最後だと思つて宜ささうよ。

コリンス。惜しいことで御座いますな、あつたら立派な方を廢れ者にしてしまひまして。（兩人とも悲しさうに頭を振る。夫人は塔から出て行く。）

監督。コリンス、俺はこれから接待に廣間へ行くよ。兄様、ボックサーの所へ行つて左様云つて二人で來て無駄話のお手傳をして下さい。セシル君、お出で。（サイクスを從へて塔から出て行

く。）

レヂナルド。（ホツチキスに）君は紳士らしく振舞ふなんて始終減法大きなことを云つてたね。併しリオに對して紳士らしく振舞つたなぞと考へると誤つてるぜ。其れにこれから俺はリオの肩を持たなくちやならなくなるんだから其處を忘れない様に。

ホツチキス。分りました。これから貴方のとこへは出入差止めですね。

レヂナルド。（すばやく）そんなことは無いよ。狼狽てちやいけない。少し經つたら來て貰ひたいものだね。あいつは誰か家を賑はす者が無いとやきもきして困るんだ。

ホツチキス。出來るだけやりませう。

レヂナルド。（安堵して）其れでいゝ。君、別段氣にかけ無いだらうね。

ホツチキス。これも運命です。私は石炭に手をつけたんです。で私の手は眞黑になつたが、併し汚れてはゐません。左様ならレヂナルド様。（兩人握手する。レヂナルド、ボックサーを呼戻しに庭に行く。）

コリンス。失禮で御座いますが、お座敷へお通りになりますか。お仕度の上へお名前がのせて御

座いますが、若しいらつしやるので無かつたらお變へしたいと存じまして。

ホツチキス。どうも自分では分らないんだ。もう自分の運命を自分の手で、どうかう出來ないんだ。行つて命令する女に聞いて呉れ。

コリンス。（畏縮して）ヂョーヂの家内が貴方に參つたんですか。

ホツチキス。其れならいゝんだけど。其れ所ぢやないんだ。其れ所ぢやないんだ。俺があの人に參つたんだ。

コリンス。氣を落すことは御座いません。ヂョーヂさへ貴方のお話が氣に入れば、あそこの家が必然愉快になります。レヂナルドさんのお宅よりも必然陽氣でせう。

ホツチキス。（呼ぶ）ボリーさん。

コリンス。（早速）あゝ、もうボリーつて所迄、來てるとすると合格したんですね。

ヂョーヂ夫人書齋の入口に現はれる。

ホツチキス。兄さんが私がお座數へ出るのか如何か知りたいんだつて。

ヂョーヂ夫人。ビルさん、此人は大人しくしさへすりや居てもいゝんだよ。

ホツチキス。（コリンスに）一族の友人として、私に君をビルさんと呼ばして貰へまいか。

コリンス。宜しう御座んすとも。何卒。

ホツチキス。私のとこでは私のことをソニーつて呼ぶんだ。

ヂョーヂ夫人。何故さきに其れを言はなかつたの？　ソニーつてのは恰度妾がお前さんにつけたいと思つてた名なんですよ。（なれ〳〵しくホツチキスの頰を撫でる。ホツチキス、ツィと立上つて爐の方へ行つて不機嫌に手摺付の椅意へ身を投げる。）ビル様、妾はね、妾が出るに恰度い加減位、人數が集る迄出ませんよ。いゝ加減集つたと思つたら執事を迎によこしてお呉れ。

コリンス。宜しう御座います。（塔から出て行く。）

ヂョーヂ夫人、ホツチキスとソームズだけになると、突然ソームズの肩に手をかけてのしかゝる。

ヂョーヂ夫人。貴郎を誘惑しろつて先生が仰言いましたわ、アンソニーさん。

ソームズ。（振向きもしないで。）女よ退け。

ヂョーヂ夫人。アンソニー様。

はたのお方が心に口に
好いた惚れたの物語

ホッチキス。（嘲弄的に）。
つのる思ひをとつくりと
互に語る其の折は。

ヂョーヂ夫人。
うつろな心は假面掛けて〻も
見ればしんきになりませう。
其んな折にお願だから
思ひ出しやんせ此のわたし。
忘れないでね、アンソニーさん。妾、貴郎に呪かけて上げるわ。

ソームズ。苟も聖母歌を歌ひ、女神を禮拜した人間が、そんなくだらない歌に耳傾けたり、お前さんの樣なくだらない人間に目を向けたりすると思ふか——すれば只お前さんの小さな可哀想

な靈魂の樣子を見るだけだよ。さつさと家へ歸つて自分の務を果しなさい。

ヂョーヂ夫人。（其の勇氣を大に嘉みして）アンソニー樣、妾、貴郎をお父樣にしたいわ。冗談ぢやありませんよ。妾、近所の町の變な女にひつか〻つたことの無い樣な男に出逢したら、もう一生離しやしないわ。（心をこめてソームズの背中を小づく。）

ソームズ。もう澤山。お前さんには話相手が別に有るぢやありませんか。私は忙しいから御免。

ヂョーヂ夫人。（ソームズから離れて一二歩ホッチキスに近づいて。）何故貴郎はあの人の樣ぢやないの？　何故隣町の變な女なんかにいつか〻るの？

ホッチキス。（考深く）私はビリターに謝罪しなくちやならない。

ヂョーヂ夫人。ビリターつて誰れ？

ホッチキス。匙でライスプディングを食べる男です。私は貴女にお目に掛つて以來匙ライスプディングを食べてるんです。（立ち上る）皆匙でライスプディングを食べるんだね、ソームズ君。

ソームズ。お互樣だから私に聞く必要は無い。第一、私は忙しいし、第二には、そんなことは皆教會問答の中にあります。其れを見ると近頃世間でやかましく云ふ新發見は大概のつてるます。

勿論貴下はピリターに謝罪しなくちやなりません。あの人は貴下と同等の人なんですから、大人しくすれば同じ天國へ行けるし、しなければ同じ地獄へ落ちるんです。

ヂョーヂ夫人。(坐り乍ら)うちの石炭屋さんも同じだわね。

ホッチキス。此世の中で私の方が貴女の旦那より優れて居れば天國へ行つても地獄へ行つても私の方が優れるでせう。平等と云ふことはもつと深い所にあるんです。石炭屋さんと私が同じ女を戀する。其れで此の問題が私にとつて永久に解決するんです。(深い思に沈み乍らウロ〳〵と臺所をぬけて庭の入口の所へ行く。)

ソームズ。チョッー

ヂョーヂ夫人。アンソニーさん。貴郎は女を信じないでせう。此の人はそんなこと云ふより二人共魚のフライが好きだと云つたらいゝでせうにね。

ホッチキス。私は魚のフライは嫌ひだ。卑しいことは云はないで下さい。

ソームズ。お前さん。不信心だと云つて私を責める氣になつてはいない。ホッチキス君、此人が魚のフライのことを云つたからつて此人を賤しめてはいけません。キリストの奇蹟の網にかゝ

つた魚の内にもフライになつたのがあります。其れで私は金曜日毎に魚のフライを食べる、而して旨いと思ふ。貴方のでも紳風は不相變ぬけませんね。

ホッチキス。(もどかし氣に)アンソニー君。君はほんに可笑しな牧師様だね。何故つて君は始終所の名前だの本の名前だの證據になる出來事なんかを聞かせて呉れるが、此方は其んなことを事實だと信じてやしませんぜ。私の信ずるのは只、自分の意志と自分の誇と名譽だけなんです。君の云ふ魚や問答なんかは君は信仰と稱してゐるが、美しい詩なんだね、君は其れで立派な人間になれるが、其れは私には向かない。私はナポレオンの様にマホメット教が好きになり出したんだ。(ヂョーヂ夫人、マホメット教と一夫多妻主義を聯想してチラと疑惑の目を以て彼を見る。)私の信ずる所によると大英帝國は此世紀の末期に先立つてマホメット教の改革したものを採用するにちがひ無い。マホメットの性格は私に合つてる。私は彼を崇拜し大體彼と人生觀を同じうしてゐるんだ。そら、參つたらう。宗教は偉大な力だ——此世界で人を動かす唯一の實在力が。併し君達には、人を理解するには其人自身の宗教によるべきもので、君達自身の宗教によるべきもので無いと云ふことが分らないんだ。君達は左様した事實に直面せずに總ての人間

を君達の小さな宗派に改宗させ、やがて其れを利用して人を落し入れやうと頑張つてるのだ。君達宣教師や改宗者達は近所の花壇の生ひ拔きの宗教を根こぎにして其の後へ自分の宗教を植ゑつけやうとしてるんだ。君達は子供を無知の儘死なせても反對の宗派の教を受けさせるよりはいゝと思つてるだらう。君達は石炭商と帝國軍人の根本的に同等なる所以を人に聞かせることは出來ても、總ての宗教が根本的に同等なことが分らないんだ。そも〳〵マホメットや孔子にや其の他世界始つて以來、其の方面に活動した人達以上に自から悟れりとしてる君達は何者だ。

ヂョーヂ夫人。（其の雄辯に感心して。）貴郎ならうちの人の氣に入るでせう。うちの人の教會のことを云ふのを是非聞いて頂戴。

ソームズ。宜しい、兩人共滅亡に行きなさるがいゝ。私に取つては宗教は一つしか無い。其れは卽ち私の靈魂が正しいと悟つたものである。然し乍ら無宗教にも一つの教義がある。其れは卽ち結婚の神聖つてことだ。お二人は今や恐ろしい罪惡の緣に瀕してる。左樣で無いと云はれますか。

ホッチキス。アンソニー君。君、忘れてる所があるね。君に云はせる結婚其自體が罪惡だよ。

ソームズ。今問題になつてるのは私の信念で無くて貴下の信念ですよ。さあ、私と一緒に僧侶の誓を立てゝ、若し力と光明があるなら此の女を思切りなさい。其れでも未だ此の世の絆が斷ち難いと云ふなら、此の世の中の制度を尊敬しなさい。結婚を良いものだと信じますか、信ぜませんか。

ホッチキス。私の心はそんな迷信なんかとは一向關係無い。嚴格に宣言しとくが、君が失敬にも此の女と呼ぶ此の方と私の間には良心の命に從つて尊重しなくちゃならない樣な障壁は無いんだ。私はもうどつちから見ても中流階級の結婚道德全體がホト〳〵嫌になつた。

これぢや假に十八世紀の侯爵殿に生れ變つた所で、現在ボリーさんに對して感じてる以上に巴里の町女房に對して打とけられやしない。所謂家庭の純潔なんて奴は心の狹い我儘な色ぼい女房大切な下司根性のドン底だと輕蔑するね。

ヂョーヂ夫人。（早速立ち上つて。）あゝ左樣ですか。ぢやお前さん一緒に私家へ來ちやいけませんよ。お氣の毒ですけど其の話を聞くと、後にも先にも只一度妾の結婚指環を見てもびくともしない男に出會したことを思ひ出しますから。妾の捜してるのはお友達でフランスの侯爵ぢ